

令和7年度入学生用
1年次（令和7年度開講）

履 修 要 項

(*syllabus*)

生 活 科 学 科

生 活 福 祉 専 攻
食 物 栄 養 学 専 攻

鹿児島女子短期大学
Kagoshima Women's College

令和7年度入学生 教育課程

別表 第2 生活科学科 生活福祉専攻教育課程表

区分	ページ番号	授 業 科 目	授業形態	履修方法		開 講 学 期 単 位 数				備 考		
				卒業履修単 位 数	必修	選択	1前	1後	2前		2後	
一 般 教 養 科 目		わたしを知る・わたしを創る										
		心と思想の探求(人間の心に迫り人間を知る)										
	13	日本語表現の基礎	講 義		2	2	2					
	15	倫 理 学 ★	講 義		2	2	2			介護福祉士選択必修(人間と社会領域)		
	17	心 理 学	講 義		2	2	2					
		健康の探求(健康な心と体をつくる)										
		体 育 講 義	講 義		1					1		
		体 育 実 技	実 技		1					1		
		社会を知る・社会につながる										
		社会の探求(社会に目を向ける)										
	19	社 会 学	講 義		2	2	2					
	21	日本国憲法	講 義		2	2	2					
	23	歴 史 学	講 義		2	2	2					
		WE LOVE 鹿児島！	演 習	1						1		
	25	総合教養Ⅰ	講 義		2	2						
	27	総合教養Ⅱ	講 義		2		2					
	29	AI社会論 ○	講 義		2	2	2			デジタル教育プログラム選択必修		
		キャリアの探求(職業を考え人生を設計する)										
	31	キャリアガイダンスⅠ	演 習	1			1					
		キャリアガイダンスⅡ	演 習	1					1			
		世界を知る・世界を広げる										
		異文化の探求(海外に目を向ける)										
	35	海 外 事 情	演 習		2		2			海外研修		
	37	公共人類学★	講 義		2	2	2			介護福祉士選択必修(人間と社会領域)		
	39	英語の文学とメディア	講 義		2	2	2					
	41	アメリカ文学	講 義		2	2	2					
	43	英語演習Ⅰ	演 習	2		2				英 語・中国語・韓国語・日本語 演習のいずれかのⅠ・Ⅱを連続選択履修		
	47	中国語演習Ⅰ	演 習			2						
	49	韓国語演習Ⅰ	演 習			2						
	55	日本語演習Ⅰ	演 習			2						
	57	英語演習Ⅱ	演 習	2			2					
	61	中国語演習Ⅱ	演 習				2					
	63	韓国語演習Ⅱ	演 習				2					
	69	日本語演習Ⅱ	演 習				2					
		自然界の探求(いろいろな世界に目を向ける)										
	71	数 学 基 礎 ★	講 義		2	2	2					介護福祉士選択必修(人間と社会領域)
	73	理 科 基 礎	講 義		2	2	2					
	75	分子からみた生物	講 義		2	2	2					
	77	SDGs論	演 習		2		2					
	79	データサイエンス概論 ○	講 義		2	2	2			デジタル教育プログラム選択必修		
		データサイエンス演習 ◎	演 習		2				2	デジタル教育プログラム・プラス選択必修		
		AIプログラミング ◎	演 習		2					2		デジタル教育プログラム・プラス選択必修
最低修得単位数				7	7							
卒業最低修得単位数				14								

注: ★の科目から4単位以上選択必修「人間と社会領域」

○から1科目選択必修(デジタル教育プログラム)

◎から1科目選択必修(デジタル教育プログラム・プラス)

区分	ページ番号	授 業 科 目	授業形態	履修方法				開 講 学 期 単 位 数				備 考	
				卒業履修		介護福祉士		1前	1後	2前	2後		
				単 位 数	履修単位数	必修	選択						
専門科目		【人間と社会】											医事実務士必修
	83	人間の尊厳と自立	講 義	2		2			2				
	85	人間関係とコミュニケーション▲	講 義		2	2			2				
		チームマネジメント	講 義		2	2					2		
		社会学概論	講 義		2	2					2		
	87	社会と制度の理解	講 義	2		2		2					
		社会保障論	講 義	2		2						2	
		住環境と福祉 ★	講 義		2		2				2		
	89	レクリエーション概論 ★	講 義		1		1		1				
		【介 護】											
	91	介護の基本Ⅰ	講 義	2		2		2					
	93	介護の基本Ⅱ	講 義	2		2		2					
		介護の基本Ⅲ	講 義	2		2					2		
		介護の基本Ⅳ	講 義	2		2						2	
		生活と地域福祉▲	演 習		1	1						1	
	95	生活と自立支援	講 義		2	2			2				
	97	コミュニケーションの基礎▲	講 義	2		2		2					
		コミュニケーション演習	演 習		1	1					1		
	99	生活支援技術A	演 習	2		2		2					
	101	生活支援技術B	演 習		2	2			2				
		生活支援技術C	演 習		2	2					2		
		生活支援技術D	演 習		1	1						1	
	103	生活支援技術(住)	講 義		2	2		2					
		生活支援技術(食)	演 習		1	1					1		
		生活支援技術(家事)	演 習		1	1						1	
	105	介 護 過 程 Ⅰ	講 義		2	2		2					
	107	介 護 過 程 Ⅱ	講 義		2	2			2				
		介 護 過 程 Ⅲ	演 習		1	1					1		
		介 護 過 程 Ⅳ	演 習		1	1						1	
		ケアマネジメント	演 習		1	1					1		
	109	介護総合演習Ⅰ	演 習		1	1		1					
	111	介護総合演習Ⅱ	演 習		1	1			1				
		介護総合演習Ⅲ	演 習		1	1					1		
		介護総合演習Ⅳ	演 習		1	1						1	
		介護研究	演 習		1	1						1	
	113	介 護 実 習 Ⅰ	実 習		2	2			2				
	115	介 護 実 習 Ⅱ	実 習		3	3			3				
		介 護 実 習 Ⅲ	実 習		3	3					3		
		介 護 実 習 Ⅳ	実 習		3	3						3	

注：★の科目から4単位以上選択必修「人間と社会領域」

▲印=ピアヘルパー認定試験受験資格2科目以上4単位以上選択必修

区分	ページ番号	授 業 科 目	授 業 形 態	履修方法				開 講 学 期 単 位 数				備 考		
				卒業履修単 位 数		介護福祉士履修単位数		1前	1後	2前	2後			
				必修	選択	必修	選択							
専 門 科 目	【こころとからだのしくみ】													
	117	発達の理解▲	講 義	2		2		2						
	119	老化の理解	講 義	2		2		2						
	121	認知症の理解Ⅰ	講 義	2		2			2					
		認知症の理解Ⅱ	演 習		1	1					1			
	123	障害の理解Ⅰ	講 義	2		2			2					
		障害の理解Ⅱ	講 義		2	2							2	
	125	こころとからだのしくみ(医学)	講 義	2		2			2					医事実務士必修科目
		こころとからだのしくみ(心理)▲	講 義		2	2					2			介護保険実務士1科目選択必修
	127	こころとからだのしくみ(生活支援)	講 義	2		2		2						
		ターミナルケア	講 義		2	2							2	
	【医療的ケア】													
	129	医療的ケア	講 義		2	2		2						
	131	経管栄養	講 義		2	2			2					
		喀痰吸引	講 義		2	2					2			
		経管栄養演習	演 習		1	1					1			
		喀痰吸引演習	演 習		1	1							1	
	医事実務士													
		基礎医学関連科目												
		薬理の基礎	講 義		2		2						2	医事実務士必修
		人類学	講 義		2		2						2	
		医事・実務関係科目												
	133	医療事務総論	講 義		2		2		2					医事実務士必修
	135	医療事務演習	演 習		2		2		2					
	介護保険実務士													
		介護事務総論	講 義		2		2				2			介護保険実務士必修
		介護事務演習	演 習		1		1						1	
	関連科目													
	137	情報機器演習	演 習	2			2	2						医事/介護保険実務士必修
	139	レクリエーション活動援助法Ⅰ	演 習		1		1	1						レクリエーションインストラクター資格必修
	141	レクリエーション活動援助法Ⅱ	演 習		1		1			1				
		レクリエーションワーク	演 習		1		1					1		
		介護ホスピタリティ	演 習		1		1						1	
最低修得単位数				32	16	87								
卒業最低修得単位数				必修 32	選択 16	合計 48								
最低修得単位数総計				卒業 62	[介護福祉士 101]		(「情報機器演習」2単位を含むと103単位が必要)							

注: ▲印=ピアヘルパー認定試験受験資格2科目以上4単位以上選択必修

別表 第2の2 [介護保険実務士] 養成科目

(○印は専門科目と重なる)

ページ 番号	授 業 科 目	授業 形態	履修方法		開 講 学 期				備 考
			履 修 単位数		単 位 数				
			必修	選択	1前	1後	2前	2後	
(87)	○社会と制度の理解	講 義	2		2				2科目 選択必修
(91)	○介護の基本Ⅰ	講 義	2		2				
(93)	○介護の基本Ⅱ	講 義			2				
	○介護の基本Ⅲ	講 義					2		
	○介護の基本Ⅳ	講 義						2	
(125)	○こころとからだのしくみ(医学)	講 義	2			2			
	○こころとからだのしくみ(心理)	講 義					2		
(117)	○発達の理解	講 義	2		2				
(99)	○生活支援技術A	演 習	1		2				
(101)	○生活支援技術B	演 習				2			
	○生活支援技術C	演 習					2		
	○生活支援技術D	演 習						1	
(137)	○情報機器演習	演 習	2		2				
(113)	○介護実習Ⅰ	実 習	2			2			
	○ケアマネジメント	演 習					1		
(109)	○介護総合演習Ⅰ	演 習			1				
(111)	○介護総合演習Ⅱ	演 習				1			
	○介護事務総論	講 義	2				2		
	○介護事務演習	演 習	1					1	
最低単位修得数総計 [16]			14	2					

別表 第2の3 [医事実務士] 養成科目

(○印は専門科目と重なる)

ページ 番号	授 業 科 目	授業 形態	履修方法		開 講 学 期				備 考	
			履 修 単位数	必修	選択	単 位 数				
						1前	1後	2前		2後
基礎医学関係科目										
(125)	○こころとからだのしくみ(医学)	講 義	2			2				
	○薬理の基礎	講 義	2					2		
	○人類学	講 義	2					2		
医療事務実務関係科目										
(133)	○医療事務総論	講 義	2			2				
(135)	○医療事務演習	演 習	2			2				
(137)	○情報機器演習	演 習	2		2					
(85)	○人間関係とコミュニケーション	講 義	2			2				
最低修得単位数 [14]			14							

別表 第2の4 レクリエーション・インストラクター養成科目

(○印は専門科目と重なる)

ページ 番号	授 業 科 目	授業 形態	履修方法		開 講 学 期 単 位 数				備 考	
			履 修 単 位 数	必修	選択	1前	1後	2前		2後
(89)	○レクリエーション概論	講 義	1			1				
(139)	○レクリエーション活動援助法Ⅰ	演 習	1		1					
(141)	○レクリエーション活動援助法Ⅱ	演 習	1			1				
現場実習(学外)		実 習	(1)			(1)			← 2日間(9時間以上)	
最低単位修得数総計 [3 + (1)]										

令和7年度入学生 教育課程

別表 第3 生活科学科 食物栄養学専攻教育課程表

区分 分	ページ 番号	授 業 科 目	授業 形態	履修方法		開 講 学 期 単 位 数				備 考	
				卒業履修 単 位 数	必修	選択	1前	1後	2前		2後
一 般 教 養 科 目	わたしを知る・わたしを創る 心と思想の探求(人間の心に迫り人間を知る)										
	13	日本語表現の基礎	講 義		2	2	2				
	15	倫 理 学	講 義		2	2	2				
	17	心 理 学	講 義		2	2	2				
	健康の探求(健康な心と体をつくる)										
		体育講義	講 義		1				1		
		体育実技	実 技		1				1		
	社会を知る・社会につながる 社会の探求(社会に目を向ける)										
	19	社 会 学	講 義		2	2	2				
	21	日本国憲法	講 義		2	2	2			栄教免必修	
	23	歴 史 学	講 義		2	2	2				
		食物アレルギー論◆◆	講 義	1						1	
		食と地域の未来デザイン	演 習		1					1	
	25	総合教養Ⅰ	講 義		2	2					
	27	総合教養Ⅱ	講 義		2		2				
	29	AI社会論 ○	講 義		2	2	2			デジタル教育プログラム選択必修	
	キャリアの探求(職業を考え人生を設計する)										
	33	キャリアガイダンスⅠ	演 習	1			1				
		キャリアガイダンスⅡ	演 習	1					1		
	世界を知る・世界を広げる 異文化の探求(海外に目を向ける)										
	35	海 外 事 情	演 習		2		2			海外研修	
	37	公共人類学	講 義		2	2	2				
	39	英語の文学とメディア	講 義		2	2	2				
	41	アメリカ文学	講 義		2	2	2				
	43	英語演習Ⅰ	演 習	2		2					
	47	中国語演習Ⅰ	演 習			2					
	49	韓国語演習Ⅰ	演 習			2					
	55	日本語演習Ⅰ	演 習			2					
	57	英語演習Ⅱ	演 習	2			2				
	61	中国語演習Ⅱ	演 習				2				
	63	韓国語演習Ⅱ	演 習				2				
	69	日本語演習Ⅱ	演 習				2				
	自然界の探求(いろいろな世界に目を向ける)										
	71	数 学 基 礎	講 義		2	2	2				
	73	理 科 基 礎	講 義		2	2	2				
	75	分子からみた生物	講 義		2	2	2				
	77	SDGs論	演 習		2		2				
	79	データサイエンス概論 ○	講 義		2	2	2			デジタル教育プログラム選択必修	
		データサイエンス演習 ◎	演 習		2				2	デジタル教育プログラム・プラス選択必修	
		AIプログラミング ◎	演 習		2					2	
	最低修得単位数				7	7					
	卒業最低修得単位数				14						

注: ○から1科目選択必修(デジタル教育プログラム)

◎から1科目選択必修(デジタル教育プログラム・プラス)

◆◆こども食物アレルギー実務課程必修科目

英語・中国語・韓国語・日本語
演習のいずれかのⅠ・Ⅱを連続選択履修
*日本語演習は留学生対象科目
参照:別表5 留学生特別科目教育課程表

区分	ページ番号	授 業 科 目	授 業 形 態	履修方法						開 講 学 期 単 位 数				備 考
				卒業履修 単 位 数		栄養士履修 単 位 数		栄教免修得 単 位 数		1前	1後	2前	2後	
				必修	選択	必修	選択	必修	選択					
専 門 科 目		社会生活と健康												児童福祉を含む 栄養士・栄教免必修
		公衆衛生学Ⅰ	講 義		1	1		1				1		
		公衆衛生学Ⅱ	講 義		1	1		1				1		
		社会福祉概論	講 義		2	2		2					2	
		人体の構造と機能												栄養士・栄教免選択必修(☆)
	145	解剖生理学Ⅰ	講 義		1	1		1		1				
	147	解剖生理学Ⅱ	講 義		2	2		2			2			
		解剖生理学実験 ☆	実 験		1	1		1				1		
		運動生理学	講 義		1	1		1					1	
	149	栄養生化学Ⅰ	講 義	2		2		2		2				
	151	栄養生化学Ⅱ ◆	講 義		2	2		2			2			
		生化学実験 ☆	実 験		1	1		1				1		
		食品と衛生												食品加工学を含む こども食物アレルギー実務課程選択必修(◆)
	153	食品学総論	講 義	2		2		2		2				
	155	食品学各論◆	講 義	2		2		2			2			
	157	食品学実験 ☆	実 験		1	1		1		1				
	159	食品衛生学	講 義		2	2		2		2				
	161	食品衛生学実験	実 験		1	1		1			1			
		食品加工学実習 ☆	実 習		1	1		1				1		
		栄養と健康												こども食物アレルギー実務課程選択必修(◆)
	163	栄養学総論	講 義	2		2		2			2			
	165	応用栄養学 ◆	講 義	2		2		2			2			
	167	応用栄養学実習 ◆	実 習		1	1		1			1			
	169	食事摂取基準・献立論	講 義	2		2		2		2				
		臨床栄養学概論 ◆	講 義		2	2		2				2		
		臨床栄養学実習	実 習		1	1		1				1		
		栄養の指導												こども食物アレルギー実務課程選択必修(◆)
	171	栄養指導論Ⅰ ▲	講 義	2		2		2		2				
	173	栄養指導論Ⅱ ◆ ▲	講 義		2	2		2			2			
		栄養指導実習Ⅰ	実 習		1	1		1				1		
		栄養指導実習Ⅱ	実 習		1	1		1					1	
	175	公衆栄養学	講 義	2		2		2			2			

☆の科目から3単位以上選択必修(栄養士・栄教免)

▲印＝ピアヘルパー認定試験受験資格:教育心理学又は教育相談のいずれかを含む4単位以上必修

◆の科目から1単位以上選択必修(こども食物アレルギー実務課程)

区分	ページ番号	授 業 科 目	授業形態	履修方法						開 講 学 期 単 位 数				備 考	
				卒業履修 単 位 数		栄養士履修 単 位 数		栄養教諭修得 単 位 数		1前	1後	2前	2後		
				必修	選択	必修	選択	必修	選択						
専 門 科 目		給食の運営												こども食物アレルギー実務課程選択必修(◆) *学外実習(保育所、施設等) 栄養士選択必修(ただし、栄養教諭履修者は学校給食管理実習(学外Ⅰ)を必修とし、給食管理実習(学外Ⅱ)は選択) *学外実習(保育所、施設、病院) 栄養教諭履修者のみ必修	
	177	給 食 管 理 ◆	講 義	2		2		2			2				
		給食実務演習Ⅰ	演 習		1	1		1				1			
		給食実務演習Ⅱ	演 習		1	1		1					1		
		給食管理実習Ⅰ	実 習		1	1		1				1			
		学外実習Ⅰ・Ⅱ指導	演 習		1	1		1				1			
		給食管理実習(学外Ⅰ)	実 習		2	2						2			
		給食管理実習(学外Ⅱ)	実 習		2				2			2			
		学校給食管理実習(学外Ⅰ)	実 習		1	1		1				1			
		給食管理実習Ⅱ	実 習		1	1		1					1		
	179	調 理 学	講 義	2		2		2		2					
	181	調理学実習基礎	実験・実習		1	1		1		1					
	183	調理学実習Ⅰ	実 習		1	1		1			1				
		調理学実習Ⅱ	実 習		1	1		1				1			
		実践調理学実習 ◆	実 習		1	1		1					1		
		関連科目													
	185	化 学	講 義		2		2		2	2					
	187	学校栄養教育論	講 義		2		2	2		2					
		栄養士実力試験対策演習	演 習		1		1		1				1		
		スポーツと栄養	演 習		1		1		1				1		
	189	くらしとお茶A	講 義		2		2		2	2					
		くらしとお茶B	講 義		2		2		2			2			
	191	教育心理学▲	講 義		1		1	1		1					
	193	教職概論	講 義		2		2	2		2					
		教育相談▲	講 義		1		1	1				1			
	195	情報機器演習	演 習	2		2		2		2					
最低修得単位数				22	26	57 ※56	0	62	0						
卒業最低修得単位数				必修 22	選択 26	合計		48							
最低修得単位数総計				卒業 62		[栄養士 71 (栄養教諭免許履修者 70)]									

注: ▲印＝ピアヘルパー認定試験受験資格:教育心理学又は教育相談のいずれかを含む4単位以上必修

◆の科目から1単位以上選択必修(こども食物アレルギー実務課程)

※栄養教諭履修者の専門必修科目は56単位

別表 第3の2 栄養教諭関連科目（栄養に係る教育に関する科目及び教職に関する科目）
（○印は専門科目と重なる）

ページ 番号	授 業 科 目	授業 形態	履修方法		開 講 学 期 単 位 数				備 考
			履 修 単 位 数		1前	1後	2前	2後	
			必修	選択					
(187)	○学校栄養教育論	講 義	2		2				学外実習
197	教育原理	講 義	2		2				
(193)	○教職概論	講 義	2		2				
199	教育制度論	講 義	2			2			
(191)	○教育心理学▲	講 義	1		1				
201	特別支援教育	講 義	2			2			
	教育課程	講 義	1				1		
	道德教育の指導法	講 義	1					1	
	総合的な学習の時間の指導法	講 義	2					2	
	特別活動の指導法	講 義	1					1	
203	教育の方法・技術	講 義	1			1			
205	生徒指導	講 義	1			1			
(195)	○情報機器演習	演 習	2		2				
	○教育相談▲	講 義	1				1		
	栄養教育実習指導	講 義	1				1		
	栄養教育実習	実 習	1				1		
	教職実践演習(栄養教諭)	演 習	2					2	
	最低修得単位数		25						
	最低修得単位数総計 [栄養免 93]								

▲印＝ピアヘルパー認定試験受験資格：教育心理学又は教育相談のいずれかを含む4単位以上必修

別表 第3の3 こども食物アレルギー実務課程関連科目
（○印は一般教養科目及び専門科目と重なる）

ページ 番号	授 業 科 目	授 業 形態	履修方法		開 講 学 期 単 位 数				備 考
			履 修 単 位 数		1前	1後	2前	2後	
			必修	選択					
(151) (155) (165) (167) (173) (177)	○食物アレルギー論	演 習	1					1	1単位以上
	○栄養生化学Ⅱ	講 義		2		2			
	○食品学各論	講 義		2		2			
	○応用栄養学	講 義		2		2			
	○応用栄養学実習	実 習		1		1			
	○臨床栄養学概論	講 義		2			2		
	○栄養指導論Ⅱ	講 義		2		2			
	○給食管理	講 義		2		2			
	○実践調理学実習	実 習		1				1	
	最低修得単位数		1	1					

一般教養科目

生活福祉専攻

食物栄養学専攻

科目名	日本語表現の基礎		科目ナンバー	AA021201
担当者	小沢 貴雄			
科目	—			
施工規則に定める科目区分 または事項等	—			
授業形式	講義			
配当年次	1	科目群	一般教養科目	
開講期	前期・後期	卒業の選択・必修	選択	
単位数	2	担当形態	単独	
免許・資格情報	—			

授業の概要	漢字や語彙、丁寧な字の書き方、敬語、手紙文のきまりなどの社会生活を送る上で必須の書く力の育成と、縮約、情報の正確な読み取り、レポートのきまりなどの学生生活を送る上で必要となる書く力の育成を目指す。			
授業の到達目標	1. 基礎的な語彙力・漢字力を身につける2. 失礼のない形式の整った手紙文を作成できる3. 根拠を明確にした説得力のあるレポートを作成できる			
ディプロマポリシー(DP)	1 主体的に学び、多様な考え方に触れ、柔軟な思考ができる。	2 自己を高めるとともに、他者との関わりを良好に保つことができる。	3 地域への関心を深め、地域活性化の担い手として課題解決に意欲的に取り組む。	4 社会や文化に対して関心を持ち、広い視野に立って、社会に参画する力を持つ。
DPとの関連	○	◎		○
※関連するDP番号に○（複数可）、最も関連部会DP番号は◎（1か所のみ）				

授業計画		担当者
第1回	ガイダンス 自己紹介文の作成と交流	小沢
第2回	字の丁寧な書き方	小沢
第3回	語彙と文法	小沢
第4回	手紙文(御礼状・案内文)の書き方	小沢
第5回	敬語の基礎(尊敬語・謙譲語・丁寧語)	小沢
第6回	小レポート1(語彙、敬語、手紙文の復習)	小沢
第7回	縮約の作り方	小沢
第8回	履歴書の書き方	小沢
第9回	グラフの種類と特徴	小沢
第10回	図や表を用いた文章理解	小沢
第11回	小レポート2(縮約と資料の分析)	小沢
第12回	プレゼンテーションの基本的知識	小沢
第13回	意見文の吟味と分かりやすい文の書き方	小沢
第14回	意見文の吟味と完成	小沢
第15回	総括(最終レポートの作成)	小沢

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ ICT教育等を府k無
		○			○

担当教員の実務経験と授業の関連			
事前学習	新聞、雑誌、ネット記事などで、自分の興味関心に沿う情報を集めておく。	学習合計時間(h)	30
事後学習	授業内容の振り返りと作成した文章の推敲をする。	学習合計時間(h)	30
課題に対するフィードバックの方法	課した課題について、求めに応じて個別に対応する。		
質問・相談方法	講義終了後及びオフィスアワー等に対応する		
オフィスアワー	前期：木曜日 13:00～14:00 後期：月曜日 14:00～16:00 研究室(西館405号室)		

テキスト	プリントを適宜配布します。
参考文献等	『大学生のためのレポート・論文術』 小笠原善康 講談社 2009 ￥740 (ISBN-10: 4062880210)
成績評価基準	最終レポートにおいて、根拠を明確にした説得力のあるレポート、失礼のない形式の整った手紙文を作成できること。
成績評価の方法	課題ミニレポート(20%)、小レポート1、2(40%)、授業レポート(40%)
GPA基準	
備考	※ 授業の内容・順番を一部変更する場合があります。60名までの受講制限を設けます。

科目名	倫理学		科目ナンバー	AA011201
担当者	村若 修			
科目	—			
施工規則に定める科目区分 または事項等	—			
授業形式	講義			
配当年次	1	科目群	一般教養科目	
開講期	前期・後期	卒業の選択・必修	選択	
単位数	2	担当形態	単独	
免許・資格情報	—			

授業の概要	「倫理学」とは、人の生き方や人と人との関係のあり方、社会のあり方について、善/悪、正/不正という視点で考えていく学問です。「道徳」ないし「倫理」はすでに皆さんに身につけているものですが、それについて倫理学は反省を加え、吟味する学問だと考えてください。本講義では「生命倫理」と呼ばれる領域の諸問題、主として医療に関する倫理問題について考えていきます。			
授業の到達目標	1. 倫理的な思考を身につける 2. 「生命倫理」の基礎を理解する 3. 身近な生命倫理の問題を知り、それについて自分の考えを表現できる			
ディプロマポリシー (DP)	1 主体的に学び、多様な考え方に触れ、柔軟な思考ができる。	2 自己を高めるとともに、他者との関わりを良好に保つことができる。	3 地域への関心を深め、地域活性化の担い手として課題解決に意欲的に取り組む。	4 社会や文化に対して関心を持ち、広い視野に立って、社会に参画する力を持つ。
DPとの関連	◎			○
※関連するDP番号に○（複数可）、最も関連部会DP番号は◎（1か所のみ）				

授業計画			担当者
第1回	倫理学と「生命倫理」		村若
第2回	生命倫理の成立(1)患者の権利		村若
第3回	生命倫理の成立(2)インフォームド・コンセントの歴史		村若
第4回	生命倫理の成立(3)生命倫理の基本原則		村若
第5回	尊厳死(1)日本及び世界の状況		村若
第6回	尊厳死(2)倫理的考察		村若
第7回	安楽死(1)日本及び世界の状況		村若
第8回	安楽死(2)倫理的考察ディスカッション		村若
第9回	人工妊娠中絶		村若
第10回	生殖補助医療技術の利用(1)日本及び世界の状況		村若
第11回	生殖補助医療技術の利用(2)倫理的考察		村若
第12回	出生前診断(1)日本及び世界の状況		村若
第13回	出生前診断(2)倫理的考察ディスカッション		村若
第14回	脳死と臓器移植(1)日本及び世界の状況		村若
第15回	脳死と臓器移植(2)倫理的考察		村若

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ ICT教育等を府k無
	○				

担当教員の実務経験と授業の関連			
事前学習	配付資料を事前によく読んでくる	学習合計時間(h)	
事後学習	映像教材について感想文を課す	学習合計時間(h)	
課題に対するフィードバックの方法	ミニッツペーパーや課題については、提出した次の授業で要点に触れ、フィードバックする。個別にコメントすることもある。		
質問・相談方法	次のいずれかの方法による。(1)授業時のミニッツペーパーに質問事項を記入する。(2)授業後に質問をする。(3)オフィスアワーを利用する。		
オフィスアワー	火曜日15:00～17:00 研究室(西館410号室)		

テキスト	適宜資料を配付する。
参考文献等	『現代世界の思想的課題』 中山愈編 弘文堂 1998年 (ISBN4-335-15041-5)『はじめて出会う生命倫理』 玉井真理子・大谷いづみ編 有斐閣アルマ 2011年 (ISBN978-4-641-12420-2)
成績評価基準	到達目標が十分に達成されること
成績評価の方法	期末試験(80%)、授業内容に関する小レポート・感想文(20%)
GPA基準	
備考	

科目名	心理学		科目ナンバー	AA021202
担当者	園田 美保			
科目	—			
施工規則に定める科目区分 または事項等	—			
授業形式	講義			
配当年次	1	科目群	一般教養科目	
開講期	前期・後期	卒業の選択・必修	選択	
単位数	2	担当形態	単独	
免許・資格情報	—			

授業の概要	心理学の主な領域を網羅する。より深い人間理解のために心理学のキーワードと考え方を紹介する。ここでの人間とは、受講者自身を含み、その点では受講者にとって自己を探る手がかりを提供する。また同時に、身近な他者を理解する手がかりやきっかけとなるよう、受講者が心理学の各領域や方法に触れ、学びながら、考える力も身に付けられるよう、授業を構成する。講義形式だが、受講者には、積極的に自らの日常生活や身近な他者を想定し、内容の理解を行い、自らの考えを表現してもらうため、各回の内容に即したレポートを毎回求める。			
授業の到達目標	(1) 人間の心理と行動との関係を理解する。 (2) 自己理解のために心理学の考え方を当てはめ、説明できる。 (3) 他者理解のために心理学の考え方を当てはめ、理解できる。			
ディプロマポリシー(DP)	1 主体的に学び、多様な考え方に触れ、柔軟な思考ができる。	2 自己を高めるとともに、他者との関わりを良好に保つことができる。	3 地域への関心を深め、地域活性化の担い手として課題解決に意欲的に取り組む。	4 社会や文化に対して関心を持ち、広い視野に立って、社会に参画する力を持つ。
DPとの関連	○	◎		
※関連するDP番号に○(複数可)、最も関連部会DP番号は◎(1か所のみ)				

授業計画		担当者
第1回	「心理学」オリエンテーション：授業の形式、内容と計画、心理学イントロ「心理学とは？」	園田
第2回	心理学の研究手法と領域：心理学の方法論と人が人を見るまなざし、心理学の領域いろいろ	園田
第3回	心理学の歴史と多様な考え方：心理学の始まり、当初からあって今でも影響力の強い考え方3種	園田
第4回	動機づけ：動機づけ説の各種紹介、動機のヒエラルキー、動機づけを高める方法	園田
第5回	情動：情動の発達、種類、表出、表情コントロール、気分障害	園田
第6回	認知：私たちは環境をどのように知るのか？ 感覚、知覚、認知の特性	園田
第7回	学習：人間の行動が作られるしくみとは？ 試行錯誤と洞察、条件づけによる学習	園田
第8回	知能：知能の構造、発達曲線、遺伝か環境か？、創造性を発揮する思考法	園田
第9回	パーソナリティ：特徴の捉え方：類型論と特性論、人格の形成要因、性格の測定法	園田
第10回	適応：人間を環境との関わりで考えてみると？ 不適応反応、ストレス、防衛機制	園田
第11回	社会と人間1：集団とは、集団から個人への影響	園田
第12回	社会と人間2：個人や少数者が集団に与える影響：少数意見が通る時／リーダーシップ論	園田
第13回	臨床の心理学1：心理的問題、心の傷と心の病、5つのレベルの異常反応の症状理解	園田
第14回	臨床の心理学2：心理療法のアプローチ四者四様；精神分析/行動療法/クライアント中心療法/家族療法	園田
第15回	総括・補足、振り返り：「心理学」全体の振り返り	園田

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ ICT教育等を府k無
					○

担当教員の実務経験と授業の関連				
事前学習	指定されたテキストの章や箇所を事前に読んでおく。			学習合計時間(h) 50
事後学習	・各回の授業からキーワードになる言葉や概念を5語程ピックアップし、説明できる程度に理解を深める・今後の日常生活にどのように授業内容を活かせるか、考える・身近な例を取り上げ、それらを上記			学習合計時間(h) 10
課題に対するフィードバックの方法	毎回の授業の最初に、前回の小レポートから複数例紹介し、解説を加える。			
質問・相談方法	授業後やオフィシアワーに対応する。メールで時間調整できた場合も対応可能。			
オフィシアワー	水曜日 16:20～17:20 研究室(西館310号室) 金曜以外で事前調整できた日時にも対応可能。			

テキスト	『新しい心理学ゼミナール: 基礎から応用まで』 藤田 圭一・板垣 文彦（編著） 福村出版 2008年 2,200円(税抜き) ISBN:978-4571200724
参考文献等	『心理学 新版 (New Liberal Arts Selection)』 無藤隆ら(編著) 有斐閣 2018年 4200円(税抜き) (ISBN: 978-4641053861) 『誠信 心理学辞典[新版]』 下山晴彦ら(編著) 誠信書房 2014年 5800円(税抜き) (ISBN: 978-4414305071) 他、各回ごとに配布資料で提示
成績評価基準	心理学の領域ごとに、各回のキーワードと内容を理解し、自分や他者、日常生活と関連させ考えられるものを合格とする。
成績評価の方法	毎回の小レポートと受講態度(30%)と最終レポート(70%)で評価する。
GPA基準	
備考	・前期は、全学科合わせて80名の受講制限を設ける(受講登録者が80名を超えた場合は、抽選を行う)。ただし、教室の収容人数によってそれ以下になる場合もある。・後期は、例年、抽選もなく少人数で開講している。ただし、教室の収容人数によって希望者数が多い場合は抽選の可能性もある。・

科目名	社会学		科目ナンバー	AA041201
担当者	倉重 加代			
科目	—			
施工規則に定める科目区分 または事項等	—			
授業形式	講義			
配当年次	1	科目群	一般教養科目	
開講期	前期・後期	卒業の選択・必修	選択	
単位数	2	担当形態	単独	
免許・資格情報	—			

授業の概要	個々人が抱えている心理的・経済的等の悩みは思いのほか社会の諸現象や諸問題と関わっていることが多い。この授業では、社会を前向きに描く上で求められる力——社会を学ぶ社会学的思考を磨き、現在の社会の仕組みと流れを冷静に見据える力——を身につけることを目指す。そのために授業の前半では社会学の基礎概念の学習を通して、後半では現代社会の分析を試みながら、社会学的な思考を身につけていく。			
授業の到達目標	1.社会学の基礎概念を理解する 2.人々の行為や社会で起こっている出来事を、自分から離れて見る視点を身につける 3.自分の関心事と社会で起こっている出来事を結びつける能力を身につける			
ディプロマポリシー (DP)	1 主体的に学び、多様な考え方に触れ、柔軟な思考ができる。	2 自己を高めるとともに、他者との関わりを良好に保つことができる。	3 地域への関心を深め、地域活性化の担い手として課題解決に意欲的に取り組む。	4 社会や文化に対して関心を持ち、広い視野に立って、社会に参画する力を持つ。
DPとの関連	○	○		◎
※関連するDP番号に○（複数可）、最も関連部会DP番号は◎（1か所のみ）				

授業計画			担当者
第1回	「社会学すること」の視点を理解する		倉重
第2回	社会学の方法を学ぶ		倉重
第3回	友だちとはどのような人かを考える		倉重
第4回	親密な関係のゆくえについて学ぶ		倉重
第5回	生き方のイメージ形成について考える		倉重
第6回	教育と職業の関係から生き方を考える		倉重
第7回	地域社会の状況について理解する		倉重
第8回	地域社会の将来を考える		倉重
第9回	ジェンダー視点での社会の見方を理解する		倉重
第10回	ジェンダーのゆくえを考える		倉重
第11回	国家の福祉政策と私の人生の関係について学ぶ		倉重
第12回	福祉社会のあり方について学ぶ		倉重
第13回	出来事の予測可能性と予測不可能性について比較する		倉重
第14回	リスク社会での対処について学ぶ		倉重
第15回	授業の総括		倉重

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ ICT教育等を府k無
	○				

担当教員の実務経験と授業の関連				
事前学習	新聞を読んだりニュースを見たりして、世の中の出来事に関心を持つ。また、自分が生活してきた地域社会の状況を把握しておくこと。教科書を読み、意味のわからない用語は調べておくこと。			学習合計時間(h) 30
事後学習	期末試験のために授業内容の総復習をしておくこと。			学習合計時間(h) 30
課題に対するフィードバックの方法	求めに応じて個別に対応する。			
質問・相談方法	講義終了後及びオフィスアワー等で対応する			
オフィスアワー	火曜日16:30～18:00 研究室(西館312号室)			

テキスト	『Do! ソシオロジー——現代日本を社会学で診る（改訂版）』 友枝敏雄・山田真茂留編 2013年 1,800円 (ISBN 978-4-641-12496-7)			
参考文献等	『自由からの逃走』フロム, E.著 日高六郎訳 東京創元社 1951年 1,870円 (ISBN: 978-4-488-00651-8)『定本 想像の共同体』ベネディクト・アンダーソン著 白石隆・白石さや訳 書籍工房早山 2007年 2,200円 (ISBN: 978-4-904701-08-9)総務省統計局ホームページ ほか授業中に紹介			
成績評価基準	到達目標の1～3は相互に関連し、1.や2.を身につけることにより、3.に掲げている事項の理解を深めることができることから、到達目標の3.「人々の間に共有される意味や形式の相対性」を理解することを成績評価基準とする。			
成績評価の方法	期末試験(80%)と毎時間のリアクションペーパー(20%)で評価する。(期末試験はレポートで代替する場合がある)			
GPA基準				
備考				

科目名	日本国憲法		科目ナンバー	AA042009
担当者	今井 健太郎			
科目	教育職員免許法施行規則第6 6 条の6 に定める科目			
施工規則に定める科目区分 または事項等	日本国憲法			
授業形式	講義			
配当年次	1	科目群	一般教養科目	
開講期	後期	卒業の選択・必修	選択	
単位数	2	担当形態	単独	
免許・資格情報	必修：小教免、幼教免			

授業の概要	「社会あるところに法あり」と言われるように、人が集まって社会が形成されれば、何らかのルール＝法規範が出来上がります。実際、日本にもさまざまな法律が存在しており、私たちはその法律を守らなくてはならないルールと認識して、日々生活しています（例：酒・タバコは二十歳からetc.）。 憲法も法律の一つです。しかし、憲法は、国家権力が暴走して個人の権利や自由を侵害しないように権力の行使を制限する法規範であり、そこが私たち市民の行動を規制する他の法律と決定的に異なります。このように、憲法によって権力を縛る考え方を立憲主義（Constitutionalism）といいます。 本講義では、この立憲主義の理解を念頭に、憲法の条文や実際の判例について学んでいきます。その中で、特に、憲法が規定する基本的人権の尊さと、ひいては私たちが憲法と立憲主義の観念を抱く意味について、皆さんと一緒に考えていきたいと思います。			
授業の到達目標	① 憲法が保障する基本的人権の尊重および立憲主義の基本的観念について理解し、その意義を説明できること。 ② 現存する憲法問題に対して、憲法の基本的な知識を使って説得力ある私見を展開できること。			
ディプロマポリシー（DP）	1 主体的に学び、多様な考え方に触れ、柔軟な思考ができる。	2 自己を高めるとともに、他者との関わりを良好に保つことができる。	3 地域への関心を深め、地域活性化の担い手として課題解決に意欲的に取り組む。	4 社会や文化に対して関心を持ち、広い視野に立って、社会に参画する力を持つ。
DPとの関連				○
※関連するDP番号に○（複数可）、最も関連部会DP番号は◎（1か所のみ）				

授業計画		担当者
第1回	この講義の概要説明	今井
第2回	憲法と国家――立憲主義とは何か――	今井
第3回	日本憲法史	今井
第4回	法の支配・裁判所・民主主義――違憲審査制の意義――	今井
第5回	基本的人権の観念	今井
第6回	個人の尊重と幸福追求権 / 法の下での平等①	今井
第7回	法の下での平等②	今井
第8回	思想・良心の自由	今井
第9回	信教の自由と政教分離	今井
第10回	表現の自由	今井
第11回	生存権	今井
第12回	教育を受ける権利	今井
第13回	選挙・憲法改正	今井
第14回	平和主義	今井
第15回	まとめ――私たちが「日本国憲法」を抱く意義――	今井

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ICT教育等を府k無
担当教員の実務経験と授業の関連					
事前学習	講義前にシラバスや前回講義での告知を参考にして、教科書の該当部分を前もって読んでおくこと。 意味のわからない用語や読めない漢字は辞書等で事前に調べておくこと。			学習合計時間(h)	20
事後学習	・レジュメや授業時のメモをもとにノートを作成して、再度教科書の該当箇所を熟読すること。 ・教科書以外の参考文献にも可能な限り目を通して、ノートの補筆を行うこと。			学習合計時間(h)	40
課題に対するフィードバックの方法	受講者の求めに応じて個別に対応する。				
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワー等に対応する。				
オフィスアワー					
テキスト	①西原博史・斎藤一久（編）『教職課程のための憲法入門 第3版』（弘文堂、2024年） （ISBN978-4-335-35979-8） ②岡田順太・淡路智典・今井健太郎（編）『判例キーワード憲法』（成文堂、2020年） （ISBN974-4-7923-0666-3）				
参考文献等	・芦部信喜『憲法 第8版』（岩波書店、2023年） ・佐藤幸治『日本国憲法論 第2版』（成文堂、2020年） ・樋口陽一『憲法 第5版』（勁草書房、2025年） ・長谷部恭男・石川健治・穴戸常寿（編）『憲法判例百選Ⅰ・Ⅱ 第7版』（有斐閣、2019年） ・西原博史『うさぎのヤスヒコ、				
成績評価基準	立憲主義の意味および日本国憲法の内容を正確に理解できているか。 授業や教科書で学んだ内容をもとに、現存する憲法問題について自ら検討し、解決のための論理を展開することができているか。 以上を評価基準とする。				
成績評価の方法	定期試験（100％）で評価する。 ただし、欠席日数が3分の1を超えた場合、原則として定期試験の受験資格を失う。 （なお、出席自体は点数として加算されない。） 詳細は講義時間において説明する。				
GPA基準					
備考	授業の進み具合や、その時々的情勢によって、内容が大幅に変わる可能性があります。 どうぞご了承ください。 復習作業の徹底・不徹底は後のテストの明暗を大いに分けることとなります。必ず復習をしてから、次回授業に出席するようにしてください。 さらに、日々のニュースや新聞などに				

科目名	歴史学		科目ナンバー	AA041203
担当者	松崎 康弘			
科目	—			
施工規則に定める科目区分 または事項等	—			
授業形式	講義			
配当年次	1	科目群	一般教養科目	
開講期	前期・後期	卒業の選択・必修	選択	
単位数	2	担当形態	単独	
免許・資格情報	—			

授業の概要	いわゆる「自分たちからは遠い存在の出来事の暗記」ではない、本来の歴史学の在り方を具体的な事例に基づいて学ぶ。民俗学や地理学などの連携を視野に、柔軟で多角的な歴史の見方を学ぶ。また、現在そして未来の人の生き方や社会の在り方を考えるために歴史研究がどのように生かせるかについても学ぶ。「自分たちの身近に展開した歴史」という視点から、具体的には「地名」「妖怪」「人生儀礼」などのテーマを取り上げ、討論等を行う。			
授業の到達目標	1. 民俗学等との連携も視野に、歴史学の方法を理解する2. 過去の人々の生き方から自分の生き方を見つめなおす3. 歴史学の成果を参照しながら、社会の在り方を考える			
ディプロマポリシー(DP)	1 主体的に学び、多様な考え方に触れ、柔軟な思考ができる。	2 自己を高めるとともに、他者との関わりを良好に保つことができる。	3 地域への関心を深め、地域活性化の担い手として課題解決に意欲的に取り組む。	4 社会や文化に対して関心を持ち、広い視野に立って、社会に参画する力を持つ。
DPとの関連	○			◎
※関連するDP番号に○（複数可）、最も関連部会DP番号は◎（1か所のみ）				

授業計画		担当者
第1回	地名研究と歴史1(地名研究の動向)	松崎
第2回	地名研究と歴史2(鹿児島における地名と歴史)	松崎
第3回	地名研究と歴史3(沖縄等における地名と歴史)	松崎
第4回	歌から読み取る地域の歴史	松崎
第5回	テレビ番組から読み取る地域の歴史	松崎
第6回	妖怪研究と歴史1(研究の視点)	松崎
第7回	妖怪研究と歴史2(映画から読み取る歴史)	松崎
第8回	妖怪研究と歴史3(妖怪から読み取る社会史)	松崎
第9回	妖怪研究と歴史4(妖怪研究とこれからの社会)	松崎
第10回	生活研究と歴史1(死をめぐる文化1：葬儀の文化)	松崎
第11回	生活研究と歴史2(死をめぐる文化2：「メント・モリ」)	松崎
第12回	生活研究と歴史3(恋愛・結婚をめぐる文化)	松崎
第13回	生活研究と歴史4(伝統芸能)	松崎
第14回	生活研究と歴史5(食の歴史)	松崎
第15回	まとめ(自らの生活と結びつく歴史)	松崎

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ICT教育等を府k無
	○				
担当教員の実務経験と授業の関連					
事前学習	(持っていれば中学校・高校の歴史・日本史教科書を使って)基礎的な日本史の知識を確認しておく。			学習合計時間(h)	30
事後学習	定期試験のために復習するとともに、授業で紹介した以外の(自分の居住地域に即した)素材を探す。			学習合計時間(h)	30
課題に対するフィードバックの方法	課題を課した場合、求めに応じて個別に対応する。				
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワー等で対応する。				
オフィスアワー	水曜日・金曜日 12:20~13:10 研究室(西館411号室)				
テキスト	特になし				
参考文献等	『地名の魅力』 谷川彰英 白水社 2002年『妖怪文化入門』 小松和彦 せりが書房 2006年 ほか				
成績評価基準	・授業内容に即して歴史学の方法を理解していること。 ・授業をもとに自己や社会の在り方を自分なりに考えていること。				
成績評価の方法	定期試験(100%) レポートで代替する場合がある				
GPA基準					
備考					

科目名	総合教養Ⅰ		科目ナンバー	AA011006
担当者	松下 大作			
科目	—			
施工規則に定める科目区分 または事項等	—			
授業形式	講義			
配当年次	1	科目群	一般教養科目	
開講期	前期	卒業の選択・必修	選択	
単位数	2	担当形態	単独	
免許・資格情報	—			

授業の概要	正しい言葉の使い方や広い知識を身につける。社会人として必要な基礎的教養と広い視野を持った合理的な思考力を養う。就職試験や公務員採用試験、教員採用試験等においても求められる内容も含む。			
授業の到達目標	(1)正しい漢字の利用や言葉の知識を身につける。(2)SPIの数学分野で基本的かつ頻出問題にふれることによって、柔軟な思考力を身につけ、今後の勉強法を確立させる。(3)基礎的な地理・歴史の知識を身につける。(4)現代社会の政治や経済の流れを理解できている。			
ディプロマポリシー(DP)	1 主体的に学び、多様な考え方に触れ、柔軟な思考ができる。	2 自己を高めるとともに、他者との関わりを良好に保つことができる。	3 地域への関心を深め、地域活性化の担い手として課題解決に意欲的に取り組む。	4 社会や文化に対して関心を持ち、広い視野に立って、社会に参画する力を持つ。
DPとの関連	◎	○		○
※関連するDP番号に○（複数可）、最も関連部会DP番号は◎（1か所のみ）				

授業計画			担当者
第1回	オリエンテーション 国語1(間違いの多い漢字の読み・書き)		松下
第2回	国語2(類義語・反対語)		松下
第3回	国語3(四字熟語・敬語の正しい利用)		松下
第4回	国語4(ことわざ・慣用句・故事成語)		松下
第5回	判断推理(SPI対策)		松下
第6回	数的推理(SPI対策)		松下
第7回	地理1(日本地理)		松下
第8回	地理2(世界地理)		松下
第9回	歴史1(日本史)		松下
第10回	歴史2(世界史)		松下
第11回	政治・経済1(政治の流れ)		松下
第12回	政治・経済2(消費生活)		松下
第13回	政治・経済3(政治の流れ)		松下
第14回	総合演習1		松下
第15回	総合演習2		松下

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ ICT教育等を府k無
	○				

担当教員の実務経験と授業の関連	大学や専門学校等で40年の教養や面接指導経験を活かし、社会人としての必要な基礎知識を養う。			
事前学習	新聞やニュース番組を毎日見る。(15時間) 高校の教科書を読む。持っていない教科は友人等から譲り受ける(30時間)			学習合計時間(h) 45
事後学習	既受講内容について復習し、次回の確認テストに備える。(15時間)			学習合計時間(h) 15
課題に対するフィードバックの方法	授業の始まりに前回の授業内容の確認テストを実施する。			
質問・相談方法	授業の終わりに質疑応答の時間を設ける。			
オフィスアワー				

テキスト	授業毎に必要な資料を配布。			
参考文献等	随時紹介する			
成績評価基準	正しい表現力が身についている。基礎的な知識や思考力が理解できている。			
成績評価の方法	授業参加度50% 確認テスト20% 定期試験30%			
GPA基準				
備考				

科目名	総合教養Ⅱ		科目ナンバー	AA012007
担当者	松下 大作			
科目	—			
施工規則に定める科目区分 または事項等	—			
授業形式	講義			
配当年次	1	科目群	一般教養科目	
開講期	後期	卒業の選択・必修	選択	
単位数	2	担当形態	単独	
免許・資格情報	—			

授業の概要	正しい言葉の使い方や広い知識を身につける。社会人として必要な基礎的教養と広い視野を持った合理的な思考力を養う。就職試験や公務員採用試験、教員採用試験等においても求められる内容も含む。就職において、面接や小論文対策としての自己分析や自己PR・人物重視の模擬対策など実践力を養う。			
授業の到達目標	(1)正しい漢字の利用や言葉の知識を身につける。(2)SPIの数学分野で基本的かつ頻出問題にふれることによって、柔軟な思考力を身につけ、今後の勉強法を確立させる。(3)基礎的な地理・歴史の知識、現代社会の政治や経済の流れを理解できている。(4)自己分析が確立され、それをもとに自己PRが行うことができる。			
ディプロマポリシー(DP)	1 主体的に学び、多様な考え方に触れ、柔軟な思考ができる。	2 自己を高めるとともに、他者との関わりを良好に保つことができる。	3 地域への関心を深め、地域活性化の担い手として課題解決に意欲的に取り組む。	4 社会や文化に対して関心を持ち、広い視野に立って、社会に参画する力を持つ。
DPとの関連	◎	○		○
※関連するDP番号に○(複数可)、最も関連部会DP番号は◎(1か所のみ)				

授業計画			担当者
第1回	オリエンテーション 国語5(よく出題される漢字の読み・書き)		松下
第2回	国語6(言葉の意味、外来語)		松下
第3回	国語7(論説文の重要語)		松下
第4回	判断推理 2 (SPI対策)		松下
第5回	数的推理 2 (SPI対策)		松下
第6回	地理3(日本地理・世界地理)		松下
第7回	歴史3(日本史・世界史)		松下
第8回	政治・経済4(政治の流れ)		松下
第9回	政治・経済5(経済の流れ)		松下
第10回	政治・経済6(経済学基礎)		松下
第11回	人物対策1(自己分析・自己PR)		松下
第12回	人物対策2(エントリーシート・面接カードの作成)		松下
第13回	人物対策3(模擬面接・面接対策)		松下
第14回	総合演習3		松下
第15回	総合演習4		松下

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ ICT教育等を府k無
	○		○	○	

担当教員の実務経験と授業の関連	大学や専門学校等で40年の教養や面接指導経験を活かし、社会人としての必要な基礎知識を養う。5000人を超える面接指導経験をもとに採用面接に対する実践力を養う。				
事前学習	新聞やニュース番組を毎日みる。(15時間) 高校の教科書を読む。持っていない教科は友人等から譲り受ける(30時間)			学習合計時間(h)	45
事後学習	既受講内容について復習し、次回の確認テストに備える。(15時間)			学習合計時間(h)	15
課題に対するフィードバックの方法	授業の始まりに前回の授業内容の確認テストを実施する。				
質問・相談方法	授業の終わりに質疑応答の時間を設ける。				
オフィスアワー					

テキスト	授業毎に必要な資料を配布。				
参考文献等	随時紹介する				
成績評価基準	正しい表現力が身についている。基礎的な知識や思考力が理解できている。自己分析をもとに自己PRが行うことができる。				
成績評価の方法	授業参加度50% 確認テスト20% 定期試験30%				
GPA基準					
備考					

科目名	AI社会論		科目ナンバー	AA041204
担当者	村田 和也			
科目	—			
施工規則に定める科目区分 または事項等	—			
授業形式	講義			
配当年次	1	科目群	一般教養科目	
開講期	前期・後期	卒業の選択・必修	選択	
単位数	2	担当形態	単独	
免許・資格情報	—			

授業の概要	「AI社会論」ではAIとは何か、現在の諸企業が取り組んでいる具体的事例について学ぶ。DXの必要性や、今後の将来性、問題点を総合的に俯瞰し、実社会に出てから役立つ知識を体得する。また今日におけるAI等のデジタルツールが及ぼす社会的影響に関しても学ぶ。特に、人工知能の特性や多様な側面を知ること、今後代替されていく将来の職業や求められる人材に関しても考える。また、いくつかの講義では、PCやスマートフォンから学生の質問や意見をリアルタイムで収集することによって、双方向のコミュニケーションをとり、受講者の関心や理解度に応じた講義を行う。			
授業の到達目標	1. DXとは何か、概念や役割、重要性を理解する。2. AIの歴史的側面や得意分野や課題を理解する。3. 現在使われているAIツールや普及しているBIツールに関して自分の意見を述べられる。			
ディプロマポリシー(DP)	1 主体的に学び、多様な考え方に触れ、柔軟な思考ができる。	2 自己を高めるとともに、他者との関わりを良好に保つことができる。	3 地域への関心を深め、地域活性化の担い手として課題解決に意欲的に取り組む。	4 社会や文化に対して関心を持ち、広い視野に立って、社会に参画する力を持つ。
DPとの関連				
※関連するDP番号に○(複数可)、最も関連部会DP番号は◎(1か所のみ)				

授業計画		担当者
第1回	ガイダンス :講義の流れと概要	村田
第2回	コンピューターとITに関する基礎知識	村田
第3回	産業構造の変化とICT	村田
第4回	BIツールとその普及率	村田
第5回	AIとは何か、事例1(エキスパートシステム、遺伝的アルゴリズム)	村田
第6回	AIとは何か、事例2(機械学習と深層学習)	村田
第7回	AIのできないこと、人間の強み	村田
第8回	DXの概念、その影響や課題	村田
第9回	データ駆動型社会、データの重要性	村田
第10回	ビッグデータとクラウド	村田
第11回	ソーシャルメディアとパーソナルデータ	村田
第12回	AI時代における個人情報、EUのGDPRを事例として	村田
第13回	AIコンテンツが生成するデジタルコンテンツ	村田
第14回	AI時代における人材と今後のキャリア	村田
第15回	授業の総括	村田

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ ICT教育等を府k無
			○		○

担当教員の実務経験と授業の関連	AIに関する研究経験を活かす。		
事前学習	シラバスのタイトル(知らない用語等)に関して自ら調べる。	学習合計時間(h)	30
事後学習	授業内容の復習、適宜課題提出を求める。	学習合計時間(h)	30
課題に対するフィードバックの方法	レポートやプレゼンテーションに対する講評		
質問・相談方法	授業時間内、オフィスアワー、メールによる対応		
オフィスアワー	昼休み(月?木)、事前に連絡があると尚良		

テキスト	特になし。必要な場合は適宜配布する。
参考文献等	「超AI入門ーディープラーニングはどこまで進化するのか」松尾豊(著)NHK出版 2019年 ¥1320 ISBN978-4140817711「Google Colaboratoryで学ぶ! あたらしい人工知能技術の教科書 機械学習・深層学習・強化学習で学ぶAIの基礎技術」我妻幸長(著)翔泳社 2021年 ¥3740 978-4798167206
成績評価基準	
成績評価の方法	授業内課題100% (その他:課題提出における参加度や意欲を加算)
G P A 基準	
備考	

科目名	キャリアガイダンスⅠ		科目ナンバー	AF042012
担当者	中森 美恵子			
科目	—			
施工規則に定める科目区分 または事項等	—			
授業形式	演習			
配当年次	1	科目群	一般教養科目	
開講期	後期	卒業の選択・必修	必修	
単位数	1	担当形態	複数	
免許・資格情報	—			

授業の概要	有意義な短大生活を過ごすために、卒業後の進路に関して多方面から学び、自己理解を深め、自分がどのような生き方をしたいのかを考える。			
授業の到達目標	1. 自己理解を深める2. 自分の生き方を考える			
ディプロマポリシー(DP)	1 主体的に学び、多様な考え方に触れ、柔軟な思考ができる。	2 自己を高めるとともに、他者との関わりを良好に保つことができる。	3 地域への関心を深め、地域活性化の担い手として課題解決に意欲的に取り組む。	4 社会や文化に対して関心を持ち、広い視野に立って、社会に参画する力を持つ。
DPとの関連	○	◎		
※関連するDP番号に○（複数可）、最も関連部会DP番号は◎（1か所のみ）				

授業計画		担当者
第1回	オリエンテーション進路支援ガイダンス キャリアセンターの利用と就職活動	浜崎・A
第2回	就職活動マナー講座(身だしなみ・電話)	石田
第3回	職業人に求められる基本姿勢	B
第4回	進路支援ガイダンス 自己分析(自己PR)を始めよう	竹中・A
第5回	業界研究（高齢者分野）	浜崎・久留須・B
第6回	業界研究（障害者分野）	浜崎・久留須・B
第7回	業界研究～福祉業界を調べてみよう～・就職内定者からの講話	浜崎・B
第8回	卒業生講話	浜崎・B
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ ICT教育等を府k無
	○	○			

担当教員の実務経験と授業の関連	実務経験のある教員が、キャリア形成の参考になるような支援を行う			
事前学習	進路支援ガイド(キャリアセンター発行)の内容をよく読み、就活に活かせるように準備しておく。また、卒業後の進路に関して、情報収集しておく。			学習合計時間(h) 15
事後学習	自分に適した就職先について調べる			学習合計時間(h) 15
課題に対するフィードバックの方法	レポート等の課題に対する質問があった場合、オフィスアワーを活用し個別に対応する			
質問・相談方法	オフィスアワーを活用し、個別に対応する			
オフィスアワー	木曜日 14:50～16:20 各講義室			

テキスト	『進路支援ガイド』 鹿児島女子短期大学 2023年			
参考文献等	特になし			
成績評価基準	到達目標に掲げた項目を理解すること。			
成績評価の方法	レポート等の提出状況と内容(100%)により評価する。			
GPA基準				
備考	COC科目A：就職ガイダンス(学生支援課職員) B：外部講師等(福祉施設関係者や生活福祉の卒業生等)			

科目名	キャリアガイダンスⅠ		科目ナンバー	AS032002
担当者	改元 香			
科目	—			
施工規則に定める科目区分 または事項等	—			
授業形式	演習			
配当年次	1	科目群	一般教養科目	
開講期	後期	卒業の選択・必修	必修	
単位数	1	担当形態	複数	
免許・資格情報	—			

授業の概要	有意義な短大生活を過ごすための指導や講話を行う。また、卒業後の進路に関して多方面から学び、自己理解を深め、自分がどのような生き方をしたいのかを考える機会とする。そのために、学外研修による生産者との交流や各種課外活動への参加により学習を深めさせる。			
授業の到達目標	1. 自己理解を深める2. 自分の生き方を考える			
ディプロマポリシー(DP)	1 主体的に学び、多様な考え方に触れ、柔軟な思考ができる。	2 自己を高めるとともに、他者との関わりを良好に保つことができる。	3 地域への関心を深め、地域活性化の担い手として課題解決に意欲的に取り組む。	4 社会や文化に対して関心を持ち、広い視野に立って、社会に参画する力を持つ。
DPとの関連	○			◎
※関連するDP番号に○（複数可）、最も関連部会DP番号は◎（1か所のみ）				

授業計画		担当者
第1回	多彩な職種と業種を系統的に学ぶ	C
第2回	地産地消と地域の活性化について考える（グループワーク）	A・C
第3回	地域とのかかわりについて考える（フィールドワーク）	A・C
第4回	社会人として必要なマナーを学ぶ（実技）	石田もとな
第5回	専門性を生かした職について考える（ディスカッション）	C
第6回	コミュニケーション方法について学ぶ（ICT活用）	A
第7回	卒後の進路について具体的に考える	A・C
第8回	進路決定までの道のりと、その後の生き方について考える	A
第9回	自己を分析し、自己理解を深める	A
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ ICT教育等を府k無
	○	○	○	○	○

担当教員の実務経験と授業の関連			
事前学習	日常的に求人情報を把握し企業研究を行う。進学希望者は進学先の研究を行う。	学習合計時間(h)	10
事後学習	課外活動やボランティア活動を通して地域との関わりを持つ。	学習合計時間(h)	20
課題に対するフィードバックの方法	レポート等の課題に対する質問があった場合、オフィスアワーを活用し個別に対応する。		
質問・相談方法	オフィスアワーを活用し、個別に対応する。		
オフィスアワー	木曜日 14:50～16:20 各講義室		

テキスト	特になし
参考文献等	『ビジネスマナーの基本講座』 ANA ラーニング 成美堂出版 1,000円(税抜き) (ISBN-13: 978-4415035734)
成績評価基準	各講義に出席し、自己理解を深め、自分の生き方について考えることができた場合に合格とする。
成績評価の方法	受講態度(60%)、レポート等の提出状況(40%)により、総合的に評価する。
G P A 基準	
備考	A：専攻教員 B：他学科教員 C：外部講師

科目名	海外事情		科目ナンバー	AA042010
担当者	黒川 太郎			
科目	—			
施工規則に定める科目区分 または事項等	—			
授業形式	演習			
配当年次	1	科目群	一般教養科目	
開講期	後期	卒業の選択・必修	選択	
単位数	2	担当形態	複数	
免許・資格情報	—			

授業の概要	本授業は、異文化体験を通し、国際理解を深め、国際感覚を養うことを目的とするものです。事前指導で研修国の文化や歴史、民族性を学習したのち、研修実施国及び時期は追って連絡します。履修学生が所属する学科の特性に見合った研修を行う予定です。（令和6年度は9月上旬に韓国研修を予定）			
授業の到達目標	1. 異文化に接し、異文化への理解を深める2. 体験的に国際感覚を養う3. 自らの専門分野について国際比較の観点から理解を深める			
ディプロマポリシー(DP)	1 主体的に学び、多様な考え方に触れ、柔軟な思考ができる。	2 自己を高めるとともに、他者との関わりを良好に保つことができる。	3 地域への関心を深め、地域活性化の担い手として課題解決に意欲的に取り組む。	4 社会や文化に対して関心を持ち、広い視野に立って、社会に参画する力を持つ。
DPとの関連	○			◎
※関連するDP番号に○（複数可）、最も関連部会DP番号は◎（1か所のみ）				

授業計画		担当者
第1回	事前説明 海外研修の流れと実施国の国情	黒川・勝久
第2回	実施国の文化	黒川・勝久
第3回	実施国の歴史	引率教員
第4回	実施国の言葉	引率教員
第5回	実施国の食生活	引率教員
第6回	実施国の伝統文化	引率教員
第7回	実施国の教育事情	引率教員
第8回	実施国の観光施設訪問	引率教員
第9回	実施国の文化施設訪問	引率教員
第10回	実施国の教育機関訪問	引率教員
第11回	実施国の現地料理実習	引率教員
第12回	実施国の言語学習	引率教員
第13回	実施国の交流	引率教員
第14回	日本文化の紹介	引率教員
第15回	研修成果の発表	黒川・勝久

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ ICT教育等を府k無
		○	○	○	

担当教員の勤務経験と授業の関連	在外公館での勤務経験を活かし、外国でのトラブルを事前指導に盛り込む。			
事前学習	インターネットやニュース、書籍を通し、実施国に関する情報を収集し、文化や人に対する関心を深める。			学習合計時間(h) 30
事後学習	学習した内容をまとめ、発表する。			学習合計時間(h) 30
課題に対するフィードバックの方法	適宜、個人個人に直接コメントしてフィードバックする。			
質問・相談方法	オフィスアワーに研究室にて対応			
オフィスアワー	木曜日(後期) 13:10～14:40 黒川研究室(西館307号室)			

テキスト	特になし			
参考文献等	『地球の歩き方 ガイドブック D10 台湾 2019年～2020年版』ダイヤモンド社 2019年 1700円(税抜き) ISBN: 978-4-478-82314-9 (令和元年度)			
成績評価基準	国際交流に関する視野の広がり国際理解に関する知見			
成績評価の方法	研修中の活動(40%) 事前研修(40%) レポート(20%)			
GPA基準				
備考	1. 参加学生数や研修実施国等の情勢により、開講されない可能性もある2. 本科目に興味を持つ学生は、連絡等のため初回の履修登録時に履修登録をする(後日取消可能)3. 初回の履修登録期間中に登録しない者は、原則として追加登録を認めない4. 参加学生は事前研修(夏季休暇中)に必ず参			

科目名	公共人類学		科目ナンバー	AA041206
担当者	岩切 朋彦			
科目	—			
施工規則に定める科目区分 または事項等	—			
授業形式	講義			
配当年次	1	科目群	一般教養科目	
開講期	前期・後期	卒業の選択・必修	選択	
単位数	2	担当形態	単独	
免許・資格情報	—			

授業の概要	文化を通して人類とは何かを問う「文化人類学」は、これまでさまざまな理論を蓄積してきました。「公共人類学」は、そうした文化人類学の理論を、さまざまな社会問題を解決するための手段として応用させた学問です。「多文化共生」が叫ばれる現代において、公共人類学の理論と思考法は、多様化する社会を生き抜くために大いに役に立つものです。この講義では、文化を巡る多様な社会問題に焦点を当てつつ、人類学的に思考し実践するとはどういうことなのかを教授していきます。			
授業の到達目標	1. 公共人類学の成り立ちと目的について理解する2. 異文化を巡る問題について、自らの経験を踏まえて考え、意見を述べることができる。3. 多文化共生社会を実現していくためにはどのようにすべきか自分なりの考えを述べるができる			
ディプロマポリシー(DP)	1 主体的に学び、多様な考え方に触れ、柔軟な思考ができる。	2 自己を高めるとともに、他者との関わりを良好に保つことができる。	3 地域への関心を深め、地域活性化の担い手として課題解決に意欲的に取り組む。	4 社会や文化に対して関心を持ち、広い視野に立って、社会に参画する力を持つ。
DPとの関連	○			◎
※関連するDP番号に○（複数可）、最も関連部会DP番号は◎（1か所のみ）				

授業計画		担当者
第1回	公共人類学とはなにかーイントロダクションとして	岩切
第2回	「グローバル化」する世界ーグローバル化とローカル化	岩切
第3回	「多文化化」する日本と多文化共生政策	岩切
第4回	「働く留学生」と多文化共生	岩切
第5回	技能実習生を巡る諸問題	岩切
第6回	食の多様性と異食文化理解	岩切
第7回	食とアイデンティティの複雑な関係	岩切
第8回	文化と医療行為の関係性ー医療人類学の基礎知識	岩切
第9回	多様な文化をまとった多様な身体ー障害と公共人類学	岩切
第10回	性的マイノリティは「異常」ではないーセクシャリティとジェンダー	岩切
第11回	幻想としての「日本人」ー国民国家とナショナリズム	岩切
第12回	植民地主義を乗り越えてーポストコロニアルな世界状況	岩切
第13回	なぜ英語を勉強しなければならないのかー英語帝国主義論(ディスカッションあり)	岩切
第14回	宗教と民族を巡る紛争	岩切
第15回	講義のまとめ	岩切

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ ICT教育等を府k無
	○				
担当教員の実務経験と授業の関連					
事前学習	新聞やテレビなどのニュースをしっかりとチェックする			学習合計時間(h)	30
事後学習	講義で学んだ理論を周囲の人々に口頭で説明する			学習合計時間(h)	30
課題に対するフィードバックの方法	オフィスアワー等で対応する。				
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワーで対応する				
オフィスアワー	金曜日 10:50～12:20 研究室(西館407号室)				
テキスト	特に使用しない。プリント配布、視聴覚教材				
参考文献等	『公共人類学』 東京大学出版会、20143200円(税抜)ISBN978-4-13-052305-9				
成績評価基準	・講義で学んだ知識を日常生活で実践できること ・自然だと考えられていた文化が、人間によって構築されてきたものだということを理解できること				
成績評価の方法	受講態度(20%) 試験(80%)				
GPA基準					
備考	授業で展開される議論に対する積極的な発言を歓迎します。受講態度の点数として加点します。私語等がひどい場合は減点します。				

科目名	英語の文学とメディア		科目ナンバー	AA011202
担当者	担当者未定			
科目	—			
施工規則に定める科目区分 または事項等	—			
授業形式	講義			
配当年次	1	科目群	一般教養科目	
開講期	前期・後期	卒業の選択・必修	選択	
単位数	2	担当形態	単独	
免許・資格情報	—			

授業の概要	この授業の目的は、様々な文学作品・メディア(映画、歌、新聞・雑誌など)に触れることで受講者の英語リテラシーを養うことです。授業は主に、1 英語で書かれたり話されたりする内容について解釈を行ったり情報を読み取ったりする活動、2得られた知見を踏まえて行う日本語・英語での表現活動で構成されています。この授業を通して、受講者が様々な英語作品・表現に触れたり、それらを味わいながら豊かな教養を身に付けることを目指しています。			
授業の到達目標	1. 英文の訳読などの活動を通し、より優れた言語感覚を身に付ける。2. 英文の字義理解を超えた解釈を行う中で、より高い読解能力を身に付ける。3. 英文の解釈に基づいた議論や発表を通して、より高い表現力を身に付ける。4. 英語を用いた様々な作品に触れることによって、異文化感受性や国際的志向性を高める。			
ディプロマポリシー(DP)	1 主体的に学び、多様な考え方に触れ、柔軟な思考ができる。	2 自己を高めるとともに、他者との関わりを良好に保つことができる。	3 地域への関心を深め、地域活性化の担い手として課題解決に意欲的に取り組む。	4 社会や文化に対して関心を持ち、広い視野に立って、社会に参画する力を持つ。
DPとの関連	○			
※関連するDP番号に○(複数可)、最も関連部会DP番号は◎(1か所のみ)				

授業計画		担当者
第1回	オリエンテーション	未定
第2回	歌と詩	未定
第3回	漫画	未定
第4回	アニメ	未定
第5回	ジャーナル(読解)	未定
第6回	ジャーナル(議論)	未定
第7回	物語文(読解)	未定
第8回	物語文(解釈・議論)	未定
第9回	物語文(執筆)	未定
第10回	映画(視聴)	未定
第11回	映画(視聴・議論)	未定
第12回	映画(翻訳)	未定
第13回	プレゼンテーションの準備	未定
第14回	プレゼンテーション	未定
第15回	総括	未定

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ ICT教育等を府k無
	○	○	○		
担当教員の実務経験と授業の関連					
事前学習	授業で使用する資料において、分からない単語等を調べてくる。教員からの指示がある場合、次回の授業で行う活動に必要な情報を調べたり、考えを整理したりする。			学習合計時間(h)	30
事後学習	授業内容をふりかえり、学んだことを整理する。			学習合計時間(h)	30
課題に対するフィードバックの方法	小レポートに対し教員からのコメントをつけて返却する。または次回以降の授業の際に口頭でフィードバックを行う。				
質問・相談方法	授業の前後、またはオフィスアワーに対応する。				
オフィスアワー	授業の前後講義室				
テキスト	特になし(配布するハンドアウトを使用する。)				
参考文献等	特になし				
成績評価基準	1. 語のニュアンスや日本語・英語の違いを意識したり、解釈を行ったりしながら英文を読むことができること。2. 英文から得られた知見を基に、自分の解釈や考えなどを表現することができること。				
成績評価の方法	プレゼンテーション(50%)、提出物(50%)				
G P A 基準					
備考					

科目名	アメリカ文学		科目ナンバー	AA041207
担当者	担当者未定			
科目	—			
施工規則に定める科目区分 または事項等	—			
授業形式	講義			
配当年次	1	科目群	一般教養科目	
開講期	前期・後期	卒業の選択・必修	選択	
単位数	2	担当形態	単独	
免許・資格情報	—			

授業の概要	この授業では、アメリカの短篇を3つ（ケイト・ショパン「デジレの赤ちゃん」、シャーウッド・アンダーソン「手」、ウィリアム・フォークナー「エミリーに薔薇を」）扱います。実際に作品を鑑賞し、作品に描かれる文化背景、歴史、性や人種などのテーマといった様々な角度から作品を読み解きます。また、作品に対する自分の解釈を考えてもらいます。			
授業の到達目標	1. アメリカの分化や社会背景を理解できる2. 作品を読み、自分の意見や作品の解釈を述べることができる3. 作品について学生同士でディスカッションできる			
ディプロマポリシー(DP)	1 主体的に学び、多様な考え方に触れ、柔軟な思考ができる。	2 自己を高めるとともに、他者との関わりを良好に保つことができる。	3 地域への関心を深め、地域活性化の担い手として課題解決に意欲的に取り組む。	4 社会や文化に対して関心を持ち、広い視野に立って、社会に参画する力を持つ。
DPとの関連	○	○		◎
※関連するDP番号に○（複数可）、最も関連部会DP番号は◎（1か所のみ）				

授業計画		担当者
第1回	イントロダクション	未定
第2回	ケイト・ショパン「デジレの赤ちゃん」1 ケイト・ショパンについて	未定
第3回	ケイト・ショパン「デジレの赤ちゃん」2 アメリカ南部	未定
第4回	ケイト・ショパン「デジレの赤ちゃん」3 奴隷制度	未定
第5回	ケイト・ショパン「デジレの赤ちゃん」4 ショパンの描く女性	未定
第6回	ケイト・ショパン「デジレの赤ちゃん」5 物語の解釈	未定
第7回	シャーウッド・アンダーソン「手」1 シャーウッド・アンダーソンについて	未定
第8回	シャーウッド・アンダーソン「手」2 共同体	未定
第9回	シャーウッド・アンダーソン「手」3 物語の解釈	未定
第10回	ウィリアム・フォークナー「エミリーに薔薇を」1 ウィリアム・フォークナーについて	未定
第11回	ウィリアム・フォークナー「エミリーに薔薇を」2 南北戦争	未定
第12回	ウィリアム・フォークナー「エミリーに薔薇を」3 南部と北部	未定
第13回	ウィリアム・フォークナー「エミリーに薔薇を」4 フォークナーの描く女性	未定
第14回	ウィリアム・フォークナー「エミリーに薔薇を」5 物語の解釈	未定
第15回	総括、ディスカッション	未定

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ ICT教育等を府k無
	○				
担当教員の実務経験と授業の関連					
事前学習	授業で扱う作品を前もって読んでおく			学習合計時間(h)	30
事後学習	講義で学んだことを踏まえ、作品を再読する			学習合計時間(h)	30
課題に対するフィードバックの方法	授業内で感想カードへのコメントを行う				
質問・相談方法	オフィスアワー、授業前後の時間、及び感想カードへのコメント				
オフィスアワー	授業の前後講義室				
テキスト	特になし				
参考文献等	ケイト・ショパン『目覚め』宮北恵子、吉岡恵子訳、南雲堂、2,800円(ISBN9784523292562)シャーウッド・アンダーソン『ワインズバーグ、オハイオ』上岡伸雄訳、新潮社、590円 (ISBN9784102201510) ウィリアム・フォークナー『フォークナー短編集』龍口直太郎訳、新潮社、590円				
成績評価基準	講義を聞き、作品への理解を深めること。また、それを踏まえた自分の意見が述べられること。				
成績評価の方法	各回の提出物 50% 期末レポート 50%				
GPA基準					
備考	他学科開放科目				

科目名	英語演習Ⅰ		科目ナンバー	AA021004
担当者	勝久 愛			
科目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目			
施工規則に定める科目区分 または事項等	外国語コミュニケーション			
授業形式	演習			
配当年次	1	科目群	一般教養科目	
開講期	前期	卒業の選択・必修	選択必修	
単位数	2	担当形態	クラス分け	
免許・資格情報	—			

授業の概要	この授業の目的は、四技能(リスニング、スピーキング、リーディング、ライティング)を用いながら、英語でのコミュニケーション能力を身につけることです。実際のコミュニケーション場面での英語運用を想定し、語彙・文法や定型表現など英語の基礎を学習します。自分や身の回りのことを英語で表現したり、他者と英語でやり取りを行ったりする力を身に付けます。また、言語の背景にある異文化について理解し、学んだことをコミュニケーションに活かせるようになることを目指しています。授業は主に教科書に沿って構成されていますが、教科書の話題や文法に関連した活動も追加で行われます。			
授業の到達目標	1. 基礎的な語順など、英語の構造や文法規則を理解することができる。2. 英語で読み聞かせる内容の概要を正しく理解することができる。3. 自分に関する情報や自分の身の回りのことを相手に英語で伝えることができる。			
ディプロマポリシー (DP)	1 主体的に学び、多様な考え方に触れ、柔軟な思考ができる。	2 自己を高めるとともに、他者との関わりを良好に保つことができる。	3 地域への関心を深め、地域活性化の担い手として課題解決に意欲的に取り組む。	4 社会や文化に対して関心を持ち、広い視野に立って、社会に参画する力を持つ。
DPとの関連	○	◎		
※関連するDP番号に○（複数可）、最も関連部会DP番号は◎（1か所のみ）				

授業計画		担当者
第1回	イントロダクション	勝久
第2回	Pre-unit: 基本語順	勝久
第3回	Unit 1: Welcome to the "Big Apple" 現在形	勝久
第4回	Unit 1: Welcome to the "Big Apple" 読解、ライティング、グループワーク	勝久
第5回	Unit 2: What's the Boss Like? 代名詞	勝久
第6回	Unit 2: What's the Boss Like? 読解、ライティング、グループワーク	勝久
第7回	Unit 3: Masa's First Day on the Job 前置詞	勝久
第8回	Unit 3: Masa's First Day on the Job 読解、ライティング、グループワーク	勝久
第9回	Unit 4: Summer Fun 過去形	勝久
第10回	Unit 4: Summer Fun 読解、ライティング、グループワーク	勝久
第11回	Unit 5: Hotel Guest Satisfaction 可算名詞・不可算名詞	勝久
第12回	Unit 5: Hotel Guest Satisfaction 読解、ライティング、グループワーク	勝久
第13回	Unit 6: Brainstorming 進行形	勝久
第14回	Unit 6: Brainstorming 読解、ライティング、グループワーク	勝久
第15回	総括	勝久

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ ICT教育等を府k無
		○			

担当教員の実務経験と授業の関連				
事前学習	授業で使用する教科書の範囲を予習し、わからない単語等を調べてくる。			学習合計時間(h) 30
事後学習	学習した語彙、文法をもう一度確認する。			学習合計時間(h) 30
課題に対するフィードバックの方法	課題を回収し、コメントをつけて返却する。			
質問・相談方法	授業の前後、またはオフィスアワーに対応する。			
オフィスアワー	金曜日 12:05~12:50 研究室(西館309号室)☑			

テキスト	『English Missions! Basic』 Robert Hickling、臼倉美里著、金星堂、1,900円(税別)、(ISBN978-4-7647-4071-6)			
参考文献等	特になし			
成績評価基準	1. 英語の構造や文法規則を理解していること。2. 書かれたり話されたりする英文の概要を正しく理解できること。3. 自分に関する情報や自分の身の回りのことを英語で表現できること。			
成績評価の方法	定期試験(50%) 小テスト(20%) 提出物など(30%)			
GPA基準				
備考				

科目名	英語演習Ⅰ		科目ナンバー	AA021004
担当者	中野 由美子			
科目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目			
施工規則に定める科目区分 または事項等	外国語コミュニケーション			
授業形式	演習			
配当年次	1	科目群	一般教養科目	
開講期	前期	卒業の選択・必修	選択必修	
単位数	2	担当形態	クラス分け	
免許・資格情報	—			

授業の概要	この授業の目的は、四技能(リスニング、スピーキング、リーディング、ライティング)を用いながら、英語でのコミュニケーション能力を身につけることです。実際のコミュニケーション場面での英語運用を想定し、語彙・文法や定型表現など英語の基礎を学習します。自分や身の回りのことを英語で表現したり、他者と英語でやり取りを行ったりする力を身に付けます。また、言語の背景にある異文化について理解し、学んだことをコミュニケーションに活かせるようになることを目指しています。授業は主に教科書に沿って構成されていますが、教科書の話題や文法に関連した活動も追加で行われます。			
授業の到達目標	1. 基礎的な語順など、英語の構造や文法規則を理解することができる。2. 英語で読み聞かせる内容の概要を正しく理解することができる。3. 自分に関する情報や自分の身の回りのことを相手に英語で伝えることができる。			
ディプロマポリシー(DP)	1 主体的に学び、多様な考え方に触れ、柔軟な思考ができる。	2 自己を高めるとともに、他者との関わりを良好に保つことができる。	3 地域への関心を深め、地域活性化の担い手として課題解決に意欲的に取り組む。	4 社会や文化に対して関心を持ち、広い視野に立って、社会に参画する力を持つ。
DPとの関連	○	◎		
※関連するDP番号に○(複数可)、最も関連部会DP番号は◎(1か所のみ)				

授業計画		担当者
第1回	イントロダクション	中野
第2回	Pre-unit: 基本語順	中野
第3回	Unit 1: Welcome to the "Big Apple" 現在形	中野
第4回	Unit 1: Welcome to the "Big Apple" 読解、ライティング、グループワーク	中野
第5回	Unit 2: What's the Boss Like? 代名詞	中野
第6回	Unit 2: What's the Boss Like? 読解、ライティング、グループワーク	中野
第7回	Unit 3: Masa's First Day on the Job 前置詞	中野
第8回	Unit 3: Masa's First Day on the Job 読解、ライティング、グループワーク	中野
第9回	Unit 4: Summer Fun 過去形	中野
第10回	Unit 4: Summer Fun 読解、ライティング、グループワーク	中野
第11回	Unit 5: Hotel Guest Satisfaction 可算名詞・不可算名詞	中野
第12回	Unit 5: Hotel Guest Satisfaction 読解、ライティング、グループワーク	中野
第13回	Unit 6: Brainstorming 進行形	中野
第14回	Unit 6: Brainstorming 読解、ライティング、グループワーク	中野
第15回	総括	中野

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ ICT教育等を府k無
		○			
担当教員の実務経験と授業の関連					
事前学習	授業で使用する教科書の範囲を予習し、わからない単語等を調べてくる。			学習合計時間(h)	30
事後学習	学習した語彙、文法をもう一度確認する。			学習合計時間(h)	30
課題に対するフィードバックの方法	課題を回収し、コメントをつけて返却する。				
質問・相談方法	授業の前後、またはオフィスアワーに対応する。				
オフィスアワー	授業の前後				
テキスト	『English Missions! Basic』 Robert Hickling、臼倉美里著、金星堂、1,900円(税別)、(ISBN978-4-7647-4071-6)				
参考文献等	特になし				
成績評価基準	1. 英語の構造や文法規則を理解していること。2. 書かれたり話されたりする英文の概要を正しく理解できること。3. 自分に関する情報や自分の身の回りのことを英語で表現できること。				
成績評価の方法	定期試験(50%) 小テスト(20%) 提出物など(30%)				
G P A 基準					
備考					

科目名	中国語演習Ⅰ		科目ナンバー	AA021005
担当者	黒川 太郎			
科目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目			
施工規則に定める科目区分 または事項等	外国語コミュニケーション			
授業形式	演習			
配当年次	1	科目群	一般教養科目	
開講期	前期	卒業の選択・必修	選択必修	
単位数	2	担当形態	単独	
免許・資格情報	—			

授業の概要	中国語初学者対象の授業です。簡単な挨拶表現、基本的な発音および文型を中心に教えます。日常生活に必要な語彙を身に付けることを目的に会話を中心とした授業を行います。毎回の授業では日本語との発音の違いに注意し、正確な発音の練習に時間を割き、授業の終わりには、受講者が中国語で自己紹介できることを目標とします。			
授業の到達目標	1.中国語の発音に慣れ、ローマ字ピンインで書ける。2.中国語で自己紹介し、1～10の数を正確に言える。3.簡単な挨拶表現ができる。			
ディプロマポリシー(DP)	1 主体的に学び、多様な考え方に触れ、柔軟な思考ができる。	2 自己を高めるとともに、他者との関わりを良好に保つことができる。	3 地域への関心を深め、地域活性化の担い手として課題解決に意欲的に取り組む。	4 社会や文化に対して関心を持ち、広い視野に立って、社会に参画する力を持つ。
DPとの関連	◎			○
※関連するDP番号に○（複数可）、最も関連部会DP番号は◎（1か所のみ）				

授業計画				担当者
第1回	オリエンテーション：語学を学ぶにあたって			黒川
第2回	第1課 挨拶(1)発音(声調・短母音)・ピンイン表記 「こんにちは」			黒川
第3回	第2課 挨拶(2)発音(子音・複合母音・鼻母音) 「お変わりありませんか」			黒川
第4回	第3課 挨拶(3)発音と簡単な挨拶表現 「お仕事は忙しいですか」			黒川
第5回	発音の矯正 自分の名前の中国語音の確認			黒川
第6回	第4課 初めて会う(1)疑問文 「お名前はなんとおっしゃいますか」			黒川
第7回	第5課 初めて会う(2)動詞述語文 「ちょっとご紹介します」			黒川
第8回	第1課～第5課復習(自己紹介)【会話テスト】			黒川
第9回	第6課 尋ねる(1)名詞述語文 「誕生日は何月何日ですか」			黒川
第10回	第7課 尋ねる(2)「有」文 「ご家族は何人ですか」			黒川
第11回	第8課 尋ねる(3)時間の読み方 「今何時ですか」			黒川
第12回	発音の矯正 疑問文の作り方			黒川
第13回	第9課 尋ねる(4) 連動文 「お住まいはどちらですか」			黒川
第14回	第10課 尋ねる(5) 方位詞 「郵便局はどこですか」			黒川
第15回	第6課～第10課復習(数を表す表現)【会話テスト】			黒川

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ ICT教育等を府k無
			○		

担当教員の勤務経験と授業の関連				
事前学習	・教科書付属のCDを聞き、中国語独特の発音とリズムを習得する。・授業前後に新出単語の学習をする。			学習合計時間(h) 30
事後学習	・教科書付属のCDを聞き、中国語独特の発音とリズムを習得する。・授業前後に新出単語の学習をする。			学習合計時間(h) 30
課題に対するフィードバックの方法	希望があれば個別に対応する。また、授業内で言及する場合もある。			
質問・相談方法	オフィスアワー内で対応			
オフィスアワー	月曜日(前期) 13:00～17:00 黒川研究室(西館307号室)			

テキスト	『新訳第3版 中国語会話301(上)』 康玉華・来思平 語文研究社 2006年 1300円(税抜き)(ISBN-10: 493131550X)			
参考文献等	特になし			
成績評価基準	ローマ字ピンインを正確に発音できること。自己紹介・簡単な挨拶表現ができること。			
成績評価の方法	定期試験(50%)出席・遅刻などを含む受講態度を総合的に評価(30%)授業内で行う会話試験(20%)			
GPA基準				
備考				

科目名	韓国語演習Ⅰ		科目ナンバー	AA021006
担当者	鶴田 かおり			
科目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目			
施工規則に定める科目区分 または事項等	外国語コミュニケーション			
授業形式	演習			
配当年次	1	科目群	一般教養科目	
開講期	前期	卒業の選択・必修	選択必修	
単位数	2	担当形態	クラス分け	
免許・資格情報	—			

授業の概要	授業は教科書に基づいて学習するが、外国語の学習は知識にとどまるのではなく使えるようになってこそ意味があるという見地に立って、コミュニケーションの場を想定した演習形式で学習するように図り、さらに学習したことが確実に理解されているかどうかを提出課題、小テストなどによってチェックする。			
授業の到達目標	・ハングルを正しく確実に読み書きができる。・簡単な韓国語文の構造を理解し、正確に音読し書くことができる。・基本的な日常の挨拶や簡単な自己紹介、会話をすることができる。・韓国・韓国文化に対する理解を深める。			
ディプロマポリシー(DP)	1 主体的に学び、多様な考え方に触れ、柔軟な思考ができる。	2 自己を高めるとともに、他者との関わりを良好に保つことができる。	3 地域への関心を深め、地域活性化の担い手として課題解決に意欲的に取り組む。	4 社会や文化に対して関心を持ち、広い視野に立って、社会に参画する力を持つ。
DPとの関連	○	◎		○
※関連するDP番号に○（複数可）、最も関連部会DP番号は◎（1か所のみ）				

授業計画			担当者
第1回	オリエンテーション(授業の進め方、成績評価基準など)、ハングルの構造、挨拶表現(人に出会ったとき)		鶴田
第2回	母音字母、挨拶表現(初対面のとき)		鶴田
第3回	子音字母、挨拶表現(久しぶりに会ったとき)		鶴田
第4回	平音・激音・濃音、カギヤ表、有声化、挨拶表現(人と別れるとき)		鶴田
第5回	複合中声、終声(パッチム)、簡単な挨拶(お礼とその返答)		鶴田
第6回	連音化、簡単な挨拶(お詫びとその返答)		鶴田
第7回	仮名のハングル表記、音声変化、簡単な挨拶(お祝い)		鶴田
第8回	文字と発音のまとめ、簡単な挨拶(その他)		鶴田
第9回	会話練習（決まり文句）、ハングル入力練習		鶴田
第10回	第1課(今、韓国に住んでいます)の本文解説と朗読練習、文法解説		鶴田
第11回	第1課(今、韓国に住んでいます)の文法解説(つづき)、応用練習		鶴田
第12回	第2課(趣味は何ですか)の本文解説と朗読練習、文法解説		鶴田
第13回	第2課(趣味は何ですか)の文法解説(つづき)、応用練習		鶴田
第14回	今学期の学習のまとめ		鶴田
第15回	音読試験		鶴田

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ ICT教育等を府k無
		○			

担当教員の実務経験と授業の関連				
事前学習	次回に習うことについて一通り目を通し、理解しにくい点がどこか明らかにしておく。練習問題、応用練習問題はあらかじめやっておくようにする。			学習合計時間(h) 30
事後学習	授業中に習った練習問題、応用練習は5回以上反復練習する。小テストに備えて復習をする。課題は決められた期日までに提出する。			学習合計時間(h) 30
課題に対するフィードバックの方法	毎回提出された課題の添削および返却。			
質問・相談方法	授業前後およびオフィスアワーで対応する。メールでは随時対応可能。			
オフィスアワー	月曜日 9:00-9:10、12:20-30(講義室)			

テキスト	『韓国語の基礎Ⅰ第2版』 飯田秀敏・鄭芝淑・飯田桃子 共著、朝日出版社、2025、2,400円(税抜き)、ISBN : 9784255557328			
参考文献等	必要があれば授業中に指示する。			
成績評価基準	授業に積極的に取り組み、この授業の到達目標を達成できたものを合格とする。			
成績評価の方法	課題(30%)と期末試験(70% :音読試験20%、筆記試験50%)で総合的に判定する。			
G P A 基準				
備考	・受講希望者が5名以下の場合開講されません。・韓国語を初めて学習する人が望ましい。受講者へのコメント 外国語の学習はとにかく「楽しく」やらなければなりません。単位のための勉強などと考えずに、未知の世界に踏み込み自分の世界を広げるのだという気持ちで、元氣よく参加してください。			

科目名	韓国語演習Ⅰ		科目ナンバー	AA021006
担当者	鄭 芝淑			
科目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目			
施工規則に定める科目区分 または事項等	外国語コミュニケーション			
授業形式	演習			
配当年次	1	科目群	一般教養科目	
開講期	前期	卒業の選択・必修	選択必修	
単位数	2	担当形態	クラス分け	
免許・資格情報	—			

授業の概要	授業は教科書に基づいて学習するが、外国語の学習は知識にとどまるのではなく使えるようになってこそ意味があるという見地に立って、コミュニケーションの場を想定した演習形式で学習するように図り、さらに学習したことが確実に理解されているかどうかを提出課題、小テストなどによってチェックする。			
授業の到達目標	・ハングルを正しく確実に読み書きができる。・簡単な韓国語文の構造を理解し、正確に音読し書くことができる。・基本的な日常の挨拶や簡単な自己紹介、会話をすることができる。・韓国・韓国文化に対する理解を深める。			
ディプロマポリシー(DP)	1 主体的に学び、多様な考え方に触れ、柔軟な思考ができる。	2 自己を高めるとともに、他者との関わりを良好に保つことができる。	3 地域への関心を深め、地域活性化の担い手として課題解決に意欲的に取り組む。	4 社会や文化に対して関心を持ち、広い視野に立って、社会に参画する力を持つ。
DPとの関連	○	◎		○
※関連するDP番号に○（複数可）、最も関連部会DP番号は◎（1か所のみ）				

授業計画			担当者
第1回	オリエンテーション(授業の進め方、成績評価基準など)、ハングルの構造、挨拶表現(人に出会ったとき)		鄭
第2回	母音字母、挨拶表現(初対面のとき)		鄭
第3回	子音字母、挨拶表現(久しぶりに会ったとき)		鄭
第4回	平音・激音・濃音、カギヤ表、有声化、挨拶表現(人と別れるとき)		鄭
第5回	複合中声、終声(パッチム)、簡単な挨拶(お礼とその返答)		鄭
第6回	連音化、簡単な挨拶(お詫びとその返答)		鄭
第7回	仮名のハングル表記、音声変化、簡単な挨拶(お祝い)		鄭
第8回	文字と発音のまとめ、簡単な挨拶(その他)		鄭
第9回	会話練習（決まり文句）、ハングル入力練習		鄭
第10回	第1課(今、韓国に住んでいます)の本文解説と朗読練習、文法解説		鄭
第11回	第1課(今、韓国に住んでいます)の文法解説(つづき)、応用練習		鄭
第12回	第2課(趣味は何ですか)の本文解説と朗読練習、文法解説		鄭
第13回	第2課(趣味は何ですか)の文法解説(つづき)、応用練習		鄭
第14回	今学期の学習のまとめ		鄭
第15回	音読試験		鄭

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ ICT教育等を府k無
		○			

担当教員の実務経験と授業の関連				
事前学習	次回に習うことについて一通り目を通し、理解しにくい点がどこか明らかにしておく。練習問題、応用練習問題はあらかじめやっておくようにする。			学習合計時間(h) 30
事後学習	授業中に習った練習問題、応用練習は5回以上反復練習する。小テストに備えて復習をする。課題は決められた期日までに提出する。			学習合計時間(h) 30
課題に対するフィードバックの方法	毎回提出された課題の添削および返却。			
質問・相談方法	授業前後およびオフィスアワーで対応する。メールでは随時対応可能。			
オフィスアワー	月曜日 9:00-9:10、12:20-30(講義室)			

テキスト	『韓国語の基礎Ⅰ第2版』 飯田秀敏・鄭芝淑・飯田桃子 共著、朝日出版社、2025、2,400円(税抜き)、ISBN : 9784255557328
参考文献等	必要があれば授業中に指示する。
成績評価基準	授業に積極的に取り組み、この授業の到達目標を達成できたものを合格とする。
成績評価の方法	課題(30%)と期末試験(70% :音読試験20%、筆記試験50%)で総合的に判定する。
G P A 基準	
備考	・受講希望者が5名以下の場合開講されません。・韓国語を初めて学習する人が望ましい。受講者へのコメント 外国語の学習はとにかく「楽しく」やらなければなりません。単位のための勉強などと考えずに、未知の世界に踏み込み自分の世界を広げるのだという気持ちで、元氣よく参加してください。

科目名	韓国語演習Ⅰ		科目ナンバー	AA021006
担当者	姜 美貞			
科目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目			
施工規則に定める科目区分 または事項等	外国語コミュニケーション			
授業形式	演習			
配当年次	1	科目群	一般教養科目	
開講期	前期	卒業の選択・必修	選択必修	
単位数	2	担当形態	クラス分け	
免許・資格情報	—			

授業の概要	授業は教科書に基づいて学習するが、外国語の学習は知識にとどまるのではなく使えるようになってこそ意味があるという見地に立って、コミュニケーションの場を想定した演習形式で学習するように図り、さらに学習したことが確実に理解されているかどうかを提出課題、小テストなどによってチェックする。			
授業の到達目標	・ハングルを正しく確実に読み書きができる。・簡単な韓国語文の構造を理解し、正確に音読し書くことができる。・基本的な日常の挨拶や簡単な自己紹介、会話をすることができる。・韓国・韓国文化に対する理解を深める。			
ディプロマポリシー(DP)	1 主体的に学び、多様な考え方に触れ、柔軟な思考ができる。	2 自己を高めるとともに、他者との関わりを良好に保つことができる。	3 地域への関心を深め、地域活性化の担い手として課題解決に意欲的に取り組む。	4 社会や文化に対して関心を持ち、広い視野に立って、社会に参画する力を持つ。
DPとの関連	○	◎	○	○
※関連するDP番号に○（複数可）、最も関連部会DP番号は◎（1か所のみ）				

授業計画			担当者
第1回	オリエンテーション(授業の進め方、成績評価基準など)、ハングルの構造、挨拶表現(人に出会ったとき)		姜
第2回	母音字母、挨拶表現(初対面のとき)		姜
第3回	子音字母、挨拶表現(久しぶりに会ったとき)		姜
第4回	平音・激音・濃音、カギャ表、有声化、挨拶表現(人と別れるとき)		姜
第5回	複合中声、終声(パッチム)、簡単な挨拶(お礼とその返答)		姜
第6回	連音化、簡単な挨拶(お詫びとその返答)		姜
第7回	仮名のハングル表記、音声変化、簡単な挨拶(お祝い)		姜
第8回	文字と発音のまとめ、簡単な挨拶(その他)		姜
第9回	会話練習（決まり文句）、ハングル入力練習		姜
第10回	第1課(今、韓国に住んでいます)の本文解説と朗読練習、文法解説		姜
第11回	第1課(今、韓国に住んでいます)の文法解説(つづき)、応用練習		姜
第12回	第2課(趣味は何ですか)の本文解説と朗読練習、文法解説		姜
第13回	第2課(趣味は何ですか)の文法解説(つづき)、応用練習		姜
第14回	今学期の学習のまとめ		姜
第15回	音読試験		姜

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ ICT教育等を府k無
		○			

担当教員の実務経験と授業の関連				
事前学習	次回に習うことについて一通り目を通し、理解しにくい点がどこか明らかにしておく。練習問題、応用練習問題はあらかじめやっておくようにする。			学習合計時間(h) 30
事後学習	授業中に習った練習問題、応用練習は5回以上反復練習する。小テストに備えて復習をする。課題は決められた期日までに提出する。			学習合計時間(h) 30
課題に対するフィードバックの方法	毎回提出された課題の添削および返却。			
質問・相談方法	授業前後およびオフィスアワーで対応する。メールでは随時対応可能。			
オフィスアワー	月曜日 9:00-9:10、12:20-30(講義室)			

テキスト	『韓国語の基礎Ⅰ第2版』 飯田秀敏・鄭芝淑・飯田桃子 共著、朝日出版社、2025、2,400円(税抜き)、ISBN : 9784255557328			
参考文献等	必要があれば授業中に指示する。			
成績評価基準	授業に積極的に取り組み、この授業の到達目標を達成できたものを合格とする。			
成績評価の方法	課題(30%)と期末試験(70% :音読試験20%、筆記試験50%)で総合的に判定する。			
G P A 基準				
備考	・受講希望者が5名以下の場合開講されません。・韓国語を初めて学習する人が望ましい。受講者へのコメント 外国語の学習はとにかく「楽しく」やらなければなりません。単位のための勉強などと考えずに、未知の世界に踏み込み自分の世界を広げるのだという気持ちで、元氣よく参加してください。			

科目名	日本語演習Ⅰ		科目ナンバー	AR021007
担当者	村本 茜			
科目	—			
施工規則に定める科目区分 または事項等	—			
授業形式	演習			
配当年次	1	科目群	一般教養科目〔留学生特別科目〕	
開講期	前期	卒業の選択・必修	選択必修	
単位数	2	担当形態	単独	
免許・資格情報	—			

授業の概要	この授業では、日本語学校で習ったJLPT N2(CEFR B2.2)レベルの日本語の言葉や表現を復習し、会話や作文で正しく使えるようにします。その後N1(C1～C2)の学習に入ります。短期大学の授業では、日本語学校の授業では習わない専門的な言葉も覚える必要があるため、その勉強もします。また、色々な場面での会話練習や、日本のニュース記事などを読んで、他の国や地域と比較しながら、自分の意見や考えを言ったり、書いたりする練習もします。			
授業の到達目標	1.N2～N1レベルの日本語の漢字や語い、表現を覚え、会話や作文で、それらを正しく、効果的に使うことができる 2.短期大学の授業で使われる言葉の意味が分かる 3.日本の社会や文化について理解を深め、自分の意見を明確に述べられる			
ディプロマポリシー(DP)	1 主体的に学び、多様な考え方に触れ、柔軟な思考ができる。	2 自己を高めるとともに、他者との関わりを良好に保つことができる。	3 地域への関心を深め、地域活性化の担い手として課題解決に意欲的に取り組む。	4 社会や文化に対して関心を持ち、広い視野に立って、社会に参画する力を持つ。
DPとの関連	◎	○		○
※関連するDP番号に○（複数可）、最も関連部会DP番号は◎（1か所のみ）				

授業計画		担当者
第1回	テストをして、みなさんの日本語の能力を調べます	村本
第2回	文法：行為の対象／語いと漢字1／会話・ディスカッション：ニュース	村本
第3回	文法：目的・手段・媒介／語いと漢字2／会話・ディスカッション：旅行	村本
第4回	文法：起点・終点・限界・範囲／語いと漢字3／日本の歌を歌う	村本
第5回	文法：時間的同時性・時間的前後関係／語いと漢字4／会話・ディスカッション：ニュース	村本
第6回	文法：進行・相関関係 /語いと漢字5／会話・ディスカッション：学校	村本
第7回	文法：付帯・非付帯 /語いと漢字6／作文：学校	村本
第8回	中間テスト	村本
第9回	文法：限定／語いと漢字7／会話・ディスカッション：ニュース	村本
第10回	文法：非限定・付加 /語いと漢字8／会話・ディスカッション：病院	村本
第11回	文法：比較・程度・対比 /語いと漢字9／日本の昔話を読む	村本
第12回	文法：基準／語いと漢字10／会話・ディスカッション：ニュース	村本
第13回	文法：関連・対応／語いと漢字11／会話・ディスカッション：お祭り	村本
第14回	文法：無関係・無視・例外 /語いと漢字12／作文：お祭り	村本
第15回	日本の映画を見て「日本文化」について考えます	村本

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ ICT教育等を府k無
	○	○			

担当教員の実務経験と授業の関連				
事前学習	授業の前に配ったプリントを見ておいてください			学習合計時間(h) 30
事後学習	授業で教わったことを、その日に家でもう一度勉強し、実際の場面で使ってみてください			学習合計時間(h) 30
課題に対するフィードバックの方法	中間テストなどで確認します			
質問・相談方法	何かあれば、授業中や授業の前後に相談・質問してください			
オフィスアワー				

テキスト	特になし(プリントを配ります)			
参考文献等	『改訂版 どんなときどう使う 日本語表現文型500』 友松悦子ほか 株式会社アルク 2013年 2500円 (ISBN: 978-4757418905), 『新・シャドーイング 日本語を話そう! 中～上級編 [英語・中国語・韓国語訳版]』 斎藤仁志ほか くろしお出版 2022年 1800円 (ISBN: 978-4-87424-899-7)			
成績評価基準	授業に対する積極性や、勉強した文型や語いが使えるようになったかどうかを評価の基準にします			
成績評価の方法	授業態度(20%) 中間テスト(40%) 課題レポート(40%)			
G P A 基準				
備考	受講対象者 留学生のみ			

科目名	英語演習Ⅱ		科目ナンバー	AA022009
担当者	勝久 愛			
科目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目			
施工規則に定める科目区分 または事項等	外国語コミュニケーション			
授業形式	演習			
配当年次	1	科目群	一般教養科目	
開講期	後期	卒業の選択・必修	選択必修	
単位数	2	担当形態	クラス分け	
免許・資格情報	—			

授業の概要	この授業の目的は、前期に引き続き、四技能(リスニング、スピーキング、リーディング、ライティング)を用いながら、英語でのコミュニケーション能力を身につけることです。実際のコミュニケーション場面での英語運用を想定し、語彙・文法や定型表現など英語の基礎を学習します。自分や身の回りのことを英語で表現したり、他者と英語でやり取りを行ったりする力を身につけます。また、言語の背景にある異文化について理解し、学んだことをコミュニケーションに活かせるようになることを目指しています。授業は主に教科書に沿って構成されていますが、教科書の話題や文法に関連した活動も追加で行われます。			
授業の到達目標	1. 英語の文法規則や英語表現を理解し、活用できる。2. 英語で読み聞かせる内容の概要や詳細を正しく理解できる。3. 身近な話題や自分の意見を相手に英語で伝えることができる。			
ディプロマポリシー(DP)	1 主体的に学び、多様な考え方に触れ、柔軟な思考ができる。	2 自己を高めるとともに、他者との関わりを良好に保つことができる。	3 地域への関心を深め、地域活性化の担い手として課題解決に意欲的に取り組む。	4 社会や文化に対して関心を持ち、広い視野に立って、社会に参画する力を持つ。
DPとの関連		○		
※関連するDP番号に○(複数可)、最も関連部会DP番号は◎(1か所のみ)				

授業計画			担当者
第1回	イントロダクション、Unit 7: Glad to Be of Service WH疑問文		勝久
第2回	Unit 7: Glad to Be of Service 読解、ライティング、グループワーク		勝久
第3回	Unit 8: Socializing with Co-Workers 動名詞・不定詞		勝久
第4回	Unit 8: Socializing with Co-Workers 読解、ライティング、グループワーク		勝久
第5回	Unit 9: Vacation Spots 未来形		勝久
第6回	Unit 9: Vacation Spots 読解、ライティング、グループワーク		勝久
第7回	Unit 10: Sports Talk 比較級・最上級		勝久
第8回	Unit 10: Sports Talk 読解、ライティング、グループワーク		勝久
第9回	Unit 11: Tour Day 助動詞		勝久
第10回	Unit 11: Tour Day 読解、ライティング、グループワーク		勝久
第11回	Unit 12: Party Time! 現在完了形		勝久
第12回	Unit 12: Party Time! 読解、ライティング、グループワーク		勝久
第13回	Unit 13: Office Meeting 関係詞		勝久
第14回	Unit 13: Office Meeting 読解、ライティング、グループワーク		勝久
第15回	総括		勝久

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ ICT教育等を府k無
		○			

担当教員の実務経験と授業の関連				
事前学習	授業で使用する教科書の範囲を予習し、分からない単語等を調べてくる。教員からの指示がある場合、次回の授業で行う活動に必要な情報を調べたり、考えを整理したりする。			学習合計時間(h) 30
事後学習	以降の授業で活用ができるよう、学習した語彙、文法、表現等を復習する。			学習合計時間(h) 30
課題に対するフィードバックの方法	課題を回収し、コメントをつけて返却する。または次回以降の授業の際に口頭でフィードバックを行う。			
質問・相談方法	授業の前後、またはオフィスアワーに対応する。			
オフィスアワー	金曜日 14:40~16:10 研究室(西館408号室)月曜日?金曜日 12:40~13:10 研究室(西館408号室)			

テキスト	『English Missions! Basic』 Robert Hickling、臼倉美里著、金星堂、1,900円(税別)、(ISBN978-4-7647-4071-6)			
参考文献等	特になし			
成績評価基準	1. 英語の文法規則や英語表現を理解し、活用できること。2. 書かれたり話されたりする英文の概要や詳細を正しく理解できること。3. 身近な話題や自分の意見を英語で表現できること。			
成績評価の方法	定期試験(50%) 小テスト(20%) 提出物(30%)			
G P A 基準				
備考				

科目名	英語演習Ⅱ		科目ナンバー	AA022009
担当者	中野 由美子			
科目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目			
施工規則に定める科目区分 または事項等	外国語コミュニケーション			
授業形式	演習			
配当年次	1	科目群	一般教養科目	
開講期	後期	卒業の選択・必修	選択必修	
単位数	2	担当形態	クラス分け	
免許・資格情報	—			

授業の概要	この授業の目的は、前期に引き続き、四技能(リスニング、スピーキング、リーディング、ライティング)を用いながら、英語でのコミュニケーション能力を身につけることです。実際のコミュニケーション場面での英語運用を想定し、語彙・文法や定型表現など英語の基礎を学習します。自分や身の回りのことを英語で表現したり、他者と英語でやり取りを行ったりする力を身につけます。また、言語の背景にある異文化について理解し、学んだことをコミュニケーションに活かせるようになることを目指しています。授業は主に教科書に沿って構成されていますが、教科書の話題や文法に関連した活動も追加で行われます。			
授業の到達目標	1. 英語の文法規則や英語表現を理解し、活用できる。2. 英語で読み聞かす内容の概要や詳細を正しく理解できる。3. 身近な話題や自分の意見を相手に英語で伝えることができる。			
ディプロマポリシー(DP)	1 主体的に学び、多様な考え方に触れ、柔軟な思考ができる。	2 自己を高めるとともに、他者との関わりを良好に保つことができる。	3 地域への関心を深め、地域活性化の担い手として課題解決に意欲的に取り組む。	4 社会や文化に対して関心を持ち、広い視野に立って、社会に参画する力を持つ。
DPとの関連	○	◎		
※関連するDP番号に○(複数可)、最も関連部会DP番号は◎(1か所のみ)				

授業計画			担当者
第1回	イントロダクション、Unit 7: Glad to Be of Service WH疑問文		中野
第2回	Unit 7: Glad to Be of Service 読解、ライティング、グループワーク		中野
第3回	Unit 8: Socializing with Co-Workers 動名詞・不定詞		中野
第4回	Unit 8: Socializing with Co-Workers 読解、ライティング、グループワーク		中野
第5回	Unit 9: Vacation Spots 未来形		中野
第6回	Unit 9: Vacation Spots 読解、ライティング、グループワーク		中野
第7回	Unit 10: Sports Talk 比較級・最上級		中野
第8回	Unit 10: Sports Talk 読解、ライティング、グループワーク		中野
第9回	Unit 11: Tour Day 助動詞		中野
第10回	Unit 11: Tour Day 読解、ライティング、グループワーク		中野
第11回	Unit 12: Party Time! 現在完了形		中野
第12回	Unit 12: Party Time! 読解、ライティング、グループワーク		中野
第13回	Unit 13: Office Meeting 関係詞		中野
第14回	Unit 13: Office Meeting 読解、ライティング、グループワーク		中野
第15回	総括		中野

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ ICT教育等を府k無
		○			
担当教員の実務経験と授業の関連					
事前学習	授業で使用する教科書の範囲を予習し、わからない単語等を調べてくる。			学習合計時間(h)	30
事後学習	学習した語彙、文法をもう一度確認する。			学習合計時間(h)	30
課題に対するフィードバックの方法	課題を回収し、コメントをつけて返却する。				
質問・相談方法	授業の前後、またはオフィスアワーに対応する。				
オフィスアワー	金曜日 12:05~12:50 研究室(西館309号室)				
テキスト	『English Missions! Basic』 Robert Hickling、臼倉美里著、金星堂、1,900円(税別)、(ISBN978-4-7647-4071-6)				
参考文献等	特になし				
成績評価基準	学習した語彙、文法を理解し、読解や聞き取りができること。自分の意見を英語で表現できること。				
成績評価の方法	定期試験(50%) 小テスト(20%) 提出物など(30%)				
GPA基準					
備考					

科目名	中国語演習Ⅱ		科目ナンバー	AA022010
担当者	黒川 太郎			
科目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目			
施工規則に定める科目区分 または事項等	外国語コミュニケーション			
授業形式	演習			
配当年次	1	科目群	一般教養科目	
開講期	後期	卒業の選択・必修	選択必修	
単位数	2	担当形態	単独	
免許・資格情報	—			

授業の概要	中国語演習Ⅰの履修者が受講する科目です。演習Ⅰと同じの教科書を用い、新しい表現と文法を学び、引き続き正確な発音練習を授業内で行います。また、日常生活や旅行で役立つような簡単な表現を中心に教えると同時に配布資料を通じて新たな語彙の習得を目指します。この授業の終わりには、受講者が中国語母語者を相手に簡単な受け答えができるようになることを目標としています。			
授業の到達目標	1.本文を正確に読むことができる。2.基本的な文型を使った表現ができる。3.日常会話に必要な単語を覚え、正確に発音できる。			
ディプロマポリシー(DP)	1 主体的に学び、多様な考え方に触れ、柔軟な思考ができる。	2 自己を高めるとともに、他者との関わりを良好に保つことができる。	3 地域への関心を深め、地域活性化の担い手として課題解決に意欲的に取り組む。	4 社会や文化に対して関心を持ち、広い視野に立って、社会に参画する力を持つ。
DPとの関連	◎			○
※関連するDP番号に○(複数可)、最も関連部会DP番号は◎(1か所のみ)				

授業計画			担当者
第1回	前期の復習(1課～10課)		黒川
第2回	第11課 必要(1)語気助詞「了」「みかんを買いたいです」		黒川
第3回	第12課 必要(2)主述述語文「セーターを買いたいです」		黒川
第4回	第13課 必要(3)能願助詞「会」「乗り換えが必要です」		黒川
第5回	旅行時の会話表現		黒川
第6回	第14課 必要(4)兼語文「両替に行きたいです」		黒川
第7回	第15課 必要(5)「是」文「写真を撮りたいです」		黒川
第8回	復習第11課～第15課【会話テスト】		黒川
第9回	第16課 約束(1)動態助詞「?」「京劇を見たことがありますか」		黒川
第10回	第17課 約束(2)選択疑問文「動物園に行きます」		黒川
第11回	買い物での表現、お金の言い方		黒川
第12回	第18課 迎える(1)文型「要～了」「道中お疲れさまでした」		黒川
第13回	第19課 迎える(2)動量補語「歓迎いたします」		黒川
第14回	第20課 程度補語「私たちの友情のために乾杯」		黒川
第15回	復習第16課～第20課【会話テスト】		黒川

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ ICT教育等を府k無
			○		
担当教員の実務経験と授業の関連					
事前学習	・教科書付属のCD を聞いて声調等の発音を身につける・教科書の本文とローマ字ピンインを書き写し、覚える			学習合計時間(h)	30
事後学習	・教科書付属のCD を聞いて声調等の発音を身につける・教科書の本文とローマ字ピンインを書き写し、覚える			学習合計時間(h)	30
課題に対するフィードバックの方法	希望があれば個別に対応する。また、授業内で言及する場合もある。				
質問・相談方法	オフィスアワー内で対応。				
オフィスアワー	木曜日(後期) 13:10~14:40 黒川研究室(西館307号室)				
テキスト	『新訳第3版 中国語会話301(上)』 康玉華・来思平 語文研究社 2006年 1300円(税抜き)(ISBN-10: 493131550X)				
参考文献等	特になし				
成績評価基準	教科書内の文章を正確に読むことができる。基本的な文型を応用した表現ができる。				
成績評価の方法	定期試験(50%)出席・遅刻などを含む受講態度を総合的に評価(30%)授業内で行う会話試験(20%)				
GPA基準					
備考					

科目名	韓国語演習Ⅱ		科目ナンバー	AA022011
担当者	鶴田 かおり			
科目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目			
施工規則に定める科目区分 または事項等	外国語コミュニケーション			
授業形式	演習			
配当年次	1	科目群	一般教養科目	
開講期	後期	卒業の選択・必修	選択必修	
単位数	2	担当形態	クラス分け	
免許・資格情報	—			

授業の概要	「韓国語演習Ⅰ」に引き続き、より発展した表現を学習し会話能力を高めていく。外国語の学習は単なる知識にとどまるのではなく実際に使えるようになってこそ意味があるという見地に立って、コミュニケーションの場を想定した演習形式で学習するように図り、さらに学習したことが確実に理解されているかどうかを提出課題、小テストなどによってチェックする。			
授業の到達目標	・簡単な韓国語文の構造を理解し、正確に音読し書くことができる。・日常よく使われる簡単な単語や文を使うことができる。・韓国語の学習を通じて、その背景にある韓国事情・韓国文化の基本的な事項について説明ができる。			
ディプロマポリシー(DP)	1 主体的に学び、多様な考え方に触れ、柔軟な思考ができる。	2 自己を高めるとともに、他者との関わりを良好に保つことができる。	3 地域への関心を深め、地域活性化の担い手として課題解決に意欲的に取り組む。	4 社会や文化に対して関心を持ち、広い視野に立って、社会に参画する力を持つ。
DPとの関連	○	◎		○
※関連するDP番号に○（複数可）、最も関連部会DP番号は◎（1か所のみ）				

授業計画		担当者
第1回	前期の復習	鶴田
第2回	第3課(弟もいますか)の文法解説と朗読練習、文法解説	鶴田
第3回	3課(弟もいますか)の文法解説(つづき)、応用練習	鶴田
第4回	第4課(勉強よくできますか。)の本文対話解説と朗読練習、文法解説	鶴田
第5回	第4課(勉強よくできますか)の文法解説(つづき)、応用練習	鶴田
第6回	会話練習	鶴田
第7回	第5課(誕生日はいつですか)の本文対話解説と朗読練習、文法解説	鶴田
第8回	第5課(誕生日はいつですか)の文法解説(つづき)、応用練習	鶴田
第9回	漢数詞の練習、会話練習	鶴田
第10回	第6課(家族と一緒に故郷に行きます)の本文対話解説と朗読練習、文法解説	鶴田
第11回	第6課(家族と一緒に故郷に行きます)の文法解説(つづき)、応用練習	鶴田
第12回	固有数詞の練習、会話練習	鶴田
第13回	会話練習	鶴田
第14回	今学期の学習のまとめ	鶴田
第15回	音読試験	鶴田

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ ICT教育等を府k無
		○			

担当教員の実務経験と授業の関連				
事前学習	次回に習うことについて一通り目を通し、理解しにくい点がどこか明らかにしておく。練習問題、応用練習問題はあらかじめやっておくようにする。			学習合計時間(h) 30
事後学習	授業中に習った練習問題、応用練習問題は5回以上反復練習する。小テストに備えて復習をする。課題は決められた期日までに提出する。			学習合計時間(h) 30
課題に対するフィードバックの方法	毎回提出された課題の添削および返却。			
質問・相談方法	授業前後およびオフィスアワーで対応する。メールでは随時対応可能。			
オフィスアワー	月曜日 13:00-13:10、16:20-30(講義室)			

テキスト	『韓国語の基礎Ⅰ第2版』 飯田秀敏・鄭芝淑・飯田桃子 共著、朝日出版社、2025、2,400円(税抜き)、ISBN : 9784255557328
参考文献等	必要があれば授業中に指示する。
成績評価基準	授業に積極的に取り組み、この授業の到達目標を達成できたものを合格とする。
成績評価の方法	課題(30%)と期末試験(70% :音読試験20%、筆記試験50%)で総合的に判定する。
GPA基準	
備考	「韓国語演習Ⅰ」の単位を履修しておくことが望ましい。受講者へのコメント 外国語の学習はとにかく「楽しく」やらなければなりません。単位のための勉強などと考えずに、未知の世界に踏み込み自分の世界を広げるのだという気持ちで、元氣よく参加してください。「なせば成る」の精神を忘

科目名	韓国語演習Ⅱ		科目ナンバー	AA022011
担当者	鄭 芝淑			
科目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目			
施工規則に定める科目区分 または事項等	外国語コミュニケーション			
授業形式	演習			
配当年次	1	科目群	一般教養科目	
開講期	後期	卒業の選択・必修	選択必修	
単位数	2	担当形態	クラス分け	
免許・資格情報	—			

授業の概要	「韓国語演習Ⅰ」に引き続き、より発展した表現を学習し会話能力を高めていく。外国語の学習は単なる知識にとどまるのではなく実際に使えるようになってこそ意味があるという見地に立って、コミュニケーションの場を想定した演習形式で学習するように図り、さらに学習したことが確実に理解されているかどうかを提出課題、小テストなどによってチェックする。			
授業の到達目標	・簡単な韓国語文の構造を理解し、正確に音読し書くことができる。・日常よく使われる簡単な単語や文を使うことができる。・韓国語の学習を通じて、その背景にある韓国事情・韓国文化の基本的な事項について説明ができる。			
ディプロマポリシー(DP)	1 主体的に学び、多様な考え方に触れ、柔軟な思考ができる。	2 自己を高めるとともに、他者との関わりを良好に保つことができる。	3 地域への関心を深め、地域活性化の担い手として課題解決に意欲的に取り組む。	4 社会や文化に対して関心を持ち、広い視野に立って、社会に参画する力を持つ。
DPとの関連	○	◎		○
※関連するDP番号に○（複数可）、最も関連部会DP番号は◎（1か所のみ）				

授業計画		担当者
第1回	前期の復習	鄭
第2回	第3課(弟もいますか)の文法解説と朗読練習、文法解説	鄭
第3回	3課(弟もいますか)の文法解説(つづき)、応用練習	鄭
第4回	第4課(勉強よくできますか。)の本文対話解説と朗読練習、文法解説	鄭
第5回	第4課(勉強よくできますか)の文法解説(つづき)、応用練習	鄭
第6回	会話練習	鄭
第7回	第5課(誕生日はいつですか)の本文対話解説と朗読練習、文法解説	鄭
第8回	第5課(誕生日はいつですか)の文法解説(つづき)、応用練習	鄭
第9回	漢数詞の練習、会話練習	鄭
第10回	第6課(家族と一緒に故郷に行きます)の本文対話解説と朗読練習、文法解説	鄭
第11回	第6課(家族と一緒に故郷に行きます)の文法解説(つづき)、応用練習	鄭
第12回	固有数詞の練習、会話練習	鄭
第13回	会話練習	鄭
第14回	今学期の学習のまとめ	鄭
第15回	音読試験	鄭

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ ICT教育等を府k無
		○			

担当教員の実務経験と授業の関連				
事前学習	次回に習うことについて一通り目を通し、理解しにくい点がどこか明らかにしておく。練習問題、応用練習問題はあらかじめやっておくようにする。			学習合計時間(h) 30
事後学習	授業中に習った練習問題、応用練習問題は5回以上反復練習する。小テストに備えて復習をする。課題は決められた期日までに提出する。			学習合計時間(h) 30
課題に対するフィードバックの方法	毎回提出された課題の添削および返却。			
質問・相談方法	授業前後およびオフィスアワーで対応する。メールでは随時対応可能。			
オフィスアワー	月曜日 13:00-13:10、16:20-30(講義室)			

テキスト	『韓国語の基礎Ⅰ第2版』 飯田秀敏・鄭芝淑・飯田桃子 共著、朝日出版社、2025、2,400円(税抜き)、ISBN : 9784255557328
参考文献等	必要があれば授業中に指示する。
成績評価基準	授業に積極的に取り組み、この授業の到達目標を達成できたものを合格とする。
成績評価の方法	課題(30%)と期末試験(70% :音読試験20%、筆記試験50%)で総合的に判定する。
GPA基準	
備考	「韓国語演習Ⅰ」の単位を履修しておくことが望ましい。受講者へのコメント 外国語の学習はとにかく「楽しく」やらなければなりません。単位のための勉強などと考えずに、未知の世界に踏み込み自分の世界を広げるのだという気持ちで、元気よく参加してください。「なせば成る」の精神を忘

科目名	韓国語演習Ⅱ		科目ナンバー	AA022011
担当者	姜 美貞			
科目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目			
施工規則に定める科目区分 または事項等	外国語コミュニケーション			
授業形式	演習			
配当年次	1	科目群	一般教養科目	
開講期	後期	卒業の選択・必修	選択必修	
単位数	2	担当形態	クラス分け	
免許・資格情報	—			

授業の概要	「韓国語演習Ⅰ」に引き続き、より発展した表現を学習し会話能力を高めていく。外国語の学習は単なる知識にとどまるのではなく実際に使えるようになってこそ意味があるという見地に立って、コミュニケーションの場を想定した演習形式で学習するように図り、さらに学習したことが確実に理解されているかどうかを提出課題、小テストなどによってチェックする。			
授業の到達目標	・簡単な韓国語文の構造を理解し、正確に音読し書くことができる。・日常よく使われる簡単な単語や文を使うことができる。・韓国語の学習を通じて、その背景にある韓国事情・韓国文化の基本的な事項について説明ができる。			
ディプロマポリシー(DP)	1 主体的に学び、多様な考え方に触れ、柔軟な思考ができる。	2 自己を高めるとともに、他者との関わりを良好に保つことができる。	3 地域への関心を深め、地域活性化の担い手として課題解決に意欲的に取り組む。	4 社会や文化に対して関心を持ち、広い視野に立って、社会に参画する力を持つ。
DPとの関連	○	◎	○	○
※関連するDP番号に○（複数可）、最も関連部会DP番号は◎（1か所のみ）				

授業計画		担当者
第1回	前期の復習	姜
第2回	第3課(弟もいますか)の文法解説と朗読練習、文法解説	姜
第3回	3課(弟もいますか)の文法解説(つづき)、応用練習	姜
第4回	第4課(勉強よくできますか。)の本文対話解説と朗読練習、文法解説	姜
第5回	第4課(勉強よくできますか)の文法解説(つづき)、応用練習	姜
第6回	会話練習	姜
第7回	第5課(誕生日はいつですか)の本文対話解説と朗読練習、文法解説	姜
第8回	第5課(誕生日はいつですか)の文法解説(つづき)、応用練習	姜
第9回	漢数詞の練習、会話練習	姜
第10回	第6課(家族と一緒に故郷に行きます)の本文対話解説と朗読練習、文法解説	姜
第11回	第6課(家族と一緒に故郷に行きます)の文法解説(つづき)、応用練習	姜
第12回	固有数詞の練習、会話練習	姜
第13回	会話練習	姜
第14回	今学期の学習のまとめ	姜
第15回	音読試験	姜

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ ICT教育等を府k無
		○			

担当教員の実務経験と授業の関連				
事前学習	次回に習うことについて一通り目を通し、理解しにくい点がどこか明らかにしておく。練習問題、応用練習問題はあらかじめやっておくようにする。			学習合計時間(h) 30
事後学習	授業中に習った練習問題、応用練習問題は5回以上反復練習する。小テストに備えて復習をする。課題は決められた期日までに提出する。			学習合計時間(h) 30
課題に対するフィードバックの方法	毎回提出された課題の添削および返却。			
質問・相談方法	授業前後およびオフィスアワーで対応する。メールでは随時対応可能。			
オフィスアワー	月曜日 13:00-13:10、16:20-30(講義室)			

テキスト	『韓国語の基礎Ⅰ第2版』 飯田秀敏・鄭芝淑・飯田桃子 共著、朝日出版社、2025、2,400円(税抜き)、ISBN : 9784255557328
参考文献等	必要があれば授業中に指示する。
成績評価基準	授業に積極的に取り組み、この授業の到達目標を達成できたものを合格とする。
成績評価の方法	課題(30%)と期末試験(70% :音読試験20%、筆記試験50%)で総合的に判定する。
G P A 基準	
備考	「韓国語演習Ⅰ」の単位を履修しておくことが望ましい。受講者へのコメント 外国語の学習はとにかく「楽しく」やらなければなりません。単位のための勉強などと考えずに、未知の世界に踏み込み自分の世界を広げるのだという気持ちで、元気よく参加してください。「なせば成る」の精神を忘

科目名	日本語演習Ⅱ		科目ナンバー	AR022012
担当者	村本 茜			
科目	—			
施工規則に定める科目区分 または事項等	—			
授業形式	演習			
配当年次	1	科目群	一般教養科目〔留学生特別科目〕	
開講期	後期	卒業の選択・必修	選択必修	
単位数	2	担当形態	単独	
免許・資格情報	—			

授業の概要	この授業では、JLPT N1(CEFR C1～C2)レベルの言葉や表現を勉強し、会話や作文で、それらを正確に使えるようになるための練習をします。それぞれの学科に必要な言葉を学び、読める漢字もさらに増やします。また、色々な場面での会話練習をする他、日本の文化や社会の問題に関する文章を読んだり、自分で情報を調べたりし、仲間や教員と日本語でディスカッションをします。			
授業の到達目標	1.N1レベルの日本語の漢字や語い、表現を覚え、会話や作文で、それらを正しく、効果的に使うことができる 2.短期大学の授業で使われる言葉の意味が分かり、レポートや発表にも取り入れられる 3.日本の社会や文化について理解を深め、説得力をもって自分の見解が提示できる			
ディプロマポリシー(DP)	1 主体的に学び、多様な考え方に触れ、柔軟な思考ができる。	2 自己を高めるとともに、他者との関わりを良好に保つことができる。	3 地域への関心を深め、地域活性化の担い手として課題解決に意欲的に取り組む。	4 社会や文化に対して関心を持ち、広い視野に立って、社会に参画する力を持つ。
DPとの関連	◎	○		○
※関連するDP番号に○(複数可)、最も関連部会DP番号は◎(1か所のみ)				

授業計画		担当者
第1回	夏休みにしたことについて、発表します	村本
第2回	文法：例示／語いと漢字1／会話・ディスカッション：ニュース	村本
第3回	文法：程度の強調 / 語いと漢字2／会話・ディスカッション：病院	村本
第4回	文法：話題／語いと漢字3／日本の歌を歌う	村本
第5回	文法：逆接・譲歩／語いと漢字4／会話・ディスカッション：ニュース	村本
第6回	文法：原因・理由／語いと漢字5／会話・ディスカッション：自然災害	村本
第7回	文法：仮定条件・確定条件／語いと漢字6／作文：自然災害	村本
第8回	中間テスト	村本
第9回	文法：逆接仮定条件／語いと漢字7／会話・ディスカッション：ニュース	村本
第10回	文法：不可能・可能・困難・容易／語いと漢字8／会話・ディスカッション：防災	村本
第11回	作文：傾向・状態・様子 / 語いと漢字9／日本の昔話を読む	村本
第12回	文法：経過・結末／語いと漢字10／会話・ディスカッション：ニュース	村本
第13回	文法：否定・部分否定／語いと漢字11／会話・ディスカッション：冠婚葬祭	村本
第14回	文法：伝聞・推量／語いと漢字12／作文：冠婚葬祭	村本
第15回	日本の映画を見て「日本文化」について考えます	村本

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ ICT教育等を府k無
	○	○			
担当教員の実務経験と授業の関連					
事前学習	授業の前に配ったプリントを見ておいてください			学習合計時間(h)	30
事後学習	勉強した表現を、実際の場面でたくさん使ってください。アルバイトなど、学校の時間じゃないときにも、よく復習してください			学習合計時間(h)	30
課題に対するフィードバックの方法	中間テストなどで確認します				
質問・相談方法	何かあれば、授業中や授業の前後に相談・質問してください				
オフィスアワー					
テキスト	特になし(プリントを配ります)				
参考文献等	『改訂版 どんなときどう使う 日本語表現文型500』 友松悦子ほか 株式会社アルク 2013年 2500円 (ISBN: 978-4757418905), 『新・シャドーイング 日本語を話そう! 中～上級編 [英語・中国語・韓国語訳版]』 斎藤仁志ほか くろしお出版 2022年 1800円 (ISBN: 978-4-87424-899-7)				
成績評価基準	授業に対する積極性や、勉強した文型や語いが使えるようになったかどうかを評価の基準にします				
成績評価の方法	授業態度(20%) 中間テスト(40%) 課題レポート(40%)				
GPA基準					
備考	受講対象者 留学生のみ				

科目名	数学基礎		科目ナンバー	AA011203
担当者	内田 豊海			
科目	—			
施工規則に定める科目区分 または事項等	—			
授業形式	講義			
配当年次	1	科目群	一般教養科目	
開講期	前期・後期	卒業の選択・必修	選択	
単位数	2	担当形態	単独	
免許・資格情報	—			

授業の概要	数学は、昔から様々な文化で多くの人々が創造してきた知の体系です。本講義では、多様な単元を取り扱い、問題解決を通して、「数学すること」の楽しさを実感することを目的としています。また、先人の知に触れることで、文化としての数学を継承するとともに、数学的な考え方のよさも体験し、自ら創意工夫し、問題解決を試みようという態度を培っていきます。			
授業の到達目標	1.数学的活動の楽しさを知り、問題解決をしようとする態度を培う2.数学の有用性を認識する3.習得した技能を日常に応用することができる			
ディプロマポリシー(DP)	1 主体的に学び、多様な考え方に触れ、柔軟な思考ができる。	2 自己を高めるとともに、他者との関わりを良好に保つことができる。	3 地域への関心を深め、地域活性化の担い手として課題解決に意欲的に取り組む。	4 社会や文化に対して関心を持ち、広い視野に立って、社会に参画する力を持つ。
DPとの関連	◎	○		
※関連するDP番号に○（複数可）、最も関連部会DP番号は◎（1か所のみ）				

授業計画		担当者
第1回	数の歴史 いろいろな文化にある様々な数学	内田
第2回	不思議な数のパターン	内田
第3回	微分と積分 イメージすると計算できる	内田
第4回	迷路 出口を見つけるためにはどうしたらいいだろう	内田
第5回	グラフを読む 鹿児島県の人口変動を探ろう	内田
第6回	数値を読み解く オリンピック選手を選んでみよう	内田
第7回	タングラム 図形を組み合わせてみると	内田
第8回	面積 一つの知識でどれだけのことが考えられるか	内田
第9回	確率 好きな人の隣に座れる確率は	内田
第10回	フィボナッチ数 美しいデザインの中にある秘密	内田
第11回	価値観 数を選ぶことで、自分の価値を知る	内田
第12回	関数 変化する先の予測	内田
第13回	証明 どうしたら人に説明できるだろう	内田
第14回	ベクトル 力を図示するとわかること	内田
第15回	不完全性定理 数学はどこまで正しいのだろうか	内田

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ ICT教育等を府k無
		○			

担当教員の実務経験と授業の関連			
事前学習	授業内容に即した発展的問題を課題として提示する	学習合計時間(h)	4
事後学習	授業内容に即した発展的問題を課題として提示する	学習合計時間(h)	8
課題に対するフィードバックの方法	提出された課題の添削および返却		
質問・相談方法	授業後およびオフィスアワーに直接尋ねる		
オフィスアワー	火曜日 14:40~17:00(西館412号室)		

テキスト	特になし
参考文献等	『偏愛的数学 驚異の数』ボザマンティエ著 岩波書店 (ISBN-978-4000059817) 2200円
成績評価基準	各単元の数学的知識の理解および問題解決力の有無
成績評価の方法	定期試験(70%) 授業態度(30%)
GPA基準	
備考	

科目名	理科基礎		科目ナンバー	AA011204
担当者	内田 豊海			
科目	—			
施工規則に定める科目区分 または事項等	—			
授業形式	講義			
配当年次	1	科目群	一般教養科目	
開講期	前期・後期	卒業の選択・必修	選択	
単位数	2	担当形態	単独	
免許・資格情報	—			

授業の概要	身近なものや出来事でも、よく考えてみると、不思議なことばかり。この授業では、様々な「なぜ？」から出発して、その？を解き明かすことで、科学の楽しさを実感するとともに、科学的な考え方も身につけていくことを目標としています。取り扱う内容は、広い科学の分野から、できるだけ多くの単元を選出しており、結果として、たくさんの方に興味・関心をもち、最終的には、自分で科学についてももっと知りたい、考えたいと思えるような授業構成にしています。			
授業の到達目標	"1.理科・科学の楽しさを実感する2.様々なものごとに、興味関心をもつ視点を養う3.疑問や問題に、自分なりの考えをもてる科学的思考力を習得する"			
ディプロマポリシー(DP)	1 主体的に学び、多様な考え方に触れ、柔軟な思考ができる。	2 自己を高めるとともに、他者との関わりを良好に保つことができる。	3 地域への関心を深め、地域活性化の担い手として課題解決に意欲的に取り組む。	4 社会や文化に対して関心を持ち、広い視野に立って、社会に参画する力を持つ。
DPとの関連	◎	○		
※関連するDP番号に○（複数可）、最も関連部会DP番号は◎（1か所のみ）				

授業計画		担当者
第1回	ロウソクの観察を通し、科学的な考え方を知ろう	内田
第2回	五感で感じられることは何？ 視覚・聴覚・触覚	内田
第3回	五感で感じられることは何？ 嗅覚・味覚	内田
第4回	最先端の科学事情 今科学でできること	内田
第5回	宇宙の誕生と今、そして未来	内田
第6回	星座物語と地球誕生	内田
第7回	生物 その進化と多様性	内田
第8回	遺伝するもの、しないもの	内田
第9回	病気ってなんだろう？	内田
第10回	燃えるもの、燃えないもの	内田
第11回	化学反応式はすごい こんなことまで説明できる	内田
第12回	電化製品はどんな仕組み？ イヤホンを作ってみよう	内田
第13回	炎色反応 金属を使って花火を作ろう	内田
第14回	時間の流れは同じではない？相対性理論と量子力学	内田
第15回	科学的ってなんだろう？ 科学と疑似科学	内田

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ ICT教育等を府k無
					○

担当教員の実務経験と授業の関連				
事前学習	日常で不思議に思ったことをメモし、自分なりにその答えを考えるとともに、授業の前後で教員と話をしながら、その背景を探る			学習合計時間(h) 4
事後学習	日常で不思議に思ったことをメモし、自分なりにその答えを考えるとともに、授業の前後で教員と話をしながら、その背景を探る			学習合計時間(h) 8
課題に対するフィードバックの方法	講義において教室全体に対してのコメントとしてフィードバックしていく			
質問・相談方法	授業後およびオフィスアワーに直接尋ねる			
オフィスアワー	火曜日 14:40~17:00(西館412号室)			

テキスト	特になし授業中に適宜資料を配布する
参考文献等	科学雑誌『ニュートン』
成績評価基準	基礎的な知識だけでなく、科学的思考力の定着度合い、さらに理科への興味関心の具合を基準とする
成績評価の方法	定期試験(70%) 授業態度(30%)
GPA基準	
備考	

科目名	分子からみた生物		科目ナンバー	AA011205
担当者	横峯 孝昭			
科目	—			
施工規則に定める科目区分 または事項等	—			
授業形式	講義			
配当年次	1	科目群	一般教養科目	
開講期	前期・後期	卒業の選択・必修	選択	
単位数	2	担当形態	単独	
免許・資格情報	—			

授業の概要	生物とは何か、このことについて一般常識としての生物と、最近の生物に関する知見について学び、自分のこととして考えられるよう講義する。			
授業の到達目標	1. 生物について基礎的な知識を習得する2. 最近の生物に関する知見を学ぶ			
ディプロマポリシー(DP)	1 主体的に学び、多様な考え方に触れ、柔軟な思考ができる。	2 自己を高めるとともに、他者との関わりを良好に保つことができる。	3 地域への関心を深め、地域活性化の担い手として課題解決に意欲的に取り組む。	4 社会や文化に対して関心を持ち、広い視野に立って、社会に参画する力を持つ。
DPとの関連	◎			○
※関連するDP番号に○（複数可）、最も関連部会DP番号は◎（1か所のみ）				

授業計画		担当者
第1回	オリエンテーション	横峯
第2回	生物と細胞	横峯
第3回	生物の体を作っているもの(異化)	横峯
第4回	生物の体を作っているもの(同化)	横峯
第5回	細胞の増え方、精子と卵のでき方	横峯
第6回	メンデルの遺伝(優性の法則、分離の法則について)	横峯
第7回	血液型で遺伝を知ろう	横峯
第8回	男の子、女の子の生まれる確率(伴性遺伝)	横峯
第9回	遺伝疾患の分類	横峯
第10回	最近の生物学について（分子生物学の三種の神器）	横峯
第11回	臓器移植(臓器移植に関してお互いの考えを討論しよう)	横峯
第12回	生物の進化と地球環境1(生命の誕生)	横峯
第13回	生物の進化と地球環境2(全球凍結と生命)	横峯
第14回	生命の進化と地球環境3(大海からの離脱)	横峯
第15回	生物の進化と地球環境4(大量絶滅)	横峯

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ ICT教育等を府k無
	○				

担当教員の実務経験と授業の関連				
事前学習	小・中学校時に学習した関連の内容について復習しておく			学習合計時間(h) 30
事後学習	自ら作成した板書ノートを読み直し、次の講義へ備える			学習合計時間(h) 30
課題に対するフィードバックの方法	課題に対しては求めに応じて個別に対応する			
質問・相談方法	講義の前後、オフィスアワーで対応する			
オフィスアワー	月曜日 16:30～18:00 研究室(西館401号室)			

テキスト	特になし
参考文献等	『休みの時間の生物学』 朝倉幹晴 講談社サイエンティフィック 2376円(税込み) (ISBN978-4061557017)
成績評価基準	本講義内において紹介・説明した生物学の一般常識を理解し、自分の言葉で説明できること
成績評価の方法	定期試験(100%)
GPA基準	
備考	

科目名	SDGs論		科目ナンバー	AA042011
担当者	石田 もとな			
科目	—			
施工規則に定める科目区分 または事項等	—			
授業形式	演習			
配当年次	1	科目群	一般教養科目	
開講期	後期	卒業の選択・必修	選択	
単位数	2	担当形態	単独	
免許・資格情報	—			

授業の概要	持続可能な社会の構築は、現代社会における非常に大きな課題の一つである。グローバルな視点とローカルな視点の両方を兼ね備え、身近なことから持続可能な社会の構築に取り組める人材となるために必要な知識を習得し、そのために行動すべきことに関して立案、実行する。			
授業の到達目標	1. SDGs とは何かを理解する2. 持続可能な社会の実現に関して自らができることを考え、行動に移すことができる3. SDGs に関する情報を発信することができる			
ディプロマポリシー (DP)	1 主体的に学び、多様な考え方に触れ、柔軟な思考ができる。	2 自己を高めるとともに、他者との関わりを良好に保つことができる。	3 地域への関心を深め、地域活性化の担い手として課題解決に意欲的に取り組む。	4 社会や文化に対して関心を持ち、広い視野に立って、社会に参画する力を持つ。
DPとの関連	◎		○	○
※関連するDP番号に○（複数可）、最も関連部会DP番号は◎（1か所のみ）				

授業計画				担当者
第1回	ガイダンス	SDGsとは何か、この授業では何について学ぶのか	世界が百人の村だったら(SDGs① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑩ ⑬)	石田
第2回	世界の果ての通学路 (SDGs④)			石田
第3回	映像メディアにおける人類への警告			石田
第4回	ウルトラマンガイアで学ぶ環境への配慮 (SDGs⑭⑮)			石田
第5回	ウルトラマンコスモスで学ぶ平和と公正 (SDGs⑯)			石田
第6回	私たちのCSR どのようなことに取り組めるか			石田
第7回	企業のCSR			石田
第8回	ジェンダー平等 (SDGs⑤)			石田
第9回	SDGsを発信する方法			石田
第10回	出前授業企画			石田
第11回	出前授業レクシンプランと教材作成			石田
第12回	授業実践(児童教育学科)			石田
第13回	授業実践(教養・生活科学科)			石田
第14回	授業の振り返りとアドバイス			石田
第15回	まとめとレポート			石田

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ ICT教育等を府k無
	○	○	○	○	

担当教員の実務経験と授業の関連	企業においての実務経験を活かし実践的な演習を行う		
事前学習	各回のテーマについて、情報収集する	学習合計時間(h)	30
事後学習	授業中に与えられた課題に取り組み、内容を確実に理解する	学習合計時間(h)	30
課題に対するフィードバックの方法	授業時間内に解説する		
質問・相談方法	授業の前後やオフィシアワーで対応		
オフィシアワー	火曜日 16:30～17:30 研究室(西館404号室) * 要事前連絡		

テキスト	『こどもSDGs』バウンド著 秋山宏次郎監修 株式会社カンゼン 2020 ISBN978-4-86255-561-8		
参考文献等	『SDGs実践入門』 泉 貴嗣著 株式会社 技術評論社 2021 ISBN 978-4-297-11752-8 C0034		
成績評価基準	SDGsについての知識を身につけ、それを発信できる力を身につけていること		
成績評価の方法	受講態度(50%) 演習への取り組み(30%) 課題レポート(20%)		
GPA基準			
備考			

科目名	データサイエンス概論		科目ナンバー	AA041205
担当者	村田 和也			
科目	—			
施工規則に定める科目区分 または事項等	—			
授業形式	講義			
配当年次	1	科目群	一般教養科目	
開講期	後期	卒業の選択・必修	選択	
単位数	2	担当形態	単独	
免許・資格情報	—			

授業の概要	情報化社会におけるデータの量は日々増え続けている。それらのデータは加工され有益な情報になり、より豊かで便利な生活を送るために、我々の生活に活かされている。本講義ではそのようなデータサイエンスの考え方や技術が利用されている概況を理解し、統計的なモノの見方を身につける。データサイエンスとは何なのかを自らの言葉で説明できる、統計的考え方を理解する、基本的な統計処理を行うことを目指す。時間が許せば機械学習を用いた予測を行う。また、いくつかの講義では、PCやスマートフォンから学生の質問や意見をリアルタイムで収集することによって、双方向のコミュニケーションをとり、受講者の関心や理解度に応じた講義を行う。			
授業の到達目標	1. データサイエンスの概要や利活用されている現状を知る。2. データサイエンスと統計の違い、基本的な統計的考え方を理解する。3. エクセルを用いた基礎的な統計処理を学ぶ。			
ディプロマポリシー (DP)	1 主体的に学び、多様な考え方に触れ、柔軟な思考ができる。	2 自己を高めるとともに、他者との関わりを良好に保つことができる。	3 地域への関心を深め、地域活性化の担い手として課題解決に意欲的に取り組む。	4 社会や文化に対して関心を持ち、広い視野に立って、社会に参画する力を持つ。
DPとの関連				
※関連するDP番号に○（複数可）、最も関連部会DP番号は◎（1か所のみ）				

授業計画		担当者
第1回	授業の導入 (内容)データとは何か、データの種類	村田
第2回	データサイエンス (内容)データサイエンスの概要と目的	村田
第3回	データサイエンスの活用事例 (内容)回帰、分類、予測	村田
第4回	統計とデータサイエンスの違い (内容)統計的な考え方	村田
第5回	単純集計表とクロス集計表 (内容)統計の基礎的な集計を行う。	村田
第6回	エクセルでできる統計処理 (内容)統計で使える関数を知る。	村田
第7回	可視化とその意義 (内容)可視化の意義、アンスコム の例	村田
第8回	棒グラフ、円グラフ、折れ線グラフ (内容)基礎的なグラフの描画と活用事例	村田
第9回	散布図、レーダーチャート、ヒストグラム (内容)統計でよく使われるグラフの描画と活用事例	村田
第10回	基本統計量による表現と意味 (内容)統計量とは何か、エクセルを用いたデータ分析	村田
第11回	代表値の利用 (内容)代表値とは何か、平均値と中央値の違いと使い分け	村田
第12回	散布度利用 (内容)データの散らばりを考える。分散と標準偏差	村田
第13回	相関と回帰 (内容)相関関係とは何か、回帰分析で分かること	村田
第14回	相関関係と因果関係 (内容)相関と因果の違い。擬似相関を知る。	村田
第15回	政府統計データの分析 (内容)世帯年収と度数分布表の見方、授業の総括	村田

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ ICT教育等を府k無
			○		○
担当教員の実務経験と授業の関連	AIを用いた予測やPython,SPSSを用いた統計処理の経験を有す。				
事前学習	シラバスのタイトル(知らない用語等)に関して自ら調べる。			学習合計時間(h)	30
事後学習	授業内容の復習、適宜課題提出を求める。			学習合計時間(h)	30
課題に対するフィードバックの方法	レポートやプレゼンテーションに対する講評				
質問・相談方法	授業時間内、オフィスアワー、メールによる対応				
オフィスアワー	昼休み(月?木)、事前に連絡があると尚良				
テキスト	特になし。必要場合は適宜配布する。				
参考文献等	「教養としてのデータサイエンス」内田誠一(著)講談社 2021年 ¥1980 ISBN978-4065238097「統計学の基礎から学ぶExcelデータ分析の全知識」三好大悟, 堅田洋資(著)インプレス 2021年 ¥1980 978-4295011088				
成績評価基準					
成績評価の方法	授業内課題100% (その他:課題提出における参加度や意欲を加算)				
G P A 基準					
備考					

專門科目

生活福祉専攻

科目名	人間の尊厳と自立		科目ナンバー	S11201
担当者	久留須 直也			
科目	—			
施工規則に定める科目区分 または事項等	—			
授業形式	講義			
配当年次	1	科目群	専門科目 [人間と社会]	
開講期	後期	卒業の選択・必修	必修	
単位数	2	担当形態	単独	
免許・資格情報	必修：介護福祉士			

授業の概要	介護福祉を実践するために必要な人間に対する基本的理解を養う。一つは福祉理念の歴史の変遷を学ぶことを通し、人間の尊厳・人権尊重及び権利擁護の考え方を養う。また、本人主体の観点から自立の考え方、自立生活の理解を通しその生活を支える必要性を講義する。			
授業の到達目標	1. 人権思想・福祉理念の歴史の変遷を理解し、人間の尊厳・人権尊重及び権利擁護の考え方を理解する。2. 人間にとっての自立の意味と、本人主体の観点から、尊厳の保持や自己決定の考え方を理解する。			
ディプロマポリシー(DP)	1 専門的知識・技能 介護福祉及び医療・介護事務に関する実践的かつ体系的な専門的知識と技能を修得している。	2 主体的・創造的な課題解決能力 修得した専門的知識と技能を活かして、地域社会の実態を踏まえ、主体的・創造的に貢献する能力と意識をもっている。	3 人間関係形成力とコミュニケーション能力 倫理観と責任感を持ち、コミュニケーション能力と協働性を有し、多様な問題に臨む社会人としての態度を身につけている。	—
DPとの関連	○	◎		
※関連するDP番号に○（複数可）、最も関連部会DP番号は◎（1か所のみ）				

授業計画		担当者
第1回	介護福祉士の役割の理解(映像教材「介護を考える"生きる"を支えるプロの仕事」(54分)視聴後、「看護覚え書き」を確認し、レポート作成)	久留須
第2回	人間の尊厳と利用者主体人権思想の潮流とその具現化	久留須
第3回	人権とは？(映像教材視聴：10分)人権や尊厳に関する日本の諸規定	久留須
第4回	社会福祉領域での人権・福祉理念の変遷1(エリザベス救貧法・新救貧法・リッチモンド・優生思想)	久留須
第5回	(演習)ハンセン病について(映像教材視聴後、レポート作成)社会福祉領域での人権・福祉理念の変遷2(世界人権宣言・LGBT)	久留須
第6回	社会福祉領域での人権・福祉理念の変遷3(新たな貧困問題・ノーマライゼーション・QOL・生命倫理)	久留須
第7回	人権尊重と権利擁護1(利用者の人権・権利侵害が起こる状況と背景)	久留須
第8回	人権尊重と権利擁護2(権利擁護の視点)(演習)介護現場における権利侵害(発生する可能性と対応について検討)	久留須
第9回	(演習)人間の尊厳について考える (映像教材「認知症の第一人者が認知症になった」(50分)視聴後レポート作成)	久留須
第10回	自立の概念の多様性自立とは	久留須
第11回	介護を必要とする人々の自立と自立支援(意欲と動機付け・自立支援の考え方)	久留須
第12回	自立と自立支援(自立と依存と選択)尊厳の保持と自立、自立支援の関係性	久留須
第13回	(演習)人間の自立について考える(映像教材「おいてけぼり」(55分)視聴後、レポート作成)	久留須
第14回	(演習)人間の尊厳と自立について考える1(映像教材「恍惚の人」(120分)視聴)	久留須
第15回	(演習)人間の尊厳と自立について考える2(映像教材「恍惚の人」(120分)視聴後、GWを行う)	久留須

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ICT教育等を府k無
	○	○	○		○

担当教員の実務経験と授業の関連	医療機関における医療ソーシャルワーカー(社会福祉士)及び介護支援専門員としての実務経験を活かし、人間の尊厳や自立、権利擁護について教授する。				
事前学習	今回の授業内容について、教科書等を熟読し、分からない用語は辞書等で調べておく。			学習合計時間(h)	30
事後学習	学習内容の復習をする中で、分からない箇所はテキストや授業資料を見直し、自主学習を行う。自主学習で不明な点があれば担当教員へ質問をする。			学習合計時間(h)	30
課題に対するフィードバックの方法	授業終了前にGoogleclassroomを利用したコメントシートを入力し、課題等の回答を促し、次の授業で回答する。				
質問・相談方法	授業中での質問時間を設定する。また毎回入力するコメントシートに質問事項を入力させ、次の授業時に質問についての解説を行う。				
オフィスアワー	月・水曜日 昼休み(12:20～13:10)研究室(西館314号室)				

テキスト	『最新・介護福祉士養成講座 1 人間の理解(第2版)』 介護福祉士養成講座編集委員会編 中央法規出版 2022年 2,200円(税別) ISBN 978-4-8058-8390-7 『七訂 介護福祉用語辞典』 中央法規出版編集部編 中央法規出版 2015年 2,600円(税別) ISBN 978-4-8058-5094-7				
参考文献等	特になし				
成績評価基準	到達目標に掲げた項目を理解すること。				
成績評価の方法	授業への参加態度(20%)とレポート4回(各20%：計80%)で総合的に評価する。ただし、状況により評価をレポートで代替する場合がある。				
G P A 基準					
備考	第1回目の講義に講師作成授業資料を配布するため、毎時間持参する。Googleclassを利用してコメントシート作成やレポート提出を求める。				

科目名	人間関係とコミュニケーション		科目ナンバー	S13201
担当者	園田 美保			
科目	—			
施工規則に定める科目区分または事項等	—			
授業形式	講義			
配当年次	カリキュラムにより異なります。		科目群	専門科目〔人間と社会〕
開講期	後期		卒業の選択・必修	選択
単位数	2		担当形態	単独
免許・資格情報	必修：介護福祉士、医事実務士 選択必修(▲4単位)：ピアヘルパー認定試験受験資格			

授業の概要	主には社会心理学や発達心理学などでの知見をもとに、対人関係を様々な視点から見ていく。その中には、親子やきょうだい、仲間関係といった関係性から見る視点、関係づくりの中で働く心理的作用という視点、コミュニケーションをスキルでとらえる視点などが含まれる。また、人間関係が幸福感やストレスと関係することについても紹介し、よりよい人生を受講者自身で切り開くため、それらを元に改めて考える材料としてもらう。受講者には、これまでの自身のコミュニケーションや人間関係について授業に沿って考えてもらい、今後の対人関係に役立つ内容として考えたことを、授業内での小レポートで表現することを求める。			
授業の到達目標	(1) 様々な人間関係の特徴について主に心理学の視点から知り、他者と関わり生きている自分について理解する。 (2) 他者との関わり方について日常生活での自分の行動や、これからの行動を見直す。			
ディプロマポリシー(DP)	1 専門的知識・技能 介護福祉及び医療・介護事務に関する実践的かつ体系的な専門的知識と技能を修得している。	2 主体的・創造的な課題解決能力 修得した専門的知識と技能を活かして、地域社会の実態を踏まえ、主体的・創造的に貢献する能力と意識をもっている。	3 人間関係形成力とコミュニケーション能力 倫理観と責任感を持ち、コミュニケーション能力と協働性を有し、多様な問題に臨む社会人としての態度を身につけている。	—
DPとの関連			◎	
※関連するDP番号に○(複数可)、最も関連部会DP番号は◎(1か所のみ)				

授業計画			担当者
第1回	オリエンテーション： イントロダクション、授業計画と内容、人間関係を心理学すると？		園田
第2回	親子関係、愛着		園田
第3回	きょうだいや仲間関係： きょうだいの順序と性格、きょうだいへの親の対応、仲間関係の発展		園田
第4回	対人認知： 他者のパーソナリティ認知、認知の歪み、偏見		園田
第5回	印象形成： 情報間の影響、印象形成の原理、自己呈示		園田
第6回	対人魅力： 好意を高める条件		園田
第7回	非言語コミュニケーション： 非言語コミュニケーションの機能や種類、社会的知能		園田
第8回	社会的スキル： 人間関係のスキル、社会的スキル訓練		園田
第9回	主張性： 問題解決のためのアサーション		園田
第10回	友情と愛情： 友人関係の意義と成立要因、恋愛関係の類型、恋愛のプロセスに関連する要因		園田
第11回	社会的自己： 自己概念、自己の形成プロセス、自己評価、自己開示		園田
第12回	共感性： 共感の意義、共感の発達、共感的理解、共感的な接し方		園田
第13回	ストレスと人間関係： 対人ストレス、ストレス緩和要因、ストレスとつきあう方法		園田
第14回	幸福感と人間関係： 主観的幸福感、幸せ感と関連する要因、心理的well-being		園田
第15回	総括・振り返り： 「人間関係とコミュニケーション」全体を振り返って		園田

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ ICT教育等を府k無
					○

担当教員の実務経験と授業の関連				
事前学習	授業とUniPaで指示された事前課題に取り組む。（例；指定された内容を家族や友人から聞き取り、回答フォームに書き込む。）			学習合計時間(h) 15
事後学習	・各回のキーワードを5語程ピックアップし説明できる程度に理解する・コミュニケーション法において、自分の得意と苦手な分野をキーワードを使用し説明する・今後の対人関係に役立てられる方法を考			学習合計時間(h) 45
課題に対するフィードバックの方法	毎回の授業の最初に、前回の小レポートから複数例紹介し、解説を加える。			
質問・相談方法	授業後やオフィスアワーに対応する。メールで時間調整できた場合も対応可能。			
オフィスアワー	月・火曜日 12:20～12:50 研究室(西館310号室) 金曜以外で事前調整できた日時にも対応可能。			

テキスト	特定のテキストは使用しない。毎回、資料を配布する。			
参考文献等	各回のテーマにより異なるため、配布資料で提示。下記は一部例。 『大学生のためのソーシャルスキル』橋本剛 サイエンス社 2008年 1650円(税抜き)(ISBN: 978-4781911830)『人間関係づくりトレーニング』星野欣生 金子書房 2003年 1800円(税抜き) (ISBN: 978-4760830251)			
成績評価基準	各回のキーワードと内容を理解し、自分や他者、日常生活と関連させ考えられるものを合格とする。上述の「授業の到達目標」が授業を反映した形で達成されたものを合格とする。			
成績評価の方法	毎回の小レポートと受講態度(70%)と最終レポート(30%)で評価する。			
GPA基準				
備考	・第2回目以降は少なくとも前回の資料は持参すること。・第15回目の授業にはそれまでの配布資料・自筆ノートを全て持参すること。			

科目名	社会と制度の理解		科目ナンバー	S11101
担当者	久留須 直也			
科目	—			
施工規則に定める科目区分 または事項等	—			
授業形式	講義			
配当年次	1	科目群	専門科目 [人間と社会]	
開講期	前期	卒業の選択・必修	必修	
単位数	2	担当形態	単独	
免許・資格情報	必修：介護福祉士，介護保険実務士			

授業の概要	個人が自立した生活を営むということを理解するため、個人、家族、近隣、地域、社会の単位で人間を捉える視点を養い、人間の生活と社会の関わりや、自助から公助に至る過程について理解をすすめ、変化の大きい介護保険制度と障害者総合支援法について、介護実践に必要な観点から基礎的知識を習得させる。			
授業の到達目標	1. 介護保険制度の概要を理解する。 2. 障害者総合支援法の概要を理解する。 3. 介護保険制度及び障害者総合支援法と介護福祉士との関係性を理解する。			
ディプロマポリシー (DP)	1 専門的知識・技能 介護福祉及び医療・介護事務に関する実践的かつ体系的な専門的知識と技能を修得している。	2 主体的・創造的な課題解決能力 修得した専門的知識と技能を活かして、地域社会の実態を踏まえ、主体的・創造的に貢献する能力と意識をもっている。	3 人間関係形成力とコミュニケーション能力 倫理観と責任感を持ち、コミュニケーション能力と協働性を有し、多様な問題に臨む社会人としての態度を身につけている。	—
DPとの関連	◎	○		
※関連するDP番号に○（複数可）、最も関連部会DP番号は◎（1か所のみ）				

授業計画		担当者
第1回	高齢者保健福祉の動向と高齢者保健福祉に関連する法体系について学ぶ介護保険制度の概要について学ぶ	久留須
第2回	介護保険制度の利用の流れについて学ぶ(申請～認定)	久留須
第3回	介護保険制度の利用の流れについて学ぶ(認定～サービス利用)	久留須
第4回	介護保険制度のサービス内容(在宅サービス)について学ぶ	久留須
第5回	介護保険制度のサービス内容(施設サービス)について学ぶ	久留須
第6回	地域支援事業について学ぶ	久留須
第7回	地域包括ケアシステムと連携について学ぶ	久留須
第8回	介護保険制度における組織・団体の役割について学ぶ	久留須
第9回	介護保険制度における介護支援専門員などの専門職の役割について学ぶ	久留須
第10回	障害者保健福祉の動向について学ぶ	久留須
第11回	障害者保健福祉に関連する法体系について学ぶ	久留須
第12回	障害者総合支援制度創設の背景や目的、自治体の役割について学ぶ	久留須
第13回	自立支援給付と地域生活支援事業について学ぶ	久留須
第14回	障害者福祉サービスの利用者負担や利用手続きについて学ぶ	久留須
第15回	協議会と基幹相談支援センター、相談支援事業等について学ぶ	久留須

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ ICT教育等を府k無
	○				○

担当教員の実務経験と授業の関連	医療機関における医療ソーシャルワーカー(社会福祉士)及び介護支援専門員としての実務経験を活かし、介護保険法や障害者総合支援法について教授する。			
事前学習	今回の授業内容について、教科書等を熟読し、分からない用語は辞書等で調べておく。			学習合計時間(h) 30
事後学習	学習内容の復習をする中で、分からない箇所はテキストや授業資料を見直し、自主学習を行う。自主学習で不明な点があれば担当教員へ質問をする。			学習合計時間(h) 30
課題に対するフィードバックの方法	授業終了前にGoogleclassroomを利用したコメントシートを入力し、課題等の回答を促し、今回の授業で回答する。			
質問・相談方法	授業中での質問時間を設定する。また毎回入力するコメントシートに質問事項を入力させ、今回の授業時に質問についての解説を行う。			
オフィスアワー	月・水曜日 昼休み(12:20～13:10)研究室(西館314号室)			

テキスト	『最新・介護福祉士養成講座 2 社会の理解(第2版)』 介護福祉士養成講座編集委員会編 中央法規出版 2022年 2,200円(税別) ISBN 978-4-8058-8391-4 『七訂 介護福祉用語辞典』 中央法規出版編集部編 中央法規出版 2015年 2,600円(税別) ISBN 978-4-8058-5094-7			
参考文献等	特になし			
成績評価基準	到達目標に掲げた項目を理解すること。			
成績評価の方法	【本試験・再試験・追試験時の評価方法】授業への参加態度(15%)とレポート(15%)、期末試験(70%)で総合的に評価する。ただし、状況により評価をレポートで代替する場合がある。			
GPA基準				
備考	単位互換 [KRICE] 提供科目第1回目の講義に講師作成授業資料を配布するため、毎時間持参すること。Googleclassを利用してコメントシートを作成する。			

科目名	レクリエーション概論		科目ナンバー	S11202
担当者	大村 一光			
科目	—			
施工規則に定める科目区分 または事項等	—			
授業形式	講義			
配当年次	1	科目群	専門科目 [人間と社会]	
開講期	後期	卒業の選択・必修	選択	
単位数	1	担当形態	単独	
免許・資格情報	選択必修：介護福祉士(★4単位) 必修：レクリエーション・インストラクター			

授業の概要	レクリエーションに関する基礎理論や支援の方法などを学ぶことで、レクリエーションインストラクターとしての基本的な理論と実践力を獲得し、職場や地域社会の活動に対して積極的に取り組んでいけるようにする。			
授業の到達目標	1. レクリエーションインストラクターの理解 2. 基本的手法の理解と獲得をめざす 3. 福祉への応用力をつける			
ディプロマポリシー(DP)	1 専門的知識・技能 介護福祉及び医療・介護事務に関する実践的かつ体系的な専門的知識と技能を修得している。	2 主体的・創造的な課題解決能力 修得した専門的知識と技能を活かして、地域社会の実態を踏まえ、主体的・創造的に貢献する能力と意識をもっている。	3 人間関係形成力とコミュニケーション能力 倫理観と責任感を持ち、コミュニケーション能力と協働性を有し、多様な問題に臨む社会人としての態度を身につけている。	—
DPとの関連		◎	○	
※関連するDP番号に○（複数可）、最も関連部会DP番号は◎（1か所のみ）				

授業計画		担当者
第1回	楽しさを通した心の元気づくりと対象者の元気	大村
第2回	心の元気と地域のきずな	大村
第3回	コミュニケーションと信頼関係づくり	大村
第4回	信頼関係づくりの方法(ホスピタリティ)	大村
第5回	良好な集団づくりの理論	大村
第6回	良好な集団づくりの方法(アイスブレイキング)	大村
第7回	自主的、主体的に楽しむ力を高める方法	大村
第8回	安全管理の方法	大村
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ ICT教育等を府k無
	○	○			○

担当教員の実務経験と授業の関連				
事前学習	これまでの様々なボランティア活動等の整理を行う			学習合計時間(h) 15
事後学習	現場での実習として2年間で2回の活動を行い、支援力の認識を行う			学習合計時間(h) 15
課題に対するフィードバックの方法	課題を課した場合、必要に応じて個別に対応する			
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワーで対応する			
オフィスアワー	水曜日～金曜日 12:20～13:10 研究室(体育館101号室)			

テキスト	特になし(毎回、自作資料を配布する)
参考文献等	『楽しさをおとした心の元気づくり』、日本レクリエーション協会、 2017年
成績評価基準	レクリエーションインストラクターの理解と基本的手法の理解と獲得
成績評価の方法	定期試験(70%)ただし、レポートで代替する場合がある、 受講態度(30%)
G P A 基準	
備考	

科目名	介護の基本Ⅰ		科目ナンバー	S11102
担当者	羽生 光太郎			
科目	—			
施工規則に定める科目区分 または事項等	—			
授業形式	講義			
配当年次	1	科目群	専門科目〔介護〕	
開講期	前期	卒業の選択・必修	必修	
単位数	2	担当形態	単独	
免許・資格情報	必修：介護福祉士 選択必修：介護保険実務士			

授業の概要	・「尊厳の保持」「自立支援」の介護の考え方を生活の視点から捉え、在宅や施設での生活者および生活環境を観察、考察することにより、他の専門科目を学ぶ上で基本的な知識・視点を講義する。・介護の考え方を具体的に実践することができるように、「その人らしさ」「生活支援」について考え、自分たちを取り巻く環境と、介護を必要とする人の生活について自分で考え、介護福祉職としての自覚や意識を持つことができるような講義とする。			
授業の到達目標	1. 介護の場面を生活の視点から観察し、考え理解することができる。 2. 「尊厳の保持」と「自立支援」とは何か説明することができる。3・障害のある人の生活について理解することができる。			
ディプロマポリシー(DP)	1 専門的知識・技能 介護福祉及び医療・介護事務に関する実践的かつ体系的な専門的知識と技能を修得している。	2 主体的・創造的な課題解決能力 修得した専門的知識と技能を活かして、地域社会の実態を踏まえ、主体的・創造的に貢献する能力と意識をもっている。	3 人間関係形成力とコミュニケーション能力 倫理観と責任感を持ち、コミュニケーション能力と協働性を有し、多様な問題に臨む社会人としての態度を身につけている。	—
DPとの関連	○	○	◎	
※関連するDP番号に○（複数可）、最も関連部会DP番号は◎（1か所のみ）				

授業計画		担当者
第1回	本科の意義と目的 介護の定義について理解する	羽生
第2回	介護福祉を取り巻く現状について理解する	羽生
第3回	介護福祉の歴史を理解する（戦前～戦後）	羽生
第4回	介護福祉の歴史を理解する（戦後～1970年代）	羽生
第5回	介護福祉の歴史を理解する（1980年～現代）	羽生
第6回	介護福祉の基本理念について学ぶ(尊厳と自立)	羽生
第7回	介護福祉の基本理念について学ぶ(利用者の権利)	羽生
第8回	介護福祉士の役割と機能について学ぶ（介護福祉士法）	羽生
第9回	介護福祉士の活動の場と役割について学ぶ（地域包括ケアシステム）	羽生
第10回	求められる介護福祉士像とその構成について学ぶ（その人らしさを支えるケア）	羽生
第11回	介護福祉を支える団体について学ぶ	羽生
第12回	倫理の基本について学ぶ	羽生
第13回	介護福祉の倫理観について学ぶ（生命倫理）	羽生
第14回	介護福祉の倫理観について理解を深める	羽生
第15回	日本介護福祉士会の倫理綱領について学ぶ	羽生

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ ICT教育等を府k無
	○	○			○

担当教員の実務経験と授業の関連	介護福祉の現場での経験を活かして、介護の基本について教授する。		
事前学習	・事前学習：授業の予習(テキストを読む。わからない語句を調べておく)。	学習合計時間(h)	30
事後学習	・事後学習：学習内容を振り返りをする。わからない部分については、調べる・質問をする等で理解する。	学習合計時間(h)	30
課題に対するフィードバックの方法	・前回の学習内容についての小テストの実施。課題は、求めに応じて個別に対応する。		
質問・相談方法	授業中で対応する。		
オフィスアワー			

テキスト	『最新介護福祉士養成講座3「介護の基本Ⅰ」』第2版 介護福祉士養成講座編集委員会 中央法規出版 2023年(ISBN 978-4-8058-8392-1) 2, 420円(税込)		
参考文献等	『七訂 介護福祉用語辞典』 中央法規出版編集部編集 中央法規 2015年(ISBN 978-4-8058-5094-7) 2, 600円(税別)		
成績評価基準	介護福祉専門職としての役割・資質を理解すること。介護の場面を生活の視点から理解すること。		
成績評価の方法	小テストと課題・レポート(30%)、期末試験(70 %)で総合的に判定する。但し、レポートで代替する場合がある。		
G P A 基準			
備考			

科目名	介護の基本Ⅱ		科目ナンバー	S11103
担当者	中森 美恵子			
科目	—			
施工規則に定める科目区分 または事項等	—			
授業形式	講義			
配当年次	1	科目群	専門科目 [介護]	
開講期	前期	卒業の選択・必修	必修	
単位数	2	担当形態	単独	
免許・資格情報	必修：介護福祉士 選択必修：介護保険実務士			

授業の概要	1、介護福祉士が活動する介護サービス提供場面の見学や、視聴覚教材を活用し、ロールプレイなどの演習で体験するとことで、介護サービスの特性、活躍する場について説明する。2、介護福祉士の役割と特徴について、歴史の変遷も踏まえ概説し、介護福祉士に求められている社会的役割、専門職としての資質について講義する。			
授業の到達目標	1. 介護サービスの特性と働く場について理解できる。 2. 介護福祉士の役割について理解できる。3. 高齢者の生活について理解することができる。			
ディプロマポリシー(DP)	1 専門的知識・技能 介護福祉及び医療・介護事務に関する実践的かつ体系的な専門的知識と技能を修得している。	2 主体的・創造的な課題解決能力 修得した専門的知識と技能を活かし、地域社会の実態を踏まえ、主体的・創造的に貢献する能力と意識をもっている。	3 人間関係形成力とコミュニケーション能力 倫理観と責任感を持ち、コミュニケーション能力と協働性を有し、多様な問題に臨む社会人としての態度を身につけている。	—
DPとの関連	◎			
※関連するDP番号に○（複数可）、最も関連部会DP番号は◎（1か所のみ）				

授業計画		担当者
第1回	本科の目的 介護福祉士の役割と求められる介護福祉士像について知る	中森
第2回	介護サービスと介護福祉士の働く場について理解する	中森
第3回	高齢者の特性を理解する	中森
第4回	高齢者の特性の理解を深める	中森
第5回	高齢者の生活二つについて学ぶ(家族との生活)	中森
第6回	高齢者の生活について学ぶ (自立と自律)	中森
第7回	高齢者の生活について学ぶ (生活の質)	中森
第8回	高齢者の生活について学ぶ(介護予防)	中森
第9回	高齢者の生活の場について学ぶ(地域での生活)	中森
第10回	高齢者の生活の場について学ぶ(施設での生活)	中森
第11回	高齢者を取り巻く制度について学ぶ(老人福祉法と介護保険法)	中森
第12回	高齢者の介護サービスの特性を理解する(居宅サービス)	中森
第13回	高齢者の介護サービスの特性を理解する(施設サービス)	中森
第14回	高齢者の介護サービスの特性を理解する(地域密着型サービス)	中森
第15回	高齢者の生活の実際について理解を深める	中森

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ ICT教育等を府k無
	○	○			○

担当教員の実務経験と授業の関連	介護福祉士の実務経験を活かして、介護サービス及び特性について教授する。			
事前学習	・事前学習：授業の予習(テキストを読む,わからない語句を調べておく)。学外研修時は、研修施設の概要、特徴、地域について調べておくこと。			学習合計時間(h) 15
事後学習	・事後学習：学習内容の復習をする。わからないところは、調べる。質問をする。レポートを2題課す。			学習合計時間(h) 15
課題に対するフィードバックの方法	・前回の学習内容についての小テストの実施。・課題レポートについては、個別に対応する。			
質問・相談方法	授業中、オフィスアワーで対応する。			
オフィスアワー	金曜日 12:30～16:30 研究室(西館316号室)			

テキスト	『最新介護福祉士養成講座3「介護の基本Ⅰ」』第2版 介護福祉士養成講座編集委員会 中央法規出版 2022年(ISBN 978-4-8058-8392-1) 2,420円(税込) 『最新介護福祉士養成講座4「介護の基本Ⅱ」』第2版 介護福祉士養成講座編集委員会 中央法規出版 2022年(ISBN 978-8058-			
参考文献等	『七訂介護福祉用語辞典』 中央法規出版編集部編集 中央法規 2015年(ISBN 978-4-8058-5094-7) 2,600円(税別)			
成績評価基準	・介護サービスの特性を理解している。 ・介護福祉士としての役割、特徴を理解している。			
成績評価の方法	定期試験(70 %) 、小テストと課題・レポート(30%)で総合的に判定する。但し、レポートで代替する場合がある。			
G P A 基準				
備考	C O C 関連科目			

科目名	生活と自立支援		科目ナンバー	S11203
担当者	丸野 里美			
科目	—			
施工規則に定める科目区分 または事項等	—			
授業形式	講義			
配当年次	1	科目群	専門科目 [介護]	
開講期	後期	卒業の選択・必修	選択	
単位数	2	担当形態	単独	
免許・資格情報	必修：介護福祉士			

授業の概要	リハビリテーションの理念、障害の構造、分類、さらに様々な障害の特徴を学ぶ。また発達と老化の観点を通して、予防医学を含めたリハビリテーションの重要性を考える。特に加齢と障害に主眼を置き、「介護を必要とする人」を生活の視点からとらえることについて内容を深める。講義は主にPowerPointを用いて進める。また実技を行い、身体機能についてや障害の理解を深める。理解の確認を行うために授業ごと的小テストを行う。			
授業の到達目標	1. 身体機能の基本要素や老化、疾病、障害を理解する。 2. 障害が生活に及ぼす影響を理解する。 3. 自立支援について考察できる。			
ディプロマポリシー (DP)	1 専門的知識・技能 介護福祉及び医療・介護事務に関する実践的かつ体系的な専門的知識と技能を修得している。	2 主体的・創造的な課題解決能力 修得した専門的知識と技能を活かして、地域社会の実態を踏まえ、主体的・創造的に貢献する能力と意識をもっている。	3 人間関係形成力とコミュニケーション能力 倫理観と責任感を持ち、コミュニケーション能力と協働性を有し、多様な問題に臨む社会人としての態度を身につけている。	—
DPとの関連	◎	○	○	
※関連するDP番号に○（複数可）、最も関連部会DP番号は◎（1か所のみ）				

授業計画		担当者
第1回	リハビリテーションの歴史や理念、障害の概念について学ぶ	丸野
第2回	チームワークとしてのリハビリテーションについて学ぶ	丸野
第3回	ひとの身体機能、加齢と障害の基礎知識について学ぶ	丸野
第4回	廃用症候群のリハビリテーションについて学ぶ	丸野
第5回	脳血管疾患のリハビリテーションについて学ぶ	丸野
第6回	神経疾患、骨関節疾患のリハビリテーションについて学ぶ	丸野
第7回	高次脳機能障害、認知症について学ぶ	丸野
第8回	日常生活動作について学ぶ	丸野
第9回	実技1(身体機能について学ぶ)	丸野
第10回	実技2(リハビリテーション介護について学ぶ)	丸野
第11回	言語発達、失語症について学ぶ	丸野
第12回	構音障害、摂食嚥下のメカニズムについて学ぶ	丸野
第13回	介護予防、リハビリテーション専門職との連携について理解する	丸野
第14回	日常生活動作について学ぶ(グループワーク)	丸野
第15回	リスク管理について学び、発表してまとめる	丸野

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ ICT教育等を府k無
		○		○	

担当教員の実務経験と授業の関連	病院、在宅、高齢者、障害者施設での実務経験を活かして、リハビリテーション概論について教授する。		
事前学習	「日常生活の中で障害を持った方とのかかわりがあるとしたら」を意識し、疑問や、わからない用語等は辞書等で調べておく		学習合計時間(h) 30
事後学習	毎回前項目の小テストを行うため、復習をその都度行う		学習合計時間(h) 30
課題に対するフィードバックの方法	課題を課した場合、課題の提出方法やフィードバックは求めに応じて個別に対応する。		
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワー等で対応する。		
オフィスアワー	火曜日 12:50～16:20 講義室(南館301・西館203号室)		

テキスト	『介護の基本Ⅰ』 『生活支援技術Ⅲ』 介護福祉士養成講座編集委員会編集 中央法規 2019年 2200円 (ISBN: 978-4-8053-5763-2)		
参考文献等	『福祉住環境コーディネーター検定試験2級公式テキスト』 東京商工会議所		
成績評価基準	授業内容や到達目標にあげた項目を理解すること		
成績評価の方法	定期試験(80%) 小テスト(10%) 受講態度(10%)		
GPA基準			
備考			

科目名	コミュニケーションの基礎		科目ナンバー	S13101
担当者	篠原 美穂			
科目	—			
施工規則に定める科目区分 または事項等	—			
授業形式	講義			
配当年次	1	科目群	専門科目 [介護]	
開講期	前期	卒業の選択・必修	必修	
単位数	2	担当形態	単独	
免許・資格情報	必修：介護福祉士 選択必修(▲4単位)：ピアヘルパー認定試験受験資格			

授業の概要	本科目では、介護現場におけるコミュニケーションの知識・技術・態度に関する基礎的知識を学ぶため、言語コミュニケーションや非言語コミュニケーション等、コミュニケーションに関する講義を行う。			
授業の到達目標	1. コミュニケーションという概念について理解する 2. 利用者とのコミュニケーションの意義を理解する3. 自分のコミュニケーションパターンを認識し分析できる			
ディプロマポリシー (DP)	1 専門的知識・技能 介護福祉及び医療・介護事務に関する実践的かつ体系的な専門的知識と技能を修得している。	2 主体的・創造的な課題解決能力 修得した専門的知識と技能を活かして、地域社会の実態を踏まえ、主体的・創造的に貢献する能力と意識をもっている。	3 人間関係形成力とコミュニケーション能力 倫理観と責任感を持ち、コミュニケーション能力と協働性を有し、多様な問題に臨む社会人としての態度を身につけている。	—
DPとの関連	○	○	◎	
※関連するDP番号に○（複数可）、最も関連部会DP番号は◎（1か所のみ）				

授業計画			担当者
第1回	オリエンテーション／コミュニケーションとは		篠原
第2回	自己理解と他者理解		篠原
第3回	介護におけるコミュニケーションとは		篠原
第4回	介護におけるコミュニケーションの対象		篠原
第5回	言語・準言語・非言語コミュニケーションの基本		篠原
第6回	信頼関係の構築		篠原
第7回	介護実践の基盤		篠原
第8回	話を聴く技術		篠原
第9回	感情を察する技術		篠原
第10回	意欲を引き出す技術		篠原
第11回	共感的理解と意思決定支援		篠原
第12回	意向の表出を支援する技術		篠原
第13回	納得と同意を得る技術		篠原
第14回	集団におけるコミュニケーション技術		篠原
第15回	総括		篠原

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ ICT教育等を府k無
	○	○			

担当教員の実務経験と授業の関連	病院・福祉施設での臨床心理士としての経験を活かし、高齢者や障がい者へのコミュニケーションの基本について授業を行う。			
事前学習	意味のわからない用語は辞書等で調べておく			学習合計時間(h) 30
事後学習	配布された資料をレジュメと照合しながら整理する。			学習合計時間(h) 30
課題に対するフィードバックの方法	課題を課した場合(定期試験を含む)求めに応じて個別に対応する。			
質問・相談方法	授業の前後やオフィシアワー、また毎授業で実施する質問・感想記入シートへの回答で対応する。			
オフィシアワー	木曜日 12:30～14:20 研究室(西館304号室)			

テキスト	『コミュニケーション技術 第2版』 介護福祉士養成講座編集委員会(編集) 中央法規出版 2022年 2,200円(税別)(ISBN978-4805883945)			
参考文献等	『ピアヘルパーハンドブック』 日本教育カウンセラー協会(編) 図書文化 2023年 1,500円(税抜) (ISBN978-4-8100-3776-6)			
成績評価基準	コミュニケーションという概念について理解し、自己理解を深めながら、被介護者とのコミュニケーションの意義を理解できること。			
成績評価の方法	定期試験(80%)、授業中のレポート課題および授業への参加態度(20%)で総合的に判定する。ただし、定期試験および追再試験はレポートで代替する場合がある。			
GPA基準				
備考	他学科開放科目			

科目名	生活支援技術 A		科目ナンバー	S11104
担当者	浜崎 眞美、中森 美恵子			
科目	—			
施工規則に定める科目区分 または事項等	—			
授業形式	演習			
配当年次	1	科目群	専門科目 [介護]	
開講期	前期	卒業の選択・必修	必修	
単位数	2	担当形態	単独	
免許・資格情報	必修：介護福祉士 選択必修：介護保険実務士			

授業の概要	介護福祉士として、尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続に必要な生活支援の基本的な知識・技術を習得することを目指す。特にこの科目では、生活支援技術の基本的知識および技術について理解できるようにする。			
授業の到達目標	1. 利用者の心身の状況、場面に必要な生活支援技術の知識が理解できる。 2. 実践の根拠を理解し、尊厳の保持と自立支援のための移乗・移動の援助が適切に実践できる 3. 実践の根拠を理解し、尊厳の保持と自立支援のための身支度の援助が適切に実践できる 4. 実践の根拠を理解し、尊厳の保持と自立支援のための睡眠が生活に及ぼす影響を理解し、安眠できる環境状況に配慮した実践ができる			
ディプロマポリシー (DP)	1 専門的知識・技能 介護福祉及び医療・介護事務に関する実践的かつ体系的な専門的知識と技能を修得している。	2 主体的・創造的な課題解決能力 修得した専門的知識と技能を活かして、地域社会の実態を踏まえ、主体的・創造的に貢献する能力と意識をもっている。	3 人間関係形成力とコミュニケーション能力 倫理観と責任感を持ち、コミュニケーション能力と協働性を有し、多様な問題に臨む社会人としての態度を身につけている。	—
DPとの関連	◎	○	○	
※関連するDP番号に○（複数可）、最も関連部会DP番号は◎（1か所のみ）				

授業計画			担当者
第1回	本科目の意義と目的を学ぶ（生活支援とは何か）生活支援と介護過程について		中森
第2回	自立に向けた移動の介護移動・移乗のための道具・用具移動・移乗の基本的理解、歩行の介助		中森
第3回	自立に向けた移動の介護起居動作の介助		中森
第4回	自立に向けた移動の介護安楽な姿勢を保持する介助		中森
第5回	自立に向けた移動の介護車いす（移乗・移動）の介助①		中森
第6回	自立に向けた移動の介護車いす（移乗・移動）の介助②		中森
第7回	生活支援とチームアプローチ移動の介護における多職種との連携		中森
第8回	利用者の状態・状況に応じた生活支援技術とは		浜崎
第9回	自立した身じたくとは（意義・目的・介護福祉職の役割等）自立に向けた身じたくの介護（洗顔・整髪・ひげの手入れ等）		浜崎
第10回	自立に向けた身じたくの介護（爪の手入れ・耳の清潔の介助・化粧等）		浜崎
第11回	自立に向けた身じたくの介護（口腔ケア）身じたくの介護における多職種との連携		浜崎
第12回	自立に向けた身じたくの介護（衣服の着脱の介助）		浜崎
第13回	休息・睡眠とは休息・睡眠の介護（環境調整・睡眠障害とその支援・ベッドメイキング等）		浜崎
第14回	休息・睡眠の介護（ベッドメイキング：1人で行う場合）休息・睡眠の介護における多職種との連携		浜崎
第15回	ベッドメイキング（実技試験）		浜崎

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ICT教育等を府k無
		○		○	

担当教員の実務経験と授業の関連	介護福祉士及び看護師としての実務経験を活かし、生活支援技術の基本的な技能が身につくように教授する。			
事前学習	授業の予習としてはテキストを読み、生活支援の基本動作をイメージしておく			学習合計時間(h) 15
事後学習	生活支援で学んだ演習内容と動作は、繰り返し練習すること。			学習合計時間(h) 15
課題に対するフィードバックの方法	介護技術は単独で実践されるものではないので、演習(それぞれの課題)のたびに、フィードバックをしながら技術修得を進めていく。			
質問・相談方法	授業中、授業の前後やオフィスアワーなどで対応する。			
オフィスアワー	中森：水曜日12：20～13：10研究室浜崎：水曜日12：20～13：10 研究室			

テキスト	最新介護福祉士養成講座6生活支援技術Ⅰ(第2版) 中央法規 2022 2200円(ISBN978-4-8058-8395-2)最新介護福祉士養成講座7生活支援技術Ⅱ(第2版) 中央法規 2022 2200円(ISBN978-4-8058-8396-9)
参考文献等	
成績評価基準	実技試験及び定期試験、授業内の小テストにおいて、到達目標の生活支援ができること。
成績評価の方法	中森（50％）：実技試験（40％）、小テスト（10％）で総合的に判定する。浜崎（50％）：実技試験(20%)、期末試験(30%)で総合的に判定する。状況によりレポート等で代替する場合がある。
G P A 基準	
備考	教育効果向上のため、2コマ(180分)×15回で実施する。

科目名	生活支援技術 B			科目ナンバー	S11204
担当者	末永 真由美				
科目	—				
施工規則に定める科目区分 または事項等	—				
授業形式	演習				
配当年次	1	科目群	専門科目 [介護]		
開講期	後期	卒業の選択・必修	選択		
単位数	2	担当形態	オムニバス		
免許・資格情報	必修：介護福祉士 選択必修：介護保険実務士				

授業の概要	尊厳の保持の観点から、どのような状態であってもその人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出し、見守ることも含めた介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識について明らかにする。生活支援技術Bでは、食事の介護、排泄の介護が主な内容となる。効果的な演習となるために、お互いに介護者役、利用者役を担いながら進める。心身の状況に応じた介護が実践できるために、「介護技術の基礎」で学んだことを深めることができるようにする。			
授業の到達目標	1. 食事の介護、排泄の介護について具体的援助を実践できる。			
ディプロマポリシー (DP)	1 専門的知識・技能 介護福祉及び医療・介護事務に関する実践的かつ体系的な専門的知識と技能を修得している。	2 主体的・創造的な課題解決能力 修得した専門的知識と技能を活かして、地域社会の実態を踏まえ、主体的・創造的に貢献する能力と意識をもっている。	3 人間関係形成力とコミュニケーション能力 倫理観と責任感を持ち、コミュニケーション能力と協働性を有し、多様な問題に臨む社会人としての態度を身につけている。	—
DPとの関連	◎	○		
※関連するDP番号に○（複数可）、最も関連部会DP番号は◎（1か所のみ）				

授業計画		担当者
第1回	自立した食事のとは	末永
第2回	利用者の状態・状況に応じた食事の方法	末永
第3回	利用者の状態・状況に応じた食事の方法	末永
第4回	適切な排泄の方法（トイレでの排泄の介助方法）	末永
第5回	適切な排泄の方法（ポータブルトイレでの排泄の介助方法）	末永
第6回	適切な排泄の方法（パッド交換の介助・尿器、差し込み便器での排泄の介助）	末永
第7回	適切な排泄の方法（おむつでの排泄の介助）	末永
第8回	その他の排泄に関するさまざまな介助	末永
第9回	排泄の介護における多職種との連携	末永
第10回	状態に応じた適切な排泄の方法（肢体不自由に応じた排泄の介護）	末永
第11回	状態に応じた適切な排泄の方法（重度障害に応じた排泄の介護）	末永
第12回	状態に応じた適切な排泄の方法（重度心身障害に応じた排泄の介護）	末永
第13回	状態に応じた適切な排泄の方法（その他障害に応じた排泄の介護）	末永
第14回	状態に応じた適切な食事の介護・排泄の介護の振り返り	末永
第15回	実技試験	末永

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ ICT教育等を府k無
		○		○	
担当教員の実務経験と授業の関連					
事前学習	・「介護技術の基礎」、「生活支援技術A」で学んだことを復習し、不明な点は質問すること。			学習合計時間(h)	30
事後学習	・実施した演習内容について、繰り返し練習を行うこと。			学習合計時間(h)	30
課題に対するフィードバックの方法	課題を課した場合、求めに応じて個別に対応する。				
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワーで対応する。				
オフィスアワー					
テキスト	『最新・介護福祉士養成講座 生活支援技術Ⅰ』第2版 介護福祉士養成講座編集委員会編集 中央法規 2022年 2200円(税別) (ISBN978-4-8058-8395-2) 『最新・介護福祉士養成講座 生活支援技術Ⅱ』第2版 介護福祉士養成講座編集委員会編集 中央法規 2022年 2200円(税別)				
参考文献等	『最新・介護福祉士養成講座 ことわざからだのしくみ』第2版 介護福祉士養成講座編集委員会編集 中央法規 2022年 2600円 『七訂 介護福祉用語辞典』 中央法規出版部編 中央法規 2015年 2600円				
成績評価基準	食事・排泄の介護について、利用者の心身の状況に応じた具体的援助内容を理解すること。				
成績評価の方法	実技試験とレポート(20%)、期末試験(80%)で総合的に判定する。状況によりレポート等で代替する場合がある。				
GPA基準					
備考					

科目名	生活支援技術（住）		科目ナンバー	S11105
担当者	久留須 直也			
科目	—			
施工規則に定める科目区分 または事項等	—			
授業形式	講義			
配当年次	1	科目群	専門科目 [介護]	
開講期	前期	卒業の選択・必修	選択	
単位数	2	担当形態	単独	
免許・資格情報	必修：介護福祉士			

授業の概要	介護福祉士として必要な居住環境の整備および福祉用具の意義・実際について理解する。その上で、各福祉用具の名称、使用方法、使用時の留意点などについて講義する。			
授業の到達目標	1. 居住環境の整備について理解する。 2. 福祉用具の意義について理解する。 3. 福祉用具の実際（名称・名称・使用方法・使用時の留意点を理解する。			
ディプロマポリシー (DP)	1 専門的知識・技能 介護福祉及び医療・介護事務に関する実践的かつ体系的な専門的知識と技能を修得している。	2 主体的・創造的な課題解決能力 修得した専門的知識と技能を活かして、地域社会の実態を踏まえ、主体的・創造的に貢献する能力と意識をもっている。	3 人間関係形成力とコミュニケーション能力 倫理観と責任感を持ち、コミュニケーション能力と協働性を有し、多様な問題に臨む社会人としての態度を身につけている。	—
DPとの関連	◎	○		

※関連するDP番号に○（複数可）、最も関連部会DP番号は◎（1か所のみ）

授業計画		担当者
第1回	住まいの役割と機能について学ぶ	久留須
第2回	生活空間について学ぶ	久留須
第3回	快適な屋内環境について学ぶ	久留須
第4回	安全に暮らすための生活環境について学ぶ①（日本の住宅の問題点について考える）	久留須
第5回	安全に暮らすための生活環境について学ぶ②（尺貫法・日常安全のための対策）	久留須
第6回	居住環境の整備における多職種との連携について学ぶ	久留須
第7回	生活支援における福祉用具の重要性について学ぶ福祉用具の種類①（介護保険制度における福祉用具）について学ぶ	久留須
第8回	福祉用具の種類②（介護保険制度、障害者総合支援法における福祉用具）について学ぶ	久留須
第9回	適切な福祉用具を選ぶための視点について学ぶ日用品・自助具・コミュニケーション支援用具について学ぶ	久留須
第10回	移動・移乗のための福祉用具について学ぶ①（歩行器・杖、車いす、手すり・スロープ）	久留須
第11回	移動・移乗のための福祉用具について学ぶ②（段差解消機・階段昇降機、リフト）起居・就寝のための福祉用具について学ぶ	久留須
第12回	排泄・入浴のための福祉用具について学ぶ	久留須
第13回	福祉用具の実際について学ぶ①（介護実習室における体験：移動・移乗のための福祉用具）	久留須
第14回	福祉用具の実際について学ぶ①（介護実習室における体験：移動・移乗のための福祉用具以外）	久留須
第15回	自宅で生活を続けるための環境整備（演習）授業のまとめ・振り返り	久留須

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ ICT教育等を府k無
	○	○	○		○
担当教員の実務経験と授業の関連	医療機関における医療ソーシャルワーカー(社会福祉士)及び介護支援専門員、福祉住環境コーディネーターとしての実務経験を活かし、高齢者や障害者、その他生活の不自由さを感じている人々に対する住環境整備や福祉用具の活用について教授する。				
事前学習	今回の授業内容について、教科書等を熟読し、分からない用語は辞書等で調べておく。			学習合計時間(h)	30
事後学習	学習内容の復習をする中で、分からない箇所はテキストや授業資料を見直し、自主学習を行う。自主学習で不明な点があれば担当教員へ質問をする。			学習合計時間(h)	30
課題に対するフィードバックの方法	授業終了前にGoogleclassroomを利用したコメントシートを入力し、課題等の回答を促し、次の授業で回答する。				
質問・相談方法	授業中での質問時間を設定する。また毎回入力するコメントシートに質問事項を入力させ、次の授業時に質問についての解説を行う。				
オフィスアワー	月・水曜日 昼休み(12:20～13:10)研究室(西館314号室)				
テキスト	『最新・介護福祉士養成講座 6 生活支援技術Ⅰ』（第2版） 介護福祉士養成講座編集委員会編集 中央法規 2022年 2,200円(税別) ISBN：978-4-8058-8395-2				
参考文献等	『福祉住環境コーディネーター検定試験3級公式テキスト（改訂6版）』東京商工会議所編 2022年 2,500円（税別） ISBN 978-4-924547-65-0				
成績評価基準	到達目標に掲げた項目を理解すること。				
成績評価の方法	【本試験・再試験・追試験時の評価方法】授業への参加態度(15%)とレポート課題(15%)、期末試験(70%)で総合的に評価する。ただし、状況により評価をレポートで代替する場合がある。				
GPA基準					
備考	COC科目第1回目の講義に講師作成授業資料を配布するため、毎時間持参する。Googleclassを利用してコメントシートを作成する。				

科目名	介護過程Ⅰ		科目ナンバー	S11106
担当者	中森 美恵子			
科目	—			
施工規則に定める科目区分 または事項等	—			
授業形式	講義			
配当年次	1	科目群	専門科目 [介護]	
開講期	前期	卒業の選択・必修	選択	
単位数	2	担当形態	単独	
免許・資格情報	必修：介護福祉士			

授業の概要	・介護福祉士として介護を提供するには、専門的思考を展開する必要がある。他の科目で学習した知識や技術を統合して、「尊厳の保持」「自立支援」を生活の視点から捉え専門的な思考展開を身に付けるための基礎的知識を講義する。・介護実習での課題に効果的に取り組むために、利用者の観察や情報収集に必要な知識や方法を講義する。			
授業の到達目標	1. 介護過程とは何か理解することができる。 2. 介護過程の必要性を理解し、介護実習等の実践に活かすことができる。 3. ICFの視点に基づく生活機能の観察や情報収集、記録ができる。			
ディプロマポリシー (DP)	1 専門的知識・技能 介護福祉及び医療・介護事務に関する実践的かつ体系的な専門的知識と技能を修得している。	2 主体的・創造的な課題解決能力 修得した専門的知識と技能を活かして、地域社会の実態を踏まえ、主体的・創造的に貢献する能力と意識をもっている。	3 人間関係形成力とコミュニケーション能力 倫理観と責任感を持ち、コミュニケーション能力と協働性を有し、多様な問題に臨む社会人としての態度を身につけている。	—
DPとの関連	◎	○		
※関連するDP番号に○（複数可）、最も関連部会DP番号は◎（1か所のみ）				

授業計画		担当者
第1回	本科目の意義と目的を学ぶ	中森
第2回	介護過程の目的を理解する	中森
第3回	介護過程の意義を理解する	中森
第4回	介護過程の方法について学ぶ(アセスメント)	中森
第5回	介護過程の方法について学ぶ(計画の立案)	中森
第6回	介護過程の方法について学ぶ(実施・評価)	中森
第7回	ICFの考え方について学ぶ	中森
第8回	ICFの考え方について学ぶ	中森
第9回	情報収集と観察の方法について学ぶ	中森
第10回	情報収集と観察の方法について学ぶ	中森
第11回	情報収集と観察の実際について理解を深める	中森
第12回	記録の方法について学ぶ	中森
第13回	記録の方法と実際について学ぶ	中森
第14回	記録の方法と実際について学ぶ	中森
第15回	記録の方法について理解を深める	中森

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ I C T教育等を府 k 無
	○	○			○

担当教員の実務経験と授業の関連	介護福祉の実務経験を活かし、介護のプロセスについて教授する。		
事前学習	・事前学習：授業の予習(テキストを読む、わからない語句を調べておく)	学習合計時間(h)	30
事後学習	・事後学習：介護過程のプロセスについての復習、授業や介護実習で記載した書類の訂正等を行う。	学習合計時間(h)	30
課題に対するフィードバックの方法	・前回の内容についての小テストを行う。・求めに応じて個別に対応する。		
質問・相談方法	授業中、オフィスアワーで対応する。		
オフィスアワー	火曜日 15:00～16:30 研究室(西館316号室)		

テキスト	授業内で資料を配布する		
参考文献等	・『最新介護福祉士養成講座9「介護過程」』第2版 介護福祉士養成講座編集委員会 中央法規出版 2022年(ISBN 978-4-8058-8398-3) 2, 420円(税込) ・介護実習要項(令和7年度入学生用)		
成績評価基準	・介護過程を理解し説明できる。 ・ICFの視点に基づく記録や観察ができる。		
成績評価の方法	定期試験(80%)、小テストと提出物(20%)で総合的に判定する。但し、レポートで代替する場合がある。		
G P A 基準			
備考			

科目名	介護過程Ⅱ		科目ナンバー	S11205
担当者	中森 美恵子			
科目	—			
施工規則に定める科目区分 または事項等	—			
授業形式	講義			
配当年次	1	科目群	専門科目 [介護]	
開講期	後期	卒業の選択・必修	選択	
単位数	2	担当形態	単独	
免許・資格情報	必修：介護福祉士			

授業の概要	・介護過程Ⅰ学習した知識や技術を、実際に活用できるように演習やグループワークを通して身に付け、更に、介護の根拠に基づいて提供できるように講義する。 ・介護実習において介護過程の展開ができるように、根拠の理解と必要な知識、技術を講義する。			
授業の到達目標	1. 介護過程の展開について説明できる。 2. 根拠に基づいた介護を提供するための情報を収集でき、記録することができる。 3. 介護過程のアセスメントについて理解することができる。			
ディプロマポリシー (DP)	1 専門的知識・技能 介護福祉及び医療・介護事務に関する実践的かつ体系的な専門的知識と技能を修得している。	2 主体的・創造的な課題解決能力 修得した専門的知識と技能を活かして、地域社会の実態を踏まえ、主体的・創造的に貢献する能力と意識をもっている。	3 人間関係形成力とコミュニケーション能力 倫理観と責任感を持ち、コミュニケーション能力と協働性を有し、多様な問題に臨む社会人としての態度を身につけている。	—
DPとの関連	◎	○		
※関連するDP番号に○（複数可）、最も関連部会DP番号は◎（1か所のみ）				

授業計画		担当者
第1回	利用者を観察する方法を学ぶ	中森
第2回	利用者を観察する方法を理解する	中森
第3回	収集した情報を整理する意味を学ぶ	中森
第4回	収集した情報を整理する方法を理解する	中森
第5回	情報の意味を考える	中森
第6回	支援に必要な情報の意味を考え、取捨選択することについて学ぶ	中森
第7回	支援の方向性について学ぶ	中森
第8回	課題を明確にすることについて学ぶ	中森
第9回	課題を明確にすることについて学ぶ	中森
第10回	課題を明確にすることについて理解し、文章化することについて学ぶ	中森
第11回	利用者を観察する（ワーク）	中森
第12回	収集した情報を整理する（ワーク）	中森
第13回	支援に必要な情報の意味を考え、取捨選択することについて学ぶ	中森
第14回	支援の方向性について考える（ワーク）	中森
第15回	課題を明確にする（ワーク）介護実習と介護過程の展開について理解する	中森

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ ICT教育等を府k無
	○	○			○

担当教員の実務経験と授業の関連	介護福祉の実務経験を活かして、介護の専門性について教授する		
事前学習	事前学習：授業の予習(テキストを読む、わからない語句を調べておく)	学習合計時間(h)	30
事後学習	事後学習：内容の復習、授業や介護実習で記載した書類の訂正等を行う。課題事例を仕上げる。	学習合計時間(h)	30
課題に対するフィードバックの方法	・前回の内容の小テストを実施する。・使用した課題事例は完成をする。指導については、個別指導を行う。		
質問・相談方法	授業中、オフィスアワーで対応する。		
オフィスアワー	木曜日 13:00～16:30 研究室(西館316号室)		

テキスト	授業内で資料を配布する		
参考文献等	・『最新介護福祉士養成講座9「介護過程」』第2版 介護福祉士養成講座編集委員会 中央法規出版 2022年(ISBN 978-4-8058-8398-3) 2, 420円(税込) ・介護実習要項(令和5年度入学生用)		
成績評価基準	・介護過程の展開について理解している。・ICFの視点に基づいた記録ができています。・アセスメントについて理解し展開ができる。		
成績評価の方法	課題レポート(70%)、授業内での課題(30%)で総合的に判定する。		
GPA基準			
備考			

科目名	介護総合演習Ⅰ			科目ナンバー	S12102
担当者	久留須 直也、浜崎 眞美、石田 もとな、松下 みゆき				
科目	—				
施工規則に定める科目区分 または事項等	—				
授業形式	演習				
配当年次	1	科目群	専門科目 [介護]		
開講期	前期	卒業の選択・必修	選択		
単位数	1	担当形態	オムニバス		
免許・資格情報	必修：介護福祉士 選択必修：介護保険実務士				

授業の概要	介護総合演習は、実習と組み合わせての学習とする。介護実習前の介護技術の確認や施設等の理解及びオリエンテーション、実習後の反省会等を通じて、介護福祉士に必要な知識や技術、介護過程の展開能力等を学内での学びと実習での学びとを総合することで深めることができるように授業を進める。また、学生個人の学習到達状況に応じた学習の機会であるように工夫する。			
授業の到達目標	1. 介護実習の目的を理解し、実習に必要な事前準備ができる。 2. 実習後の振り返りを通じて、実習での学びをまとめることができる。 3. 様々な生活の場における個別ケアを理解できる。			
ディプロマポリシー(DP)	1 専門的知識・技能 介護福祉及び医療・介護事務に関する実践的かつ体系的な専門的知識と技能を修得している。	2 主体的・創造的な課題解決能力 修得した専門的知識と技能を活かして、地域社会の実態を踏まえ、主体的・創造的に貢献する能力と意識をもっている。	3 人間関係形成力とコミュニケーション能力 倫理観と責任感を持ち、コミュニケーション能力と協働性を有し、多様な問題に臨む社会人としての態度を身につけている。	—
DPとの関連	○	◎	○	
※関連するDP番号に○（複数可）、最も関連部会DP番号は◎（1か所のみ）				

授業計画		担当者
第1回	介護総合演習Ⅰの目的、実習の意義・目的・目標	久留須
第2回	身だしなみ・マナー	石田
第3回	身だしなみ・マナー	石田
第4回	介護実習の方法・種類、期間実習前の学びと実習後の学びの活かし方	久留須
第5回	ネーム付け	浜崎
第6回	介護実習Ⅰ-①の配置の発表、介護実習の具体的目標・方法(変更の可能性あり)実習に関する諸注意(実習の心得、姿勢・身だしなみ・マナー・感染予防等)	久留須
第7回	関係書類の配布・記入方法・提出及び回収方法(個人票、出席表、実習計画、生活支援技術チェック、個人情報誓約書、実習評価表、自己評価表)	久留須
第8回	通所介護・通所リハビリテーションについて	松下
第9回	実習先の概要把握(事前学習)	浜崎
第10回	介護実習計画(目標含む)の作成→(指導は巡回担当教員)事前訪問(7月上旬)について(アゴ取り)、交通手段、所要時間確認、事前訪問報告書について	久留須
第11回	「観察して得た情報」の記入方法、受け持ち利用者について、検便容器の配布・説明(変更になる可能性もあり)	浜崎
第12回	オリエンテーション記録、介護実習記録、介護実習を終えての書き方	浜崎
第13回	カンファレンスの進行方法、カンファレンス記録の書き方	浜崎
第14回	<事前訪問後>学生と巡回担当教員との打ち合わせ→(指導は巡回担当教員)事前訪問報告書提出、お礼状の準備、実習反省会について、服装チェック	久留須
第15回	<介護実習Ⅰ-①終了後>実習反省会	久留須・浜崎

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ ICT教育等を府k無
	○	○			○
担当教員の実務経験と授業の関連	介護福祉士や看護師，社会福祉士の実務経験を活かし，介護実習の方法など具体的に教授する。				
事前学習	テキストを用いた予習，これまでの事前訪問記録の確認をする			学習合計時間(h)	15
事後学習	実習で学んだことを自身でまとめ，反省会に向けた準備をするテキストやこれまでの配布資料を基に復習をする			学習合計時間(h)	15
課題に対するフィードバックの方法	課題を課した場合，求めに応じて個別に対応する。				
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワーで対応する。				
オフィスアワー	久留須：月・水曜日 昼休み(12:20～13:10)研究室(西館314号室) 浜崎：金曜日 13：00～16：20 研究室(西館315号室)石田：金曜日 16：30～17：30 研究室(西館404号室)要事前連絡 松下(非常勤)：金曜日 18：00～18：15 講義室				
テキスト	『最新・介護福祉士養成講座 10 介護総合演習・介護実習』（第2版）介護福祉士養成講座編集委員会編集 中央法規 2022年 2,200円(税別) ISBN：978-4-8058-8399-0				
参考文献等	『介護実習要項』 『新生活教養－社会人としての基本マナー』 近喰晴子他 2015年				
成績評価基準	・介護実習の目的を理解し，実習に必要な事前準備の必要性が理解できること。 ・実習後の振り返りにより，実習での学びをまとめることができること。				
成績評価の方法	石田(20%)・松下(10%)・事前学習や実習計画，ネーム付け等の提出期限および内容（60%），実習反省会の参加度（10%）で評価する。ただし，状況により評価をレポートで代替する場合がある。				
GPA基準					
備考	実習施設とのやり取りの中で，講義の順番に変更が生じる可能性がある。Googleclassを利用して資料を配布することもある。				

科目名	介護総合演習Ⅱ			科目ナンバー	S12202
担当者	久留須 直也、浜崎 真美、石田 もとな、宮園 真紀、福留 弘、松下 みゆき				
科目	—				
施工規則に定める科目区分 または事項等	—				
授業形式	演習				
配当年次	1	科目群	専門科目〔介護〕		
開講期	後期	卒業の選択・必修	選択		
単位数	1	担当形態	オムニバス		
免許・資格情報	必修：介護福祉士 選択必修：介護保険実務士				

授業の概要	介護総合演習は、実習と組み合わせての学習とする。介護実習前の介護技術の確認や施設等の理解及びオリエンテーション、実習後の反省会等を通じて、介護福祉士に必要な知識や技術、介護過程の展開能力等を学内での学びと実習での学びとを総合することで深めることができるように授業を進める。また、学生個人の学習到達状況に応じた学習の機会であるように工夫する。			
授業の到達目標	1. 介護実習の目的を理解し、実習に必要な事前準備ができる。 2. 実習後の振り返りを通じて、実習での学びをまとめることができる。 3. 様々な生活の場における個別ケアを理解できる。			
ディプロマポリシー (DP)	1 専門的知識・技能 介護福祉及び医療・介護事務に関する実践的かつ体系的な専門的知識と技能を修得している。	2 主体的・創造的な課題解決能力 修得した専門的知識と技能を活かして、地域社会の実態を踏まえ、主体的・創造的に貢献する能力と意識をもっている。	3 人間関係形成力とコミュニケーション能力 倫理観と責任感を持ち、コミュニケーション能力と協働性を有し、多様な問題に臨む社会人としての態度を身につけている。	—
DPとの関連	○	◎	○	
※関連するDP番号に○（複数可）、最も関連部会DP番号は◎（1か所のみ）				

授業計画			担当者
第1回	介護実習Ⅰ-②の配置の発表(変更になる可能性あり)、介護実習の具体的目標・方法実習に関する諸注意(実習の心得、姿勢・身だしなみ・マナー・感染予防等)関係書類の配布・記入方法・提出及び回収方法(個人票、出席表、実習計画、生活支援技術チェック、個人情報誓約書、実習評価表、自己評価表)、実習先の概要把握(事前学習)		久留須
第2回	訪問介護について		松下
第3回	グループホームについて		宮園
第4回	介護実習計画(目標も含む)の作成→(指導は巡回担当教員)事前訪問(10月中旬)について(アボ取り)交通手段、所要時間確認、事前訪問報告書について、検便容器の配布・説明(変更になる可能性あり)		久留須
第5回	家族・近隣・地域との連携について		宮園
第6回	「利用者を観察して得た情報」の記入方法、受け持ち利用者について「連携場面を観察して得た情報」の記入方法		浜崎
第7回	<事前訪問後>学生と巡回担当教員との打ち合わせ→(指導は巡回担当教員)事前訪問報告書提出、お礼状の準備、実習反省会について、服装チェック		久留須
第8回	<介護実習Ⅰ-②終了後>実習反省会		久留須、浜崎
第9回	特別養護老人ホーム・介護老人保健施設について		浜崎
第10回	障害者支援施設・療養介護事業所について		福留
第11回	介護実習Ⅱの配置の発表(変更になる可能性あり)、介護実習の具体的目標・方法実習に関する諸注意(実習の心得、姿勢・身だしなみ・マナー・感染予防等)関係書類の配布・記入方法・提出及び回収方法(個人票、出席表、実習計画、生活支援技術チェック、個人情報誓約書、実習評価表、自己評価表)、実習先の概要把握(事前学習)		久留須
第12回	介護実習Ⅰの評価、介護実習計画(目標含む)の作成→(指導は巡回担当教員)		久留須
第13回	事前訪問(1月上旬)について(アボ取り)、)「受け持ち利用者希望表」の記入方法→(指導は巡回担当教員)、検便容器の配布・説明(変更になる可能性あり)、フェイスシート、アセスメント表について(記入方法は介護過程で)、交通手段、所要時間確認、事前訪問報告書について		久留須
第14回	<事前訪問後>学生と巡回担当教員との打ち合わせ→(指導は巡回担当教員)事前訪問報告書提出、お礼状の準備、実習反省会について、服装チェック		久留須
第15回	<介護実習Ⅱ終了後>実習反省会		久留須・浜崎

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ ICT教育等を府k無
	○	○			○

担当教員の実務経験と授業の関連	介護福祉士や看護師，社会福祉士の実務経験を活かし，介護実習の方法など具体的に教授する。			
事前学習	テキストを用いた予習，これまでの事前訪問記録の確認をする			学習合計時間(h) 15
事後学習	実習で学んだことを自身でまとめ，反省会に向けた準備をするテキストやこれまでの配布資料を基に復習をする			学習合計時間(h) 15
課題に対するフィードバックの方法	課題を課した場合，求めに応じて個別に対応する。			
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワーで対応する。			
オフィスアワー	久留須：月・水曜日 昼休み(12:20～13:10)研究室(西館314号室) 浜崎：金曜日 13:00～16:20 研究室(西館315号室) 松下・宮園・福留(非常勤)：金曜日 18:00～18:15 講義室			

テキスト	『最新・介護福祉士養成講座 10 介護総合演習・介護実習』（第2版） 介護福祉士養成講座編集委員会編集 中央法規 2022年 2,200円(税別) ISBN：978-4-8058-8399-0			
参考文献等	『介護実習要項』 『新生活教養－社会人としての基本マナー』 近喰晴子他 2015年			
成績評価基準	・介護実習の目的を理解し，実習に必要な事前準備の必要性が理解できること。 ・実習後の振り返りにより，実習での学びをまとめることができること。			
成績評価の方法	松下(10%)・宮園(20%)・福留(10%)・事前学習や実習計画等の提出期限および内容(40%)，実習反省会の参加度(20%)で評価する。ただし，状況により評価をレポートで代替する場合がある。			
GPA基準				
備考	実習施設とのやり取りの中で，講義の順番に変更が生じる可能性がある。Googleclassを利用して資料を配布することもある。			

科目名	介護実習Ⅰ			科目ナンバー	S12203
担当者	浜崎 真美、久留須 直也、中森 美恵子				
科目	—				
施工規則に定める科目区分 または事項等	—				
授業形式	実習				
配当年次	1	科目群	専門科目 [介護]		
開講期	後期	卒業の選択・必修	選択		
単位数	2	担当形態	複数		
免許・資格情報	必修：介護福祉士 選択必修：介護保険実務士				

授業の概要	・個々の生活リズムや個性を理解するという観点から、様々な生活の場において個別ケアを理解し、利用者・家族とのコミュニケーションの実践、介護技術の確認、多職種協働や関係機関との連携を通じてチームの一員としての介護福祉士の役割について学ぶ。・介護実習Ⅰでは、鹿児島県内の居宅系事業所にて実習する。介護実習Ⅰ-1では通所介護事業所、通所リハビリテーション事業所で5日間、介護実習Ⅰ-2では、グループホームで2日間、訪問介護事業所で5日間学ぶ。			
授業の到達目標	1. 多様な事業所の概要や役割を理解し、地域における利用者の生活や介護職員の業務内容の実際を知る。 2. コミュニケーションや生活支援技術を用いて介護を行い、利用者特性を把握できる 3. 利用者個々の生活リズムや個性に応じた生活支援の在り方を知る4. 多職種協働や関係機関との連携を通して介護福祉士の役割について理解する			
ディプロマポリシー(DP)	1 専門的知識・技能 介護福祉及び医療・介護事務に関する実践的かつ体系的な専門的知識と技能を修得している。	2 主体的・創造的な課題解決能力 修得した専門的知識と技能を活かして、地域社会の実態を踏まえ、主体的・創造的に貢献する能力と意識をもっている。	3 人間関係形成力とコミュニケーション能力 倫理観と責任感を持ち、コミュニケーション能力と協働性を有し、多様な問題に臨む社会人としての態度を身につけている。	—
DPとの関連	○	◎	○	
※関連するDP番号に○（複数可）、最も関連部会DP番号は◎（1か所のみ）				

授業計画		担当者
第1回	オリエンテーション1(自己紹介、施設の概要について)	実習指導者
第2回	オリエンテーション2(一日の流れ・週間予定・年間予定について)	中森
第3回	オリエンテーション3(感染予防に関すること、その他について)	実習指導者
第4回	オリエンテーション4(オリエンテーションの情報を記録する)	実習指導者
第5回	日課表沿った業務の進め方・内容を把握する	実習指導者
第6回	利用者の特性を知る	実習指導者
第7回	指導者の助言のもと生活支援技術を用いながらの実習	実習指導者
第8回	実習記録1(実習目標及び計画を記録する)	実習指導者
第9回	実習記録2(一日の目標と計画を指導者に報告し助言を受ける)	実習指導者
第10回	実習記録3(実習内容及び評価・考察についてまとめ記録する)	実習指導者
第11回	観察して情報を得る1(受け持ちの利用者について生活リズムを観察する)	実習指導者
第12回	観察して情報を得る2(受け持ちの利用者の個別ケアについて観察)	実習指導者
第13回	観察して情報を得る3(観察で得た情報を記録する)	実習指導者
第14回	観察して情報を得る(多職種協働・関係機関との連携の在り方について)	実習指導者
第15回	総括(実習の振り返り)	実習指導者

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ ICT教育等を府k無
	○			○	

担当教員の実務経験と授業の関連	介護福祉士、看護師、社会福祉士等の実務経験を活かし、実習について教授する			
事前学習	施設でのオリエンテーションを受ける前に、施設の概要を調査し、用紙にまとめる			学習合計時間(h) 45
事後学習	実習後に全員で反省会を開催し、意見交換で出てきた内容を代表者がまとめて各自に配布する			学習合計時間(h) 45
課題に対するフィードバックの方法	実習で発見した課題については、次回の実習に活かせるよう全体の反省会時にフィードバックする。			
質問・相談方法	実習期間中は実習指導者、施設職員に尋ねる。教員の巡回指導時にも質問できるようにしている。			
オフィスアワー	浜崎：木曜日 14：50～16：20 研究室(西館315号室)久留須：木曜日 14：50～16：20 研究室(西館314号室)中森：木曜日 13：00～16：30 研究室(西館316号室)			

テキスト	『最新・介護福祉士養成講座 10「介護総合演習・介護実習」』第2版 介護福祉士養成講座編集委員会編 中央法規出版 2022年 2, 420円(税込) ISBN 978-4-8058-8399-0
参考文献等	介護実習要項(令和7年度入学生用)
成績評価基準	到達目標に掲げた項目に達すること。
成績評価の方法	実習中の提出物や実習態度及び施設からの実習評価(100%)により総合的に評価する。
GPA基準	介護実習Ⅰ-②については原則1.0
備考	COC関連科目

科目名	介護実習Ⅱ		科目ナンバー	S12204
担当者	浜崎 眞美、久留須 直也、中森 美恵子			
科目	—			
施工規則に定める科目区分 または事項等	—			
授業形式	実習			
配当年次	1	科目群	専門科目 [介護]	
開講期	後期	卒業の選択・必修	選択	
単位数	3	担当形態	複数	
免許・資格情報	必修：介護福祉士			

授業の概要	個別ケアを行うために介護過程を展開する。個々の生活リズムや個性を理解し、利用者の課題を明確にするまでを行う。他科目で学習した知識や技術を統合して、具体的な介護サービスの提供の基本となる実践力を習得する。介護実習Ⅱでは、鹿児島県内の入所系施設(介護老人福祉施設・介護老人保健施設・障害者支援施設のいずれか)にて実習し、14日間をかけて学ぶ。			
授業の到達目標	1. 施設の概要や役割を理解し、利用者の生活・障害像を理解できる 2. 生活支援技術を用いて介護を行い、個別支援の在り方を知る 3. 利用者の特性と現状を把握することができる			
ディプロマポリシー(DP)	1 専門的知識・技能 介護福祉及び医療・介護事務に関する実践的かつ体系的な専門的知識と技能を修得している。	2 主体的・創造的な課題解決能力 修得した専門的知識と技能を活かし、地域社会の実態を踏まえ、主体的・創造的に貢献する能力と意識をもっている。	3 人間関係形成力とコミュニケーション能力 倫理観と責任感を持ち、コミュニケーション能力と協働性を有し、多様な問題に臨む社会人としての態度を身につけている。	—
DPとの関連	○	◎	○	
※関連するDP番号に○(複数可)、最も関連部会DP番号は◎(1か所のみ)				

授業計画		担当者
第1回	オリエンテーション1(自己紹介、施設の概要、感染予防等について)	実習指導者
第2回	オリエンテーション2(オリエンテーションの情報を記録する)	実習指導者
第3回	日課表沿った業務の進め方・内容を把握する	実習指導者
第4回	実習記録1(実習目標及び計画を記録する)	実習指導者
第5回	実習記録2(一日の目標と計画を指導者に報告し助言を受ける)	実習指導者
第6回	実習記録3(実習内容及び評価・考察についてまとめ記録する)	実習指導者
第7回	介護の実際(指導者の助言のもと生活支援技術を用いながらの実習する)	実習指導者
第8回	介護の実際(施設での業務にそって介護を実践する)	実習指導者
第9回	介護の実践(施設での個別ケアの実践を実践する)	実習指導者
第10回	介護過程の展開(受け持ちの利用者を観察する)	実習指導者
第11回	介護過程の展開(観察した結果をまとめる)	実習指導者
第12回	介護過程の展開(情報の解釈・関連づけ・統合化を行う)	実習指導者
第13回	介護過程の展開(情報を整理し、課題を明らかにする)	実習指導者
第14回	介護過程の展開(実習指導者と課題や利用者の理解について検討をする)	実習指導者
第15回	総括(実習の振り返り)	実習指導者

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ ICT教育等を府k無
	○			○	

担当教員の実務経験と授業の関連	介護福祉士、看護師、社会福祉士等の実務経験を活かし、実習について教授する			
事前学習	施設でのオリエンテーションを受ける前に、施設の概要を調査し、用紙にまとめる			学習合計時間(h) 30
事後学習	実習後に全員で反省会を開催し、意見交換で出てきた内容を代表者がまとめて各自に配布する			学習合計時間(h) 30
課題に対するフィードバックの方法	実習で発見した課題については、次回の実習に活かせるよう全体の反省会時にフィードバックする。			
質問・相談方法	実習期間中は実習指導者、施設職員に尋ねる。教員の巡回指導時にも質問できるようにしている。			
オフィスアワー	浜崎：木曜日 14：50～16：20 研究室(西館315号室)久留須：木曜日 14：50～16：20 研究室(西館314号室)中森：木曜日 13：00～16：30 研究室(西館316号室)			

テキスト	『最新・介護福祉士養成講座 10「介護総合演習・介護実習」』第2版 介護福祉士養成講座編集委員会編 中央法規出版 2022年 2, 420円(税込) ISBN 978-4-8058-8399-0
参考文献等	介護実習要項(令和7年度入学生用)
成績評価基準	到達目標に掲げた項目に達すること。
成績評価の方法	実習中の提出物や実習態度及び施設からの実習評価(100%)により総合的に評価する。
G P A 基準	原則1.0
備考	COC関連科目

科目名	発達を理解		科目ナンバー	S11108
担当者	篠原 美穂			
科目	—			
施工規則に定める科目区分 または事項等	—			
授業形式	講義			
配当年次	1	科目群	専門科目 [こころとからだのしくみ]	
開講期	前期	卒業の選択・必修	必修	
単位数	2	担当形態	単独	
免許・資格情報	必修：介護福祉士、介護保険実務士 選択必修(▲4単位)：ピアヘルパー認定試験受験資格			

授業の概要	この科目は、被介護者に対するより良い介護を提供するための基礎的知識として、「発達」及び「老化」について講義をする。老化による心理や身体機能の変化といった基本的な知識を説明し、人が「老化」に適応していくことを如何に支援していくかということについて概説する。			
授業の到達目標	1.発達という概念を理解し、他者に説明できる2.老化による心理・身体機能の変化について理解し、他者に説明できる3.高齢期の発達を支える援助について考えることができる			
ディプロマポリシー (DP)	1 専門的知識・技能 介護福祉及び医療・介護事務に関する実践的かつ体系的な専門的知識と技能を修得している。	2 主体的・創造的な課題解決能力 修得した専門的知識と技能を活かして、地域社会の実態を踏まえ、主体的・創造的に貢献する能力と意識をもっている。	3 人間関係形成力とコミュニケーション能力 倫理観と責任感を持ち、コミュニケーション能力と協働性を有し、多様な問題に臨む社会人としての態度を身につけている。	—
DPとの関連	○			
※関連するDP番号に○（複数可）、最も関連部会DP番号は◎（1か所のみ）				

授業計画		担当者
第1回	オリエンテーション／成長・発達とは	篠原
第2回	発達段階と発達課題	篠原
第3回	発達理論	篠原
第4回	身体的機能の成長と発達	篠原
第5回	心理的機能の発達	篠原
第6回	社会的機能の発達	篠原
第7回	発達段階別の特徴的な疾病や障害	篠原
第8回	老化とは	篠原
第9回	老年期の発達課題	篠原
第10回	老化に伴う心身の変化の特徴	篠原
第11回	老化に伴う心理的機能の変化と生活への影響	篠原
第12回	高齢者の健康・健康長寿	篠原
第13回	高齢者に多い精神疾患	篠原
第14回	老年期をめぐる今日的課題	篠原
第15回	総括	篠原

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ ICT教育等を府k無
	○	○			
担当教員の実務経験と授業の関連	医療機関および福祉施設での臨床心理士としての実務経験を活かし、老化や障害を抱えて生きている方の支援の基礎となる知識や考え方について授業を行う。				
事前学習	意味のわからない用語は辞書等で調べておく。			学習合計時間(h)	30
事後学習	配布された資料をレジュメと照合しながら整理する。			学習合計時間(h)	30
課題に対するフィードバックの方法	課題を課した場合(定期試験を含む)求めに応じて個別に対応する。				
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワー、また毎授業で実施する質問・感想記入シートへの回答で対応する。				
オフィスアワー	木曜日 12:30～14:20 研究室(西館304号室)				
テキスト	『発達と老化の理解 第2版』介護福祉士養成講座編集委員会(編集)中央法規 2021年 2,200円(税別)(ISBN978-4-8058-8401-0)				
参考文献等	特になし				
成績評価基準	発達という概念及び老化による心理・身体機能の変化について理解し、高齢期の発達を支える援助について考えることができること。				
成績評価の方法	定期試験(80%)、授業中のレポート課題および授業への参加態度(20%)で総合的に判定する。ただし、定期試験および追再試験はレポートで代替する場合がある。				
GPA基準					
備考	単位互換 [KRICE] 提供科目、他学科開放科目				

科目名	老化の理解		科目ナンバー	S11109
担当者	竹中 正巳			
科目	—			
施工規則に定める科目区分 または事項等	—			
授業形式	講義			
配当年次	1	科目群	専門科目 [こころとからだのしくみ]	
開講期	前期	卒業の選択・必修	必修	
単位数	2	担当形態	単独	
免許・資格情報	必修：介護福祉士			

授業の概要	老化を理解し、老化に伴う心理的变化や、身体機能の変化及びその特徴に関する基礎的知識を習得する。老化に伴う心理的、身体的変化と日常生活への影響を踏まえたうえで、残存機能を活用した介護と、利用者の心身の状況に応じたコミュニケーション技術の深化を図る。			
授業の到達目標	1. 老化に伴う身体的変化と特徴を理解し、実践に備える 2. 老化に伴う心理的变化と、日常生活への影響を理解する 3. 高齢者の多い疾病と、介護の留意点を習得する			
ディプロマポリシー (DP)	1 専門的知識・技能 介護福祉及び医療・介護事務に関する実践的かつ体系的な専門的知識と技能を修得している。	2 主体的・創造的な課題解決能力 修得した専門的知識と技能を活かして、地域社会の実態を踏まえ、主体的・創造的に貢献する能力と意識をもっている。	3 人間関係形成力とコミュニケーション能力 倫理観と責任感を持ち、コミュニケーション能力と協働性を有し、多様な問題に臨む社会人としての態度を身につけている。	—
DPとの関連	◎		○	
※関連するDP番号に○（複数可）、最も関連部会DP番号は◎（1か所のみ）				

授業計画		担当者
第1回	老化に伴う心身の変化の特徴	竹中
第2回	視覚障害に応じた介護	竹中
第3回	聴覚・言語障害に応じた介護	竹中
第4回	内部障害(心臓機能障害)に応じた介護	竹中
第5回	内部障害(呼吸器障害)に応じた介護	竹中
第6回	内部障害(腎臓・膀胱機能障害)に応じた介護	竹中
第7回	免疫機能と感覚機能	竹中
第8回	咀嚼機能、嚥下機能の変化	竹中
第9回	運動中枢神経、骨・関節の変化	竹中
第10回	高次脳機能障害に応じた介護	竹中
第11回	心の問題と精神障害	竹中
第12回	老化に伴う知的機能の変化、知的障害に応じた介護	竹中
第13回	生活習慣病	竹中
第14回	高齢者に多い疾病	竹中
第15回	認知症の人への介護	竹中

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ ICT教育等を府k無
	○				○

担当教員の実務経験と授業の関連			
事前学習	テキストをよく読んで講義に臨む	学習合計時間(h)	30
事後学習	講義後はテキストの章末や節末にある演習問題を解いて、理解度を確かめる	学習合計時間(h)	30
課題に対するフィードバックの方法	課題を課した場合、受講者の求めに応じて個別に対応する。		
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワーで対応する。		
オフィスアワー	木曜日 12:10～12:50 研究室(本館502号室)		

テキスト	『発達と老化の理解』 介護福祉士養成講座編集委員会編集 中央法規出版 2019年 2,200円 (ISBN-13: 978-4805857724)
参考文献等	『介護福祉用語辞典』 中央法規出版 2017年 2,600円 (ISBN-13: 978-4805850947)
成績評価基準	老化を理解し、老化に伴う心理的变化や身体機能の変化に関する基礎的知識が修得されたと確認できた場合、合格とする。
成績評価の方法	筆記試験(100%)(状況に応じ、評価方法をレポートで代替する場合がある)
GPA基準	
備考	

科目名	認知症の理解Ⅰ		科目ナンバー	S11207
担当者	林田 貴久			
科目	—			
施工規則に定める科目区分 または事項等	—			
授業形式	講義			
配当年次	1	科目群	専門科目 [こころとからだのしくみ]	
開講期	後期	卒業の選択・必修	必修	
単位数	2	担当形態	単独	
免許・資格情報	必修：介護福祉士			

授業の概要	認知症の人に対して適切なケアを行うにはその医学的知識、介護知識が必要である。本講では介護福祉士の視点から認知症の医学的知識及び認知症の人とその家族の介護支援のあり方や地域での認知症支援システムについても解説する。			
授業の到達目標	1.認知症の医学的知識についても理解を深めることができる2.認知症介護を理解し家族支援のあり方を考えることができる			
ディプロマポリシー (DP)	1 専門的知識・技能 介護福祉及び医療・介護事務に関する実践的かつ体系的な専門的知識と技能を修得している。	2 主体的・創造的な課題解決能力 修得した専門的知識と技能を活かして、地域社会の実態を踏まえ、主体的・創造的に貢献する能力と意識をもっている。	3 人間関係形成力とコミュニケーション能力 倫理観と責任感を持ち、コミュニケーション能力と協働性を有し、多様な問題に臨む社会人としての態度を身につけている。	—
DPとの関連	○	○	◎	
※関連するDP番号に○（複数可）、最も関連部会DP番号は◎（1か所のみ）				

授業計画			担当者
第1回	認知症ケアの歴史		林田
第2回	にん		認知症とは何か 脳の
第3回	認知症の人の心理	認知症の人の症状・診断・治療・予防	林田
第4回	生活障害の理解	BPSDの理解	林田
第5回	認知症の診断と重症度	認知症の原因疾患と症状・生活障害	林田
第6回	認知症の治療薬	認知症の予防	林田
第7回	認知症ケアの理念と視点		林田
第8回	認知症ケアの実践	パーソンセンタードケア	林田
第9回	認知症の人とのコミュニケーション		林田
第10回	認知症の人への様々なアプローチ		林田
第11回	終末期医療と介護		林田
第12回	環境づくり		林田
第13回	介護者支援		林田
第14回	地域包括ケアシステムにおける認知症ケア		林田
第15回	他職種協働と連携		林田

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ ICT教育等を府k無
	○	○			

担当教員の実務経験と授業の関連	実際に介護の事業所を複数統括している経験を活かし、認知症の人の視点に立った理解について教授する。		
事前学習	授業の予習(不明な点について、質問する) 次回の学習準備として、テキストを読み込んで参加する。	学習合計時間(h)	30
事後学習	授業の復習(授業中のポイントの書き取り)	学習合計時間(h)	30
課題に対するフィードバックの方法	求めに応じて個別に対応する。授業最後に確認テストを実施し、理解度を把握する。		
質問・相談方法	授業の前後やオフィシアワーで対応する。		
オフィシアワー	金曜日 講義終了後 10:30~10:40 講義室(西館203号室)		

テキスト	『「認知症の理解」新介護福祉士養成講座』 中央法規 2019年 2,200円(税抜き) (ISBN:978-4-8058-5309-2)		
参考文献等	特になし		
成績評価基準	認知症について理解し、その介護や家庭支援を理解できること。最終試験で90%以上、授業出席率9割で総合判断する。		
成績評価の方法	定期試験(90%) 受講態度(10%)		
GPA基準			
備考			

科目名	障害の理解Ⅰ			科目ナンバー	S11208
担当者	有村 裕二、成元 恵美				
科目	—				
施工規則に定める科目区分 または事項等	—				
授業形式	講義				
配当年次	1	科目群	専門科目 [こころとからだのしくみ]		
開講期	後期	卒業の選択・必修	必修		
単位数	2	担当形態	複数		
免許・資格情報	必修：介護福祉士				

授業の概要	障害者の思いや生活実態を踏まえながら、障害の概念及び障害者の福祉の基本理念について解説する。また、身体面に障害のある人の医学的・心理的特徴と生活支援(生活の理解・介護上の留意点)について解説する。			
授業の到達目標	1. 障害者支援に求められる基本的な考え方・概念を説明することができる。2. 身体面に障害のある人の特徴を理解し、適切な生活支援の在り方を考えることができる。			
ディプロマポリシー(DP)	1 専門的知識・技能 介護福祉及び医療・介護事務に関する実践的かつ体系的な専門的知識と技能を修得している。	2 主体的・創造的な課題解決能力 修得した専門的知識と技能を活かして、地域社会の実態を踏まえ、主体的・創造的に貢献する能力と意識をもっている。	3 人間関係形成力とコミュニケーション能力 倫理観と責任感を持ち、コミュニケーション能力と協働性を有し、多様な問題に臨む社会人としての態度を身につけている。	—
DPとの関連				
※関連するDP番号に○(複数可)、最も関連部会DP番号は◎(1か所のみ)				

授業計画		担当者
第1回	オリエンテーション(科目の意義と目的・ねらい)	有村成元
第2回	障害の概念と障害者の実態	有村成元
第3回	視覚障害のある人の生活：視覚障害者の特徴	有村成元
第4回	聴覚・言語障害のある人の生活：聴覚・言語障害の特徴	有村成元
第5回	肢体不自由(運動機能障害)のある人の生活：肢体不自由(運動機能障害)の特徴	有村成元
第6回	内部障害のある人の生活：心臓機能障害の特徴と生活支援	有村成元
第7回	内部障害のある人の生活：心臓機能障害の特徴と生活支援	有村成元
第8回	内部障害のある人の生活：心臓機能障害の特徴と生活支援	有村成元
第9回	重症心身障害の理解と特性に応じた支援	有村成元
第10回	知的・精神障害の理解と特性に応じた支援	有村成元
第11回	高次脳機能障害の理解と特性に応じた支援	有村成元
第12回	発達障害の理解と特性に応じた支援	有村成元
第13回	難病の理解と特徴に応じた支援	有村成元
第14回	地域のサポート体制・チームアプローチ	有村成元
第15回	授業のまとめ：振り返り学習の中で障害のある方の支援について考える	有村成元

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ ICT教育等を府k無
	◎	○		○	
担当教員の実務経験と授業の関連					
事前学習	授業の予習及び復習(教科書における該当ページの読み込みと整理)			学習合計時間(h)	30
事後学習	講義で学んだ障害について、メディア等を用いて情報整理する。			学習合計時間(h)	30
課題に対するフィードバックの方法	講義で用いた資料、教科書の該当ページの読み込み				
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワー等に口頭・質問票(書式なし)により対応				
オフィスアワー					
テキスト	『障害の理解 最新介護福祉士養成講座』中央法規 2019年 2200円 (ISBN: 978-4-8058-5774-8)『生活支援技術Ⅲ 最新介護福祉士養成講座』中央法規 2019年 2200円 (ISBN: 978-4-8058-5768-7)				
参考文献等	特になし				
成績評価基準	定期試験において、到達目標に掲げた項目について6割以上理解できたと確認できた場合を合格とする。				
成績評価の方法	定期試験(80%) 受講態度(20%)				
GPA基準					
備考					

科目名	こころとからだのしくみ（医学）		科目ナンバー	S11206
担当者	竹中 正巳、河野 史代、中野 静雄			
科目	—			
施工規則に定める科目区分 または事項等	—			
授業形式	講義			
配当年次	1	科目群	専門科目 [こころとからだのしくみ]	
開講期	後期	卒業の選択・必修	必修	
単位数	2	担当形態	オムニバス	
免許・資格情報	必修：介護福祉士、医事実務士 選択必修：介護保険実務士			

授業の概要	こころとからだのしくみや疾患について学び、サービス提供上の安全や尊厳の保持について明らかにする。			
授業の到達目標	1. 基本的なからだのしくみを理解できる。2. 高齢者のこころとからだの状態を理解できる。3. サービス提供上重要な疾患についての知識を習得することができる。			
ディプロマポリシー (DP)	1 専門的知識・技能 介護福祉及び医療・介護事務に関する実践的かつ体系的な専門的知識と技能を修得している。	2 主体的・創造的な課題解決能力 修得した専門的知識と技能を活かして、地域社会の実態を踏まえ、主体的・創造的に貢献する能力と意識をもっている。	3 人間関係形成力とコミュニケーション能力 倫理観と責任感を持ち、コミュニケーション能力と協働性を有し、多様な問題に臨む社会人としての態度を身につけている。	—
DPとの関連	◎	○	○	
※関連するDP番号に○（複数可）、最も関連部会DP番号は◎（1か所のみ）				

授業計画			担当者
第1回	からだのしくみの理解(恒常性 細胞 遺伝 など)		河野
第2回	からだのしくみの理解(脳神経系 感覚器 運動器など)		河野
第3回	からだのしくみの理解(呼吸器 循環器 など)		河野
第4回	からだのしくみの理解(消化器 泌尿器 生殖器など)		中野
第5回	からだのしくみの理解(内分泌器など)		中野
第6回	生活習慣病について学ぶ		河野
第7回	脳血管疾患について学ぶ		河野
第8回	心疾患について学ぶ		河野
第9回	悪性新生物について学ぶ		河野
第10回	消化器、泌尿器、内分泌疾患について学ぶ		中野
第11回	呼吸器疾患について学ぶ		河野
第12回	口腔衛生について学ぶ		竹中
第13回	歯科、口腔疾患について学ぶ		竹中
第14回	整形外科疾患について学ぶ		河野
第15回	高齢者の健康について学ぶ		河野

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ ICT教育等を府k無
	○	○			

担当教員の実務経験と授業の関連	臨床医としての実務経験を活かして、体のしくみや疾患治療の実際について教授する。(河野・中野)		
事前学習	テキストによる予習(タイトルなどから、関連のある介護場面について考える	学習合計時間(h)	30
事後学習	テキスト、配布資料による復習(重要ポイントを再確認し、曖昧な点について調べる	学習合計時間(h)	30
課題に対するフィードバックの方法	試験結果について個別に指導。クイズ形式で理解度を確認する。		
質問・相談方法	授業の前後やオフィシアワー等で対応する。		
オフィシアワー	河野：火曜日 16:10～16:20 (西館203号室)竹中：木曜日 12:10～12:50 (本館502号室)中野：木曜日 17:55～18:05 (西館203号室)		

テキスト	『最新・介護福祉士養成講座⑪こころとからだのしくみ 第2版』介護福祉士養成講座編集委員会編集 中央法規出版 2022年 2,600円(税抜き)(ISBN: 978-4-8058-8400-3)『最新・介護福祉士養成講座⑫発達と老化の理解 第2版』介護福祉士養成講座編集委員会編集委員会 中央法規出版		
参考文献等	特になし		
成績評価基準	こころとからだのしくみや疾患、サービス提供上の安全や尊厳の保持について理解できる。		
成績評価の方法	定期試験(100%)(状況に応じ、評価方法をレポートで代替する場合がある)		
GPA基準			
備考			

科目名	こころとからだのしくみ（生活支援）			科目ナンバー	S11107
担当者	浜崎 真美				
科目	—				
施工規則に定める科目区分 または事項等	—				
授業形式	講義				
配当年次	1	科目群	専門科目 [こころとからだのしくみ]		
開講期	前期	卒業の選択・必修	必修		
単位数	2	担当形態	単独		
免許・資格情報	必修：介護福祉士				

授業の概要	介護を必要とする人の生活支援を行うために、介護実践の根拠となる人間の心理、人体の構造や機能を理解する学習である。本科目では、利用者の身じたくや食事、排泄などの生活を支える介護実践との関係を中心に学ぶことができるように、生活支援の場面に応じたこころとからだのしくみ及び機能低下や障害が生活に及ぼす影響を理解できるように講義する。			
授業の到達目標	1. 生活支援の場面に応じたこころとからだのしくみを踏まえ、心身の機能低下や障害が生活に及ぼす影響に関する基礎的なことが理解できる			
ディプロマポリシー (DP)	1 専門的知識・技能 介護福祉及び医療・介護事務に関する実践的かつ体系的な専門的知識と技能を修得している。	2 主体的・創造的な課題解決能力 修得した専門的知識と技能を活かして、地域社会の実態を踏まえ、主体的・創造的に貢献する能力と意識をもっている。	3 人間関係形成力とコミュニケーション能力 倫理観と責任感を持ち、コミュニケーション能力と協働性を有し、多様な問題に臨む社会人としての態度を身につけている。	—
DPとの関連	○			
※関連するDP番号に○（複数可）、最も関連部会DP番号は◎（1か所のみ）				

授業計画		担当者
第1回	オリエンテーション／移動のしくみ	浜崎
第2回	心身の機能低下が移動に及ぼす影響	浜崎
第3回	移動に関する変化の気づきと対応	浜崎
第4回	身じたくのしくみ心身の機能低下が身じたくに及ぼす影響	浜崎
第5回	身じたくに関連した変化への気づきと対応	浜崎
第6回	食事のしくみ	浜崎
第7回	心身の機能低下が食事に及ぼす影響	浜崎
第8回	食事に関連した変化への気づきと対応	浜崎
第9回	入浴・清潔保持のしくみ心身の機能低下が入浴・清潔保持に及ぼす影響	浜崎
第10回	入浴・清潔保持に関連した変化への気づきと対応	浜崎
第11回	排泄のしくみ	浜崎
第12回	心身の機能低下が排泄に及ぼす影響	浜崎
第13回	排泄に関連した変化への気づきと対応	浜崎
第14回	休息・睡眠のしくみ心身の機能低下が休息・睡眠に及ぼす影響	浜崎
第15回	休息・睡眠に関連した変化に気づくためのポイント	浜崎

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ ICT教育等を府k無
		○			

担当教員の実務経験と授業の関連	看護師としての実務経験に基づき、実践例を交えながら授業をおこなう。人体の構造や疾患に関連する障害の理解については、要点をおさえながら進めるとともに、加齢や疾患による障害が日常生活へどのように影響するかもイメージできるように工夫している。観察や支援方法なども実践例を示し、介護の実践に活かせるよう教授する。				
事前学習	・講義予定範囲の内容について、テキストを中心に予習すること			学習合計時間(h)	30
事後学習	・授業内容について、不明な点は調べ、必要に応じて質問をすること			学習合計時間(h)	30
課題に対するフィードバックの方法	課題を課した場合、求めに応じて個別に対応する。				
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワー等に対応する。				
オフィスアワー	水曜日 9:00～12:30 研究室(西館315号室)				

テキスト	『最新・介護福祉士養成講座 ところとからだのしくみ第2版』 介護福祉士養成講座編集委員会編集 中央法規 2022年 2600円 (ISBN978-4-8058-8400-3) 『七訂 介護福祉用語辞典』 中央法規出版編集部編 中央法規 2015年 2600円 (ISBN978-4-8058-5094-7)				
参考文献等	『ところとからだのしくみ』 メヂカルフレンド社 2009年 2800円 (ISEN: 978-4-8392-3152-1)				
成績評価基準	生活支援を行う際に必要となる基礎的な知識として、生活支援の場面に応じたところとからだのしくみ及び機能低下や障害が生活に及ぼす影響について理解すること。				
成績評価の方法	レポート課題(20%)、期末試験(80%)で総合的に判定する。状況によりレポートで代替する場合がある。				
GPA基準					
備考					

科目名	医療的ケア		科目ナンバー	S11110
担当者	池田 加奈子			
科目	—			
施工規則に定める科目区分 または事項等	—			
授業形式	講義			
配当年次	1	科目群	専門科目 [医療的ケア]	
開講期	前期	卒業の選択・必修	選択	
単位数	2	担当形態	単独	
免許・資格情報	必修：介護福祉士			

授業の概要	医療的ケアを安全・適切に実施するために必要な知識・技術を習得できるように講義する。具体的には、医療的ケアの位置づけ、医療行為とは何かを理解し、医療行為を行うために知っておくべき医学上の倫理、基礎知識や技術などについて学習する。その後、実際の医療的ケアについて学習し、経管栄養と喀痰吸引について理解を深めることができるように進めていく。また、医療の現場では利用者あるいは患者の状態が急変することが起こり得るため、救急蘇生についても学習する。さらに、チーム医療と介護職員との連携についても学習する。			
授業の到達目標	1. 医の倫理について説明ができる2. 保健医療システムと介護職との連携について説明ができる3. 医療的ケアの安全な実施について説明ができる			
ディプロマポリシー (DP)	1 専門的知識・技能 介護福祉及び医療・介護事務に関する実践的かつ体系的な専門的知識と技能を修得している。	2 主体的・創造的な課題解決能力 修得した専門的知識と技能を活かし、地域社会の実態を踏まえ、主体的・創造的に貢献する能力と意識をもっている。	3 人間関係形成力とコミュニケーション能力 倫理観と責任感を持ち、コミュニケーション能力と協働性を有し、多様な問題に臨む社会人としての態度を身につけている。	—
DPとの関連				
※関連するDP番号に○（複数可）、最も関連部会DP番号は◎（1か所のみ）				

授業計画		担当者
第1回	オリエンテーション／医療的ケアの位置づけ	池田
第2回	保健医療に関する制度、医行為に関連する法律	池田
第3回	チーム医療と介護職員との連携、医療の倫理	池田
第4回	個人の尊厳と自立、利用者や家族の気持ちへの理解	池田
第5回	感染予防、職員の感染予防、療養環境の清潔、消毒法	池田
第6回	滅菌と消毒について	池田
第7回	喀痰吸引や経管栄養の安全な実施1 喀痰吸引について	池田
第8回	喀痰吸引や経管栄養の安全な実施2 経管栄養について	池田
第9回	喀痰吸引や経管栄養の安全な実施3 まとめ	池田
第10回	救急蘇生法について	池田
第11回	心肺蘇生法の実習	池田
第12回	身体・精神の健康(平常状態について)	池田
第13回	健康状態を知る1 健康状態について	池田
第14回	健康状態を知る2 バイタルサインについて	池田
第15回	急変状態について	池田

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ ICT教育等を府k無
	○	○		○	

担当教員の実務経験と授業の関連				
事前学習	・ 次回の授業範囲をテキストを中心に予習する。			学習合計時間(h) 30
事後学習	・ 授業で学習した内容について、テキストや関連資料で復習をする。			学習合計時間(h) 30
課題に対するフィードバックの方法	課題を課した場合、求めに応じて個別に対応する。			
質問・相談方法	授業の前後で対応する。			
オフィスアワー	木曜日 14:25～14:40 講義室(本館309号室)			

テキスト	『最新・介護福祉士養成講座15 医療的ケア』第2版 介護福祉士養成講座編集委員会編集 中央法規 2022年 2600円 (ISBN: 978-4-8058-8404-1)
参考文献等	『介護職員のための今すぐ知りたい医療行為実技ガイド』 服部万里子著 ひかりのくに 2090円 (ISBN10: 4564430580)
成績評価基準	医療的ケアに関する背景を理解し、安全な実施につながる基本的なことを理解すること。
成績評価の方法	途中の小テスト(20%)、期末試験(80%)で総合的に判定する。
GPA基準	
備考	医療的ケアに関する科目は、基本的に、「医療的ケア」「経管栄養」「喀痰吸引」を履修し単位を修得した上でなければ、演習科目である「経管栄養演習」及び「喀痰吸引演習」を履修することはできない。

科目名	経管栄養		科目ナンバー	S11209
担当者	浜崎 真美			
科目	—			
施工規則に定める科目区分 または事項等	—			
授業形式	講義			
配当年次	1	科目群	専門科目 [医療的ケア]	
開講期	後期	卒業の選択・必修	選択	
単位数	2	担当形態	単独	
免許・資格情報	必修：介護福祉士			

授業の概要	医療的ケアを安全・適切に実施するために必要な知識・技術を習得できるように講義する。この科目では医療的ケアの中の経管栄養を中心とし、消化器系の理解や経管栄養のしくみ、必要な援助方法、報告・記録の必要性等を説明できることを目指し進める。医療的ケアに関する科目は、「医療的ケア」「経管栄養」「喀痰吸引」を履修し単位を修得することで、演習科目である「経管栄養演習」及び「喀痰吸引演習」を履修することを基本とし進めていく。			
授業の到達目標	1. 消化器系の役割・機能について説明ができる2. 経管栄養のしくみ、注入内容、安全な実施に関する説明ができる3. 説明と同意の必要性、報告・記録の重要性について説明ができる			
ディプロマポリシー(DP)	1 専門的知識・技能 介護福祉及び医療・介護事務に関する実践的かつ体系的な専門的知識と技能を修得している。	2 主体的・創造的な課題解決能力 修得した専門的知識と技能を活かして、地域社会の実態を踏まえ、主体的・創造的に貢献する能力と意識をもっている。	3 人間関係形成力とコミュニケーション能力 倫理観と責任感を持ち、コミュニケーション能力と協働性を有し、多様な問題に臨む社会人としての態度を身につけている。	—
DPとの関連	○			
※関連するDP番号に○（複数可）、最も関連部会DP番号は◎（1か所のみ）				

授業計画			担当者
第1回	オリエンテーション／消化器系のしくみとはたらき		浜崎
第2回	消化と吸収とよくある消化器の症状		浜崎
第3回	経管栄養とは何か		浜崎
第4回	注入する内容に関する知識		浜崎
第5回	経管栄養実施上の留意点		浜崎
第6回	子供の経管栄養について		浜崎
第7回	経管栄養に関係する感染と予防、手洗いの実施		浜崎
第8回	経管栄養を受ける際の説明と同意、危険・安全管理について		浜崎
第9回	急変・事故発生時の対応と事前対策		浜崎
第10回	器具器材のしくみ、清潔保持、物品の準備や設備について		浜崎
第11回	利用者の状態観察と留意点、実施前の利用者の準備		浜崎
第12回	実施手順と留意点、実施中の身体変化の確認及び報告		浜崎
第13回	実施後の手順と留意点、変化の確認及び報告、片付け		浜崎
第14回	経管栄養に必要なケア		浜崎
第15回	報告及び記録について		浜崎

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ ICT教育等を府k無
		○			

担当教員の実務経験と授業の関連	看護師としての実務経験に基づき、要点を押さえながら学生が理解しやすいよう授業を行う。			
事前学習	・各回の授業内容について、次回までの間に復習し不明な点は調べること。			学習合計時間(h) 30
事後学習	・授業中に実施する小テストの内容は、分かるまで調べること。			学習合計時間(h) 30
課題に対するフィードバックの方法	課題を課した場合、求めに応じて個別に対応する			
質問・相談方法	授業の前後やオフィスパワー等で対応する			
オフィスパワー	木曜日 12:10～14:30 研究室(西館315号室)			

テキスト	『最新・介護福祉士養成講座 医療的ケア第2版』 介護福祉士養成講座編集委員会編集 中央法規 2022年 2600円 (ISBN: 978-4-8058-8404-1)			
参考文献等	『改定 介護職員等による喀痰吸引・経管栄養研修テキスト』 一般社団法人全国訪問看護事業協会編集 中央法規 2017年 2000円 (ISBN: 978-4-8058-5250-7)			
成績評価基準	経管栄養のしくみが分かり、安全な実施について理解すること。			
成績評価の方法	途中の小テスト(20%)と期末試験(80%)で総合的に判定する。状況によりレポートで代替する場合がある。			
GPA基準				
備考	医療的ケアに関する科目は、講義科目を修了した上で演習を行うことができると示されている。よって、基本的に、「医療的ケア」「経管栄養」「喀痰吸引」を履修し単位を修得した上でなければ、演習科目である「経管栄養演習」及び「喀痰吸引演習」を履修することはできない。			

科目名	医療事務総論		科目ナンバー	S11210
担当者	毛利 美希			
科目	—			
施工規則に定める科目区分 または事項等	—			
授業形式	講義			
配当年次	1	科目群	専門科目 [医事実務士]	
開講期	後期	卒業の選択・必修	選択	
単位数	2	担当形態	単独	
免許・資格情報	選択：介護福祉士 必修：医事実務士			

授業の概要	少子、高齢化社会へ急速に移行しているわが国において、医療を取り巻く社会環境は大きく変わりつつある。このような中、病院が患者のためのより質の高い医療提供や社会的責務を果たせるよう、医療事務の職務とそれに関わる病院医療、社会保障や社会保険制度について講義を行う。			
授業の到達目標	1. 医療の基本的な理解と医療事務全般にわたる基礎知識を身につけ、説明できるようになる 2. 医療事務に関する諸規則についての知識を習得し、説明できるようになる 3. 医療知識を身につけ、診療録及び病院の業務の流れを理解し、それらを説明できるようになる			
ディプロマポリシー (DP)	1 専門的知識・技能 介護福祉及び医療・介護事務に関する実践的かつ体系的な専門的知識と技能を修得している。	2 主体的・創造的な課題解決能力 修得した専門的知識と技能を活かして、地域社会の実態を踏まえ、主体的・創造的に貢献する能力と意識をもっている。	3 人間関係形成力とコミュニケーション能力 倫理観と責任感を持ち、コミュニケーション能力と協働性を有し、多様な問題に臨む社会人としての態度を身につけている。	—
DPとの関連				
※関連するDP番号に○（複数可）、最も関連部会DP番号は◎（1か所のみ）				

授業計画		担当者
第1回	医療事務総論の必要性と医療事務の特性	毛利
第2回	医療保険制度の概要	毛利
第3回	医療保障・医療制度・後期高齢者医療の解説	毛利
第4回	保険給付の概要	毛利
第5回	公費負担医療制度	毛利
第6回	保健医療機関と保険医について	毛利
第7回	医事関係法規	毛利
第8回	療養担当規則について	毛利
第9回	診療報酬請求と審査制度	毛利
第10回	介護保険制度の概要	毛利
第11回	医療施設の概要	毛利
第12回	医療事務職としての患者心理の理解と職場内の立場	毛利
第13回	医療事務職としての人間関係と接遇：服装と身だしなみと話し方	毛利
第14回	医療事務職としての接遇：患者様への温かい対応と受付、電話対応について	毛利
第15回	医療事務総論の総括	毛利

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ ICT教育等を府k無
		○			
担当教員の実務経験と授業の関連					
事前学習	前もって教科書に目を通しておくこと意味の分からない用語は事前に調べておく			学習合計時間(h)	30
事後学習	プリント配布資料による復習			学習合計時間(h)	30
課題に対するフィードバックの方法	課題を課した場合(定期試験を含む)求めに応じて個別に対応する。				
質問・相談方法	授業の前後やオフィシアワー等で対応する。				
オフィシアワー					
テキスト	『保険診療基本法令テキストブック』 社会保険研究所 2022年版 2200円(税抜き) (ISBN : 978-4-7894-0904-9 C3047)				
参考文献等	『医療事務総論/医療秘書実務』 日本医療福祉実務教育協会監修 建帛社 『最新・医療事務入門2022』 医学通信社				
成績評価基準	医療事務に関する基礎知識及び諸規則を習得、診療録や病院業務の流れを理解できたと確認された場合に合格とする。				
成績評価の方法	授業への参加態度(20%) 定期試験(80%)				
G P A 基準					
備考					

科目名	医療事務演習			科目ナンバー	S11211
担当者	竹添 芳典				
科目	専門科目〔医事実務士〕				
施工規則に定める科目区分または事項等	—				
授業形式	演習				
配当年次	カリキュラムにより異なります。			科目群	専門科目〔医事実務士〕
開講期	後期			卒業の選択・必修	選択
単位数	2			担当形態	単独
免許・資格情報	選択：介護福祉士 必修：医事実務士				

授業の概要	医療事務の職務を十分理解し、医療現場で実務をこなせるよう、特に診療報酬の仕組みと明細書作成、診療報酬点数の算定法および介護保険制度について説明を行う。そして、実際の明細書の作成や診療報酬点数の計算を行う。			
授業の到達目標	1. 診療行為における診療報酬算定要件を理解し、説明できるようになる 2. 診療報酬明細書の作成及び請求について理解し、実務がこなせるようになる 3. 医療費の仕組みを理解し、診療報酬点数の算定を行う技術を身につけ、実際の実務がこなせるようになる			
ディプロマポリシー (DP)	1 専門的知識・技能 介護福祉及び医療・介護事務に関する実践的かつ体系的な専門的知識と技能を修得している。	2 主体的・創造的な課題解決能力 修得した専門的知識と技能を活かして、地域社会の実態を踏まえ、主体的・創造的に貢献する能力と意識をもっている。	3 人間関係形成力とコミュニケーション能力 倫理観と責任感を持ち、コミュニケーション能力と協働性を有し、多様な問題に臨む社会人としての態度を身につけている。	—
DPとの関連	○			
※関連するDP番号に○（複数可）、最も関連部会DP番号は◎（1か所のみ）				

授業計画		担当者
第1回	診療報酬の仕組みと診療担当規則の概要および介護保険制度の概略	竹添
第2回	診療報酬明細書の記載と一般的事項	竹添
第3回	診療報酬基本診療料と点数算定	竹添
第4回	医科診療報酬点数の算定 1.基本診療料	竹添
第5回	医科診療報酬点数の算定 2.医学管理等・在宅医療料	竹添
第6回	医科診療報酬点数の算定 3.投薬料	竹添
第7回	医科診療報酬点数の算定 4.注射、処置料	竹添
第8回	医科診療報酬点数の算定 5.手術、麻酔料	竹添
第9回	医科診療報酬点数の算定 6.検査料	竹添
第10回	医科診療報酬点数の算定 7.画像診断、リハビリテーション料	竹添
第11回	医科診療報酬点数の算定 8.入院基本、特定入院料	竹添
第12回	医科診療報酬点数の算定 9.入院料の算定、レセプトの作成	竹添
第13回	医科診療報酬点数の算定10、まとめ	竹添
第14回	診療報酬明細書の総括と練習問題の解説	竹添
第15回	診療報酬の総括	竹添

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ ICT教育等を府k無
		○			
担当教員の実務経験と授業の関連					
事前学習	前もって教科書に目を通しておくこと。 意味の分からない用語は事前に調べておくこと。			学習合計時間(h)	30
事後学習	テキスト及び配布資料等による復習			学習合計時間(h)	30
課題に対するフィードバックの方法	課題を課した場合（定期試験を含む）求めに応じて個別に対応する。				
質問・相談方法	授業の前後やオフィシアワー等で対応する。				
オフィシアワー					
テキスト	『診療報酬の請求』 杉本恵申・佐藤麻菜 医学通信社 2022年版 2600円（税抜き）（ISBN:978-4-87058-687-1）				
参考文献等	『診療点数早見表』 医学通信社 2025年版 [医科]				
成績評価基準	医療事務に関する基礎知識及び諸規則を習得、診療録や病院業務の流れを理解できたと確認された場合に合格とする。				
成績評価の方法	授業への参加態度（20％） 定期試験（80％）				
G P A 基準					
備考					

科目名	情報機器演習		科目ナンバー	S11111
担当者	青木 俊介			
科目	—			
施工規則に定める科目区分 または事項等	—			
授業形式	演習			
配当年次	1	科目群	専門科目【関連科目】	
開講期	前期	卒業の選択・必修	選択	
単位数	2	担当形態	単独	
免許・資格情報	選択：介護福祉士 必修：介護保険実務士、医事実務士			

授業の概要	コンピュータとインターネットの役割を理解していることが当然の世の中になっている。さらに、携帯端末で音楽を楽しんだり、写真を撮ったり、コンピュータと連携し使用できる情報メディアも多様化し、急速に普及している。このような現在においてコンピュータを活用する基礎を固め、仕事や生活に情報機器を活用できることを目指す。			
授業の到達目標	1. I C T の基本的な操作技術を習得する2. インターネットを理解し活用できるようになる3. コンピュータを仕事や生活の道具として活用できるようになる			
ディプロマポリシー (DP)	1 専門的知識・技能 介護福祉及び医療・介護事務に関する実践的かつ体系的な専門的知識と技能を修得している。	2 主体的・創造的な課題解決能力 修得した専門的知識と技能を活かして、地域社会の実態を踏まえ、主体的・創造的に貢献する能力と意識をもっている。	3 人間関係形成力とコミュニケーション能力 倫理観と責任感を持ち、コミュニケーション能力と協働性を有し、多様な問題に臨む社会人としての態度を身につけている。	—
DPとの関連	○			
※関連するDP番号に○（複数可）、最も関連部会DP番号は◎（1か所のみ）				

授業計画		担当者
第1回	オリエンテーション～情報機器とは	青木
第2回	キーボード練習	青木
第3回	ブラウザを使おう～ネット検索のコツ	青木
第4回	電子メールを使おう	青木
第5回	Wordを使ってみよう(1)	青木
第6回	Wordを使ってみよう(2)	青木
第7回	Wordを使ってみよう(3)	青木
第8回	Excelを使ってみよう(1)	青木
第9回	Excelを使ってみよう(2)	青木
第10回	PowerPointを使ってみよう(1)	青木
第11回	PowerPointを使ってみよう(2)	青木
第12回	行事イベントポスターを作ろう	青木
第13回	オンライン会議を体験しよう	青木
第14回	情報セキュリティについて知ろう	青木
第15回	メディアリテラシー	青木

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ICT教育等を府k無
	○		○	○	○

担当教員の実務経験と授業の関連			
事前学習	・各回の内容について、これまでに身につけている知識や操作を確認し、必要に応じて事前に調べたり、練習したりしておく。	学習合計時間(h)	15
事後学習	・復習し、理解や操作の習得が十分でなかった場合、受講者相互で教え合ったり、教員へ質問したりする。・最終課題のために総復習をする。	学習合計時間(h)	15
課題に対するフィードバックの方法	・毎回の振り返りについてのフィードバックは、次の時間に全体で行う。個別に対応が必要な場合、授業支援ツールでの連絡やオフィスアワーを利用する。		
質問・相談方法	・授業の前後やオフィスアワー、授業支援ツールの連絡機能で対応する。		
オフィスアワー	水曜、木曜のお昼休み(12:20-13:15)		

テキスト	特になし
参考文献等	『30時間でマスター Office2021』 実教出版企画開発部 実教出版 2022年 1045円(税抜き) ISBN978-4-407-35937-4
成績評価基準	・ICTの基本的な技術を習得すること ・インターネットを理解し活用できること ・コンピュータを仕事や生活の道具として活用できること
成績評価の方法	授業内課題や提出物(100%)で総合的に判断する。
GPA基準	
備考	・課題は授業支援ツールを用いて提出すること(提出の仕方は授業で説明を行う)・コンピュータを持参する

科目名	レクリエーション活動援助法Ⅰ		科目ナンバー	S12101
担当者	福満 博隆			
科目	—			
施工規則に定める科目区分 または事項等	—			
授業形式	演習			
配当年次	1	科目群	専門科目 [関連科目]	
開講期	前期	卒業の選択・必修	選択	
単位数	1	担当形態	単独	
免許・資格情報	選択：介護福祉士 必修：レクリエーション・インストラクター			

授業の概要	レクリエーション活動の社会的意義や活動援助者としての役割を学ぶ一つとして、この授業ではレクリエーション種目(ニュースポーツ)の体験を通して、誰でも手軽にスポーツを楽しむことやコミュニケーション能力を高めることができるように、ニュースポーツの楽しみ方や技術の習得方法を学習する。また、レクリエーションスポーツ大会の企画や運営の演習を通して、活動援助能力の習得向上を図る。			
授業の到達目標	1.レクリエーション活動の社会的意義と役割について理解する。2.レクリエーションスポーツの体験を通してその特性を学び、楽しむことができるとともにコミュニケーション能力を高めることができる。3.スポーツ大会の企画と運営の方法を学び、仲間（他者）と協力して実施することができる。			
ディプロマポリシー(DP)	1 専門的知識・技能 介護福祉及び医療・介護事務に関する実践的かつ体系的な専門的知識と技能を修得している。	2 主体的・創造的な課題解決能力 修得した専門的知識と技能を活かして、地域社会の実態を踏まえ、主体的・創造的に貢献する能力と意識をもっている。	3 人間関係形成力とコミュニケーション能力 倫理観と責任感を持ち、コミュニケーション能力と協働性を有し、多様な問題に臨む社会人としての態度を身につけている。	—
DPとの関連		○	◎	
※関連するDP番号に○（複数可）、最も関連部会DP番号は◎（1か所のみ）				

授業計画			担当者
第1回	オリエンテーション：授業の進め方とレクリエーション活動の社会的意義についてニュースポーツの体験と指導法1（フライングディスク）		福満
第2回	レクリエーション種目としてのニュースポーツの意義についてニュースポーツの体験と指導法2（フライングディスク）		福満
第3回	ニュースポーツの体験と指導法3（スポレック）		福満
第4回	ニュースポーツの体験と指導法4（ティーボール）		福満
第5回	ニュースポーツの体験と指導法5（ベタンク）		福満
第6回	ニュースポーツの体験と指導法6（ラダーゲッター）		福満
第7回	地域におけるニュースポーツ大会の企画づくりの演習1（企画書作成）		福満
第8回	地域におけるニュースポーツ大会の企画づくりの演習2（ポスター作成）		福満
第9回	地域におけるニュースポーツ大会の運営実践と評価1（1班発表）		福満
第10回	地域におけるニュースポーツ大会の運営実践と評価2（2班発表）		福満
第11回	地域におけるニュースポーツ大会の運営実践と評価2（3班発表）		福満
第12回	楽しい健康づくり体操の実践と指導法について		福満
第13回	ネイチャーゲームの実践と指導法について		福満
第14回	野外活動体験の目的と意義について		福満
第15回	企画と運営の演習に対する振り返りとまとめ		福満

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ICT教育等を府k無
		○	○	○	
担当教員の実務経験と授業の関連					
事前学習	企画立案および運営演習のための打ち合わせや準備等の課題をグループで取り組む			学習合計時間(h)	7
事後学習	演習の振り返りをまとめる			学習合計時間(h)	8
課題に対するフィードバックの方法	求めに応じて個別に対応する。				
質問・相談方法	授業後やオフィスアワーで対応する。				
オフィスアワー	金曜日10:40～11:30[講義後]（体育館）				
テキスト	特になし				
参考文献等	『レクリエーション活動援助法(介護福祉士養成講座6)』 中央法規出版 2007年 (ISBN-13: 978-4805828328)				
成績評価基準	1.レクリエーション活動の社会的意義と役割について理解すること。2.レクリエーションスポーツの特性を理解して、楽しむこと。3.スポーツ大会の企画と運営を仲間（他者）と協力して実施できること。				
成績評価の方法	授業への参加態度(50%)スポーツ大会の企画運営の取組態度と成果(25%)学習内容の理解度を見るレポートの評価(25%)				
GPA基準					
備考					

科目名	レクリエーション活動援助法Ⅱ		科目ナンバー	S12201
担当者	福満 博隆			
科目	—			
施工規則に定める科目区分 または事項等	—			
授業形式	演習			
配当年次	1	科目群	専門科目 [関連科目]	
開講期	後期	卒業の選択・必修	選択	
単位数	1	担当形態	単独	
免許・資格情報	選択：介護福祉士 必修：レクリエーション・インストラクター			

授業の概要	レクリエーション活動の社会的意義や活動援助者としての役割を学ぶ一つとして、この授業では野外活動体験とゲーム指導演習を通して、仲間（他者）と協力しながら活動援助能力の向上を図る。1楽しいゲーム、ダンス、ソング、野外活動の体験をする。2ゲーム、ダンス、ソングの指導法を学び実践する3課題にグループで取り組み、コミュニケーション能力を高める。			
授業の到達目標	1.レクリエーション活動の社会的意義と役割について理解する。2.野外活動技術やゲーム指導技術を習得し、レクリエーション活動援助能力の向上を図る。3.グループ活動を通してコミュニケーション能力を高める。			
ディプロマポリシー(DP)	1 専門的知識・技能 介護福祉及び医療・介護事務に関する実践的かつ体系的な専門的知識と技能を修得している。	2 主体的・創造的な課題解決能力 修得した専門的知識と技能を活かして、地域社会の実態を踏まえ、主体的・創造的に貢献する能力と意識をもっている。	3 人間関係形成力とコミュニケーション能力 倫理観と責任感を持ち、コミュニケーション能力と協働性を有し、多様な問題に臨む社会人としての態度を身につけている。	—
DPとの関連		○	◎	
※関連するDP番号に○（複数可）、最も関連部会DP番号は◎（1か所のみ）				

授業計画			担当者
第1回	2泊3日の野外活動体験(集中講義)：仲間との協力して課題を解決する（テント設営ほか）		福満
第2回	2泊3日の野外活動体験(集中講義)：仲間との協力して課題を解決する（協力ゲーム・野外炊事ほか）		福満
第3回	2泊3日の野外活動体験(集中講義)：夜の自然に触れ新たな発見や気づきを得る		福満
第4回	2泊3日の野外活動体験(集中講義)：自然との触れ合いを深めて、五感を研ぎ澄ます		福満
第5回	2泊3日の野外活動体験(集中講義)：仲間と課題を成し遂げる喜びや達成感を味わう		福満
第6回	2泊3日の野外活動体験(集中講義)：自然物を使ったクラフト活動を楽しもう		福満
第7回	2泊3日の野外活動体験(集中講義)：自分の可能性を見つめ直す		福満
第8回	アイスブレイク(つどいの演出)の体験と指導法について		福満
第9回	アイスブレイク(つどいの演出)のゲーム、ダンス、ソングの指導法の練習1(グループ活動)		福満
第10回	アイスブレイク(つどいの演出)のゲーム、ダンス、ソングの指導演習と振り返り評価1（1回目の発表）		福満
第11回	アイスブレイク(つどいの演出)のゲーム、ダンス、ソングの指導法の練習2(グループ活動)		福満
第12回	アイスブレイク(つどいの演出)のゲーム、ダンス、ソングの指導演習と振り返り評価2（2回目の発表）		福満
第13回	アイスブレイク(つどいの演出)のゲーム、ダンス、ソングの指導法の練習3(グループ活動)		福満
第14回	アイスブレイク(つどいの演出)のゲーム、ダンス、ソングの指導演習と振り返り評価3（3回目の発表）		福満
第15回	グループワークに重点を置いたゲームの体験と指導法について		福満

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ ICT教育等を府k無
		○	○	○	
担当教員の実務経験と授業の関連					
事前学習	指導実践のための打ち合わせや練習等の課題をグループで取り組む			学習合計時間(h)	7
事後学習	演習の振り返りをまとめる			学習合計時間(h)	8
課題に対するフィードバックの方法	求めに応じて個別に対応する。				
質問・相談方法	授業後やオフィスアワーで対応する。				
オフィスアワー	金曜日10:00～10:50[講義前]（体育館）				
テキスト	特になし				
参考文献等	『レクリエーション活動援助法(介護福祉士養成講座6)』 中央法規出版 2007年 (ISBN-13: 978-4805828328)				
成績評価基準	1.レクリエーション活動の社会的意義と役割について理解すること。2.野外活動技術やゲーム指導技術を習得し、レクリエーション活動援助能力の向上を図ること。3.グループ活動を通してコミュニケーション能力を高める。				
成績評価の方法	授業への参加態度(50%)ゲーム指導技術の習得度(25%)学習内容の理解度を見るレポートの評価(25%)				
GPA基準					
備考					

專門科目

食物栄養学専攻

科目名	解剖生理学Ⅰ		科目ナンバー	S21101
担当者	奥田 龍一郎			
科目	—			
施工規則に定める科目区分 または事項等	—			
授業形式	講義			
配当年次	1	科目群	専門科目 [人体の構造と機能]	
開講期	前期	卒業の選択・必修	選択	
単位数	1	担当形態	単独	
免許・資格情報	必修：栄養士、栄養教諭			

授業の概要	栄養摂取を行う人体の構造と機能についての基礎知識を修得するために、人体の方向と位置を示す用語や人体の構成単位である細胞・組織・器官について説明する。細胞では、核・細胞質(細胞小器官と細胞骨格)・細胞膜について解説する。組織では、4大組織(上皮組織・結合組織・筋組織・神経組織)の特徴について説明する。この科目では器官系のうち皮膚・免疫系・神経系について講義する。免疫系では食物アレルギーについて触れる。神経系では、栄養摂取と関連する咀嚼筋(顎を動かす筋)や舌筋(舌を動かす筋)の神経支配、舌の触覚や味覚の神経伝導路、嗅覚(匂いの情報)の神経伝導路、食欲の脳内機構などについて解説する。			
授業の到達目標	・人体の方向と位置を示す用語を適切に用いることができる ・人体の構成単位である細胞・組織・器官について説明できる ・人体の皮膚・免疫系・神経系について説明できる			
ディプロマポリシー(DP)	1 食物・栄養に必要な専門性 健康の基盤となる食物と栄養に関する専門的な知識と技能を修得し、時代と社会の要請に応える力を有する。	2 課題解決能力 修得した食に関する知識と技能を活かし、地域や現代社会の食に関わる身近な課題を見出し、それを解決に導くために求められる能力を有する。	3 豊かな人間性 食に関する幅広い知識・興味・関心に基づき、人が健全な食生活を送るために、他者と目的を共有し、協働できるように自らを高めることができる。	—
DPとの関連	○			
※関連するDP番号に○(複数可)、最も関連部会DP番号は◎(1か所のみ)				

授業計画		担当者
第1回	人体の構造と区分、方向と位置を示す用語、人体の階層性、細胞の構造と機能 その1：構造の概観・核	奥田
第2回	細胞の構造と機能 その2：細胞質(細胞小器官と細胞骨格)・細胞膜、細胞の構造と機能 その3：細胞を構成する物質とエネルギーの生成	奥田
第3回	細胞の構造と機能 その4：細胞膜の輸送体・受容体・酵素、組織 その1：上皮組織・筋組織	奥田
第4回	組織 その2：結合組織、神経組織、体液とホメオスタシス	奥田
第5回	皮膚の構造と機能、免疫系(生体の防御機構)	奥田
第6回	神経系の概観、頭蓋腔・脊柱管・髄膜・血管・脳室系、中枢神経系 その1：脊髄の構造と機能	奥田
第7回	中枢神経系 その2：脳の構造と機能、中枢神経系 その3：脳の高次機能	奥田
第8回	末梢神経系(脳・脊髄神経の構造と機能、支配領域、自律神経系)、栄養摂取関連の神経系	奥田
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ ICT教育等を府k無
	○				
担当教員の実務経験と授業の関連					
事前学習	授業計画に記載されている内容について、テキストを読んで講義に臨む。「テキストのどのページを読むのか」については、シラバスの備考「各授業回とテキストのページとの関連」を見ること。			学習合計時間(h)	8
事後学習	授業で配布するプリントを見直し、テキストを読む。小テストの内容を復習し、類似の問題が定期試験で出題されたら、解答できるようにする。テキストの各章末にあるゼミナール問題を解いて、理解度を			学習合計時間(h)	22
課題に対するフィードバックの方法	小テストでは、答案回収後、解答例を配布する。学生は、小テスト後、直ちに自己採点を行うことで、結果を知ることができる。				
質問・相談方法	授業後(オフィスアワーで)対応する。				
オフィスアワー	土曜日 12:20~12:40 [授業後] (講義室)				
テキスト	『系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能〔1〕 解剖生理学 第11版』 坂井建雄・岡田隆夫・宇賀貴紀著 医学書院 2022年 3,800円(税抜き) (ISBN: 978-4-260-04687-9)				
参考文献等	『カラー人体解剖学 構造と機能: ミクロからマクロまで』 F.H.マティーニ他著 井上貴央 監訳 西村書店 2003年 7,800円(税抜き) (ISBN: 978-4-89013-305-5)『脳入門のその前に』 徳野博信著 共立出版 2013年 2,200円(税抜き) (ISBN: 978-4-320-05730-2)『脳「かたち」と「は				
成績評価基準	到達目標を踏まえて、人体の構造と機能についての基礎知識が理解できたと確認できた場合を合格とする。				
成績評価の方法	第3回/第5回/第7回の授業で実施する小テスト(10%)と定期試験(90%)の結果を総合して評価する。				
GPA基準					
備考	各授業回とテキストのページとの関連第1回 Pages 1-3, 5-17, and 23-28第2回 Pages 29-38, and 516-517第3回 Pages 36-38, and 40-49第4回 Pages 16-17, 38-41, 49-54, and 359-361第5回 Pages 19, 21-23, and 433-450第6回 Pages 20-21, 41-42, 51-53, 178-181, 297-299, 332-335, 357-				

科目名	解剖生理学Ⅱ		科目ナンバー	S21201
担当者	竹中 正巳			
科目	—			
施工規則に定める科目区分 または事項等	—			
授業形式	講義			
配当年次	1	科目群	専門科目 [人体の構造と機能]	
開講期	後期	卒業の選択・必修	選択	
単位数	2	担当形態	単独	
免許・資格情報	必修：栄養士、栄養教			

授業の概要	講義は器官相互の位置関係も重視し、人体構造が立体的にとらえられるようにする。疾病と関連させて人体の構造と機能を解説することにより、日常生活に役立つ内容にする。また、全身の諸組織・諸臓器の機能とその役割についても十分に解説する。			
授業の到達目標	1. 人体構造の仕組みと働きを理解する。2. 器官相互の有機関連を考え、その根底にある人体の原理を知る。3. 人体の構造と機能を多面的にとらえられるようになる。			
ディプロマポリシー(DP)	1 食物・栄養に必要な専門性 健康の基盤となる食物と栄養に関する専門的な知識と技能を修得し、時代と社会の要請に応える力を有する。	2 課題解決能力 修得した食に関する知識と技能を活かし、地域や現代社会の食に関わる身近な課題を見出し、それを解決に導くために求められる能力を有する。	3 豊かな人間性 食に関する幅広い知識・興味・関心に基づき、人が健全な食生活を送るために、他者と目的を共有し、協働できるように自らを高めることができる。	—
DPとの関連	◎	○	○	
※関連するDP番号に○（複数可）、最も関連部会DP番号は◎（1か所のみ）				

授業計画		担当者
第1回	細胞・組織・外皮・中枢神経・末梢神経の構造と機能	竹中
第2回	消化吸収(消化管の構造と機能)	竹中
第3回	消化吸収(栄養素の消化吸収のしくみ)	竹中
第4回	消化吸収(膵臓、肝臓、胆嚢の構造と機能)	竹中
第5回	呼吸器の構造と機能	竹中
第6回	心臓・血管(心臓、動脈、静脈の形態と機能)	竹中
第7回	血管・リンパ管(血液の組成と機能、血圧とその調節、リンパ管の構造と機能)	竹中
第8回	泌尿器(腎臓の構造と機能、尿、排泄路の構造と機能)	竹中
第9回	自律神経と内分泌(視床下部、下垂体、甲状腺、上皮小体、膵臓の各ホルモンの作用と分泌調節)	竹中
第10回	内分泌(副腎、性腺の各ホルモンの作用と分泌調節)	竹中
第11回	骨格・関節の構造と機能	竹中
第12回	筋肉の構造と機能	竹中
第13回	感覚器(眼・耳・舌・鼻の構造と機能)	竹中
第14回	生殖器(男女生殖器、精巣・卵巣の構造と機能)、人体の発生(受精と胎児の発生)	竹中
第15回	ヒトの成長と老化	竹中

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ ICT教育等を府k無
	○	○			

担当教員の実務経験と授業の関連				
事前学習	テキストをよく読んで講義に臨む			学習合計時間(h) 30
事後学習	講義後はテキストの各章末にあるゼミナール問題を解いて、理解度を確かめる			学習合計時間(h) 30
課題に対するフィードバックの方法	課題を課した場合、受講者の求めに応じて個別に対応する。			
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワー等で対応する。			
オフィスアワー	木曜日 12:10～12:50 研究室(本館502号室)			

テキスト	『系統看護学講座1 解剖生理学』 坂井建雄・岡田隆夫 医学書院 2022年 3,800円(税抜き)(ISBN: 978-4-260-04687-9) 解剖生理学ワークブック 『系統看護学講座』 準拠 坂井建雄 医学書院 2022年 2,000円(税抜き)(ISBN: 978-4-260-04688-6)			
参考文献等	『カラー人体解剖学－構造と機能：マクロからミクロまで』 井上貴央監訳 西村書店 2003年 7,800円(税抜き)(ISBN: 978-4-890-13305-5)			
成績評価基準	到達目標を踏まえて、解剖生理学の概要が理解できたと確認できた場合、合格とする。			
成績評価の方法	筆記試験(100%)(状況に応じ、評価方法をレポートで代替する場合がある)			
GPA基準				
備考				

科目名	栄養生化学Ⅰ		科目ナンバー	S21103
担当者	大賀 早希			
科目	—			
施工規則に定める科目区分 または事項等	—			
授業形式	講義			
配当年次	1	科目群	専門科目 [人体の構造と機能]	
開講期	前期	卒業の選択・必修	必修	
単位数	2	担当形態	単独	
免許・資格情報	必修：栄養士、栄養教			

授業の概要	三大栄養素の機能や構造を理解し、化学的な構造や特徴を通して、三大栄養素とはどのような物質であるのかを説明する。また、私たちの体内での代謝をつかさどるたんぱく質である「酵素」による反応の特徴についても解説する。さらに、食事を摂取する一番の目的である、生体内での主たるエネルギー源であるATPの産生方法についても解説する。			
授業の到達目標	1. 三大栄養素について、化学構造や特徴から説明できる2. 酵素反応の特徴について説明できる3. 糖質の代謝について説明できる4. 血糖値の調節について説明できる			
ディプロマポリシー (DP)	1 食物・栄養に必要な専門性 健康の基盤となる食物と栄養に関する専門的な知識と技能を修得し、時代と社会の要請に応える力を有する。	2 課題解決能力 修得した食に関する知識と技能を活かし、地域や現代社会の食に関わる身近な課題を見出し、それを解決に導くために求められる能力を有する。	3 豊かな人間性 食に関する幅広い知識・興味・関心に基づき、人が健全な食生活を送るために、他者と目的を共有し、協働できるように自らを高めることができる。	—
DPとの関連	◎		○	
※関連するDP番号に○（複数可）、最も関連部会DP番号は◎（1か所のみ）				

授業計画		担当者
第1回	生化学導入～生化学を学ぶ意義～	大賀
第2回	糖質の特徴（単糖類・二糖類）	大賀
第3回	糖質の特徴（多糖類・複合糖質）	大賀
第4回	脂質の分類	大賀
第5回	脂質の構造と機能	大賀
第6回	コレステロール、脂肪酸	大賀
第7回	アミノ酸の構造と性質	大賀
第8回	たんぱく質の構造と分類	大賀
第9回	アミノ酸の性質	大賀
第10回	酵素の性質、分類	大賀
第11回	糖質の代謝概要	大賀
第12回	ATPの役割	大賀
第13回	解糖系	大賀
第14回	クエン酸回路・電子伝達系	大賀
第15回	糖新生	大賀

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ ICT教育等を府k無
	○		○		○

担当教員の実務経験と授業の関連				
事前学習	高校で学んだ化学や生物を復習し、科学的な考え方や基礎的な化学知識について身につけておくこと。			学習合計時間(h) 15
事後学習	各回のプリントを見直して理解し、過去に出題された栄養士実力認定試験の問題が解けるようにしておくこと。			学習合計時間(h) 15
課題に対するフィードバックの方法	各回の授業終了時に行う問題について、その都度、個別ないしはグループごとに指導することにより、フィードバックを行う。			
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワー等で対応する。また、必要に応じてメール等による質問・相談も受け付ける。			
オフィスアワー	火曜日12：20～13：10 研究室			

テキスト	『N ブックス 生化学の基礎』、岡純 曾根英行 沼田卓也 編著、建帛社、2020年、2500円（税抜き）、ISBN978-4-7679-0643-0			
参考文献等	『健康・栄養科学シリーズ 生化学』 国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所監修 南江堂 2019年 3000円（税抜き） ISBN: 978-4-524-24182-8 『栄養科学イラストレイテッド 生化学』 園田勝編 羊土社 2017年 2800円（税抜き） ISBN 978-4-7581-1354-0			
成績評価基準	三大栄養素の構造と機能、糖質の代謝、また酵素とはどのような特徴をもつ生体分子なのかについて説明できたものは合格とする。			
成績評価の方法	小テスト(30%)と定期テスト(70%)で評価する。いずれもオンラインで実施する場合がある。			
G P A 基準				
備考	他学科開放科目 高校時代に「化学基礎」等の科目を学んでいないものや、あまり自信がないものは、選択の専門科目【関連科目】の「化学」を履修することが望ましい。			

科目名	栄養生化学Ⅱ		科目ナンバー	S21202
担当者	大賀 早希			
科目	—			
施工規則に定める科目区分 または事項等	—			
授業形式	講義			
配当年次	1	科目群	専門科目 [人体の構造と機能]	
開講期	後期	卒業の選択・必修	選択	
単位数	2	担当形態	単独	
免許・資格情報	必修：栄養士、栄養教			

授業の概要	私たちが健康的に生きていけるのは、体内で代謝が、滞りなく、正しく行われているからである。体内でどのように代謝されるのかの理解を生化学Ⅰに続いて解説する。また遺伝の仕組みの基礎理解のために、ヌクレオチドと核酸について説明する。また、DNAの情報を基にして、体内でたんぱく質が合成される流れについても解説する。さらに食物アレルギーの理解のため、免疫と生体防御の基礎やアレルギーについても解説する。			
授業の到達目標	1.脂質・たんぱく質の代謝について説明できる2.核酸の化学構造や特徴について説明できる2. 体内でDNAの情報からたんぱく質が合成される流れについて説明できる3.免疫の仕組みに基づいて食物アレルギーについて説明できる			
ディプロマポリシー (DP)	1 食物・栄養に必要な専門性 健康の基盤となる食物と栄養に関する専門的な知識と技能を修得し、時代と社会の要請に応える力を有する。	2 課題解決能力 修得した食に関する知識と技能を活かし、地域や現代社会の食に関わる身近な課題を見出し、それを解決に導くために求められる能力を有する。	3 豊かな人間性 食に関する幅広い知識・興味・関心に基づき、人が健全な食生活を送るために、他者と目的を共有し、協働できるように自らを高めることができる。	—
DPとの関連	◎		○	
※関連するDP番号に○（複数可）、最も関連部会DP番号は◎（1か所のみ）				

授業計画			担当者
第1回	生化学2導入～生化学Ⅰのおさらい～		大賀
第2回	脂質の代謝概要		大賀
第3回	脂肪酸の酸化		大賀
第4回	脂質の輸送と蓄積		大賀
第5回	たんぱく質の合成と分解		大賀
第6回	アミノ酸の代謝、アミノ酸プール		大賀
第7回	アミノ基転移反応		大賀
第8回	核酸とたんぱく質の合成		大賀
第9回	核酸と遺伝子		大賀
第10回	転写と翻訳		大賀
第11回	免疫系による生体防御		大賀
第12回	アレルギー・自己免疫疾患		大賀
第13回	ホルモンの定義と種類		大賀
第14回	ホメオスタシスの維持		大賀
第15回	総括		大賀

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ ICT教育等を府k無
	○		○		○

担当教員の実務経験と授業の関連				
事前学習	前期の「栄養生化学Ⅰ」で学んだ、関連する栄養素について復習を行っておくこと。			学習合計時間(h) 15
事後学習	各回のプリントを見直して理解し、過去に出題された栄養士実力認定試験の問題が解けるようにしておくこと。			学習合計時間(h) 15
課題に対するフィードバックの方法	各回の授業終了時に行う問題について、その都度、個別ないしはグループごとに指導することにより、フィードバックを行う。			
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワー等で対応する。また、必要に応じてメール等による質問・相談も受け付ける。			
オフィスアワー	火曜日12：20～13：10 研究室			

テキスト	生化学Ⅰに同じ
参考文献等	生化学Ⅰに同じ
成績評価基準	脂質、たんぱく質の代謝、核酸について理解でき、生体防御機構と食物アレルギーについて説明できたものは合格とする。
成績評価の方法	小テスト(30%)と定期テスト(70%)で評価する。いずれもオンラインで実施する場合がある。
GPA基準	
備考	他学科開放科目 「栄養生化学Ⅰ」の単位を修得しておくことが望ましい。

科目名	食品学総論		科目ナンバー	S21104
担当者	木戸 めぐみ			
科目	—			
施工規則に定める科目区分 または事項等	—			
授業形式	講義			
配当年次	1	科目群	専門科目「食品と衛生」	
開講期	前期	卒業の選択・必修	必修	
単位数	2	担当形態	単独	
免許・資格情報	必修：栄養士、栄養教			

授業の概要	現在の日本において、多国籍、多種類、多形態の食品が豊富に出回り、多様な食品を口にする機会が増えている。それに伴い食品に求められる役割も、栄養性、嗜好性に加えて、生体調節性と多岐にわたっている。本講義では、健康な食生活を営むために必要な食品を正しく選択できるよう、食品成分の特徴や、食品に関する基礎的知識について講義する。			
授業の到達目標	1. 食品成分の特徴を説明できる2. 食品に関する基礎的知識を説明できる3. 健康な食生活を営むために必要な食品を正しく選択できる			
ディプロマポリシー (DP)	1 食物・栄養に必要な専門性 健康の基盤となる食物と栄養に関する専門的な知識と技能を修得し、時代と社会の要請に応える力を有する。	2 課題解決能力 修得した食に関する知識と技能を活かし、地域や現代社会の食に関わる身近な課題を見出し、それを解決に導くために求められる能力を有する。	3 豊かな人間性 食に関する幅広い知識・興味・関心に基づき、人が健全な食生活を送るために、他者と目的を共有し、協働できるように自らを高めることができる。	—
DPとの関連	◎	○	○	
※関連するDP番号に○（複数可）、最も関連部会DP番号は◎（1か所のみ）				

授業計画		担当者
第1回	食環境(世界や日本の食料事情を学ぶ)	木戸
第2回	食品成分表1(食品成分表の内容構成を学ぶ)	木戸
第3回	食品成分表2(食品成分表の数値の意味を実際の計算で理解する)	木戸
第4回	炭水化物(食品中の炭水化物の種類と変化を学ぶ)	木戸
第5回	脂質(食品中の脂質の種類と性質、変化を学ぶ)	木戸
第6回	タンパク質(食品中のタンパク質の種類とその変化)	木戸
第7回	ビタミン(食品中に含まれるビタミンの性質と変化)	木戸
第8回	無機質(食品中のミネラルの働きや摂取上の注意)	木戸
第9回	色素成分(食品本来の色や調理・加工による変色)	木戸
第10回	香気成分(食品特有、加工や微生物によるにおい等)	木戸
第11回	呈味成分(味の成分、種類等について学ぶ)	木戸
第12回	水(食品中の水の性質を理解する)	木戸
第13回	食品の健康機能性(食品の性質と表示について学ぶ)	木戸
第14回	物性(テクスチャーの意味を理解する)	木戸
第15回	官能検査(食品のおいしさを評価する方法を学ぶ)	木戸

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ ICT教育等を府k無
	○	○			○

担当教員の実務経験と授業の関連				
事前学習	授業で取り扱う項目について事前に調べておく。			学習合計時間(h) 12
事後学習	毎回小テストを実施するため、その内容について復習を行う。いろいろな食品を実際に見たり、触ったり、調理し食べたりする。			学習合計時間(h) 15
課題に対するフィードバックの方法	毎回の小テスト対して適宜授業の中で解説する。必要に応じて個別に対応する。			
質問・相談方法	授業の前後やオフィシアワー等で対応する。また、必要に応じてメール等による質問・相談も受け付ける。			
オフィシアワー	火曜日 16:30～18:30 研究室(本館505号室)			

テキスト	『食べ物と健康、食品と衛生 食品学総論 第4版』・辻英明 他・講談社・2021年・2,600円(税抜き)・(ISBN: 978-4-06-522467-0) 『八訂 食品成分表』・香川明夫監修・女子栄養大学出版部・2025年・1,700円(税抜)・(ISBN978-4-7895-1025-7)			
参考文献等	特になし			
成績評価基準	食品成分の特徴について基礎的な知識を身につけたものは合格とする。			
成績評価の方法	定期試験(70%)、毎回の小テスト(30%)で判定する。			
G P A 基準				
備考	・ Google Classroom, Unipaを使用する。			

科目名	食品学各論		科目ナンバー	S21203
担当者	木戸 めぐみ			
科目	—			
施工規則に定める科目区分 または事項等	—			
授業形式	講義			
配当年次	1	科目群	専門科目【食品と衛生】	
開講期	後期	卒業の選択・必修	必修	
単位数	2	担当形態	単独	
免許・資格情報	必修：栄養士、栄養教 選択必修：こども食物アレルギー実務課程			

授業の概要	本講義では、食品の知識を深め、各々に適した調理・加工・保存方法を選択することができるよう、各食品の特徴的な成分や、調理加工に伴う成分変化、貯蔵法・加工法等について講義する。また、食物アレルギーの原因食物やアレルゲンの特性、加工食品の食物アレルギー表示について説明する。			
授業の到達目標	1. 食品の成分特性、生理的機能について説明できる2. 食品の調理・加工に伴う食品成分の変化について説明できる3. 食品の貯蔵法、加工法の特徴を説明できる4. 食物アレルギーの原因食物別の特徴について説明できる			
ディプロマポリシー(DP)	1 食物・栄養に必要な専門性 健康の基盤となる食物と栄養に関する専門的な知識と技能を修得し、時代と社会の要請に応える力を有する。	2 課題解決能力 修得した食に関する知識と技能を活かし、地域や現代社会の食に関わる身近な課題を見出し、それを解決に導くために求められる能力を有する。	3 豊かな人間性 食に関する幅広い知識・興味・関心に基づき、人が健全な食生活を送るために、他者と目的を共有し、協働できるように自らを高めることができる。	—
DPとの関連	◎	○		
※関連するDP番号に○（複数可）、最も関連部会DP番号は◎（1か所のみ）				

授業計画		担当者
第1回	食品の分類、食料の需給	木戸
第2回	植物性食品の特徴－穀類	木戸
第3回	いも類、甘味料の特徴	木戸
第4回	豆類、種実類の特徴	木戸
第5回	野菜類の特徴	木戸
第6回	果実類の特徴	木戸
第7回	きのこ類、藻類の特徴、利用	木戸
第8回	魚介類の特徴、利用	木戸
第9回	肉類の特徴、利用	木戸
第10回	卵・乳類の特徴、利用	木戸
第11回	各種食品－食用油脂、菓子類、嗜好飲料、酒類の特徴、利用	木戸
第12回	調味料・加工食品類の特徴、利用	木戸
第13回	調理・加工による食品成分の変化(食物アレルギー原因成分の調理・加工による変化)	木戸
第14回	加工食品の表示(食品表示法に基づく食物アレルギー表示)	木戸
第15回	総括・まとめ	木戸

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ ICT教育等を府k無
	○	○			○

担当教員の実務経験と授業の関連			
事前学習	授業で取り扱う項目について事前に調べておく。	学習合計時間(h)	15
事後学習	毎回小テストを実施するため、その内容について復習を行う。いろいろな食品を実際に見たり、触ったり、調理し食べたりする。	学習合計時間(h)	15
課題に対するフィードバックの方法	毎時間の小テスト対して適宜授業の中で解説する。必要に応じて個別に対応する。		
質問・相談方法	授業の前後やオフィシアワー等で対応する。また、必要に応じてメール等による質問・相談も受け付ける。		
オフィシアワー	火曜日 16:30～18:30 研究室(本館505号室)		

テキスト	『食べ物と健康、食品と衛生 食品学各論 第4版』・小西洋太郎他・講談社・2021年 2,600円(税抜き)・(ISBN: 978-4-06-522466-3)		
参考文献等	『八訂 食品成分表』・香川明夫監修・女子栄養大学出版部・2025年・1,700円(税抜)・(ISBN978-4-7895-1025-7)		
成績評価基準	食品の持つ性質や加工特性に関する基礎的な知識を身につけたものは合格とする。		
成績評価の方法	定期試験(70%)、毎回の小テスト(30%)で判定する。		
GPA基準			
備考	・ Google Classroom, Unipaを使用する。		

科目名	食品学実験		科目ナンバー	S21105
担当者	村山 恵美子			
科目	—			
施工規則に定める科目区分 または事項等	—			
授業形式	実験			
配当年次	1	科目群	専門科目「食品と衛生」	
開講期	前期	卒業の選択・必修	選択	
単位数	1	担当形態	単独	
免許・資格情報	必修：栄養士、栄養教			

授業の概要	後に続く各種の実験に興味を持ち、楽しく、安全かつ正確に実験できるよう、実験に必要な基礎知識と基本操作を説明する。さらに、食品の基礎的知識について理解が深まるよう、身の回りにある食材を使用し実験を行う。			
授業の到達目標	1. 実験に必要な基礎知識を理解し、安全に実験を行うことができる2. 基本操作を学び、基本的実験姿勢を身につけて実験を行うことができる3. 食品の化学的特性について理解する			
ディプロマポリシー(DP)	1 食物・栄養に必要な専門性 健康の基盤となる食物と栄養に関する専門的な知識と技能を修得し、時代と社会の要請に応える力を有する。	2 課題解決能力 修得した食に関する知識と技能を活かし、地域や現代社会の食に関わる身近な課題を見出し、それを解決に導くために求められる能力を有する。	3 豊かな人間性 食に関する幅広い知識・興味・関心に基づき、人が健全な食生活を送るために、他者と目的を共有し、協働できるように自らを高めることができる。	—
DPとの関連	◎		○	

※関連するDP番号に○（複数可）、最も関連部会DP番号は◎（1か所のみ）

授業計画		担当者
第1回	オリエンテーション(実験に必要な基礎知識と準備)	村山
第2回	でんぶんの分離と検鏡、水分測定（でんぶんの観察、食品中の水分測定）	村山
第3回	PH測定(PH測定と緩衝能を理解する)	村山
第4回	基礎練習、標準液の標定（ファクターを求める）	村山
第5回	食酢中の酢酸の定量、灰分の定量（食酢に含まれる酢酸%を求める）	村山
第6回	無機質の定性と炎色反応（無機質の性質を知る）	村山
第7回	たんぱく質の定性（たんぱく質とアミノ酸の特徴）	村山
第8回	糖の定性（化学反応で糖質の特徴を理解する）	村山
第9回	酵素による褐変、非酵素的褐変（褐変の条件を調べる）	村山
第10回	分光光度計の練習実験(サンプル量の求め方を知る)	村山
第11回	酵素の活性測定（アミラーゼの糖化力を測定する）	村山
第12回	アミロース含量の測定（でんぶん中のアミロース含有率を測定する）	村山
第13回	フラボノイド系色素の呈色反応（食品の色調の変化を観察する）	村山
第14回	グルテンの分離およびマンニトールの抽出（小麦粉、昆布の成分の分離）	村山
第15回	総括・まとめ	村山

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ICT教育等を府k無
	○	○		○	
担当教員の実務経験と授業の関連					
事前学習	資料を読み、実験内容を理解する。			学習合計時間(h)	8
事後学習	実験内容をまとめ、レポートとして提出する。			学習合計時間(h)	10
課題に対するフィードバックの方法	課題(レポート等)に対して、適宜授業の中で解説、講評する。必要に応じて個別に対応する。				
質問・相談方法	授業の前後対応する。				
オフィスアワー	金曜日授業前後				
テキスト	テキストは使用せずに、資料を配布する。				
参考文献等	『食品学総論実験—実験で学ぶ食品学—』・江角彰彦・同文書院・2018年・2,400円(税抜き)・(ISBN: 978-4-8103-1345-1)				
成績評価基準	基本的実験姿勢を身につけ、食品に対する理解を深めたものは合格とする				
成績評価の方法	定期試験(40%)、課題レポート(60%)で判定する。				
GPA基準					
備考	教育効果向上のため、2コマ(180分)×15回で実施する。				

科目名	食品衛生学		科目ナンバー	S21106
担当者	大賀 早希			
科目	—			
施工規則に定める科目区分 または事項等	—			
授業形式	講義			
配当年次	1	科目群	専門科目「食品と衛生」	
開講期	前期	卒業の選択・必修	選択	
単位数	2	担当形態	単独	
免許・資格情報	必修：栄養士、栄養教			

授業の概要	様々な衛生管理が行われているにもかかわらず大規模化・劇症化する食中毒、環境汚染に由来する食品汚染、流通の発達に伴う加工食品や食品添加物摂取量の増大、頻発する食品の偽装表示、食糧自給率の低下、輸入食品の増加等の実態を説明し、安全、安心な食生活を送るために必要な衛生に関する予防法や管理法を学ぶ。			
授業の到達目標	1. 食品に関する安全面での現状認識を行う2. 食中毒予防や衛生管理法を習得する			
ディプロマポリシー(DP)	1 食物・栄養に必要な専門性 健康の基盤となる食物と栄養に関する専門的な知識と技能を修得し、時代と社会の要請に応える力を有する。	2 課題解決能力 修得した食に関する知識と技能を活かし、地域や現代社会の食に関わる身近な課題を見出し、それを解決に導くために求められる能力を有する。	3 豊かな人間性 食に関する幅広い知識・興味・関心に基づき、人が健全な食生活を送るために、他者と目的を共有し、協働できるように自らを高めることができる。	—
DPとの関連	◎	○	○	
※関連するDP番号に○（複数可）、最も関連部会DP番号は◎（1か所のみ）				

授業計画		担当者
第1回	食品衛生学導入	大賀
第2回	食品衛生行政(食品安全行政/ 食品衛生関連法規を学ぶ)	大賀
第3回	食品と微生物	大賀
第4回	食品の変質(腐敗、変敗、変質の予防法を学ぶ)	大賀
第5回	食中毒総論(食中毒の定義、種類、発生状況を学ぶ)	大賀
第6回	細菌性、ウイルス性、自然毒食中毒	大賀
第7回	食品による感染症・寄生虫症を学ぶ	大賀
第8回	食中毒事件について	大賀
第9回	食品中の汚染物質(化学物質による汚染を学ぶ)	大賀
第10回	食品添加物について	大賀
第11回	食品の安全性について	大賀
第12回	食品衛生管理(日本のHACCPを理解する)	大賀
第13回	食品の器具と容器包装(素材と衛生・環境汚染を学ぶ)	大賀
第14回	食品表示基準について	大賀
第15回	総括	大賀

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ ICT教育等を府k無
	○		○		
担当教員の実務経験と授業の関連					
事前学習	前もってテキストに目を通す。新聞やニュース等を見て、衛生に関する出来事に注意を向ける。			学習合計時間(h)	15
事後学習	不明な点について情報収集する。食品を購入する時は、表示を確認する。			学習合計時間(h)	15
課題に対するフィードバックの方法	課題に対して、必要に応じて個別に対応を行う。				
質問・相談方法	授業の前後やオフィシアワー等で対応する。				
オフィシアワー	火曜日12：20～13：10 研究室				
テキスト	『イラスト 食品の安全性 第4版』小塚諭編 東京教学社 2023年 2500円(税抜き) (ISBN：978-4-8082-6078-1)				
参考文献等	『栄養科学イラストレイテッド食品衛生学第3版』、田嶋達明、羊土社、2024年、2900円（税抜き）、ISBN 978-4-7581-1372-4				
成績評価基準	食品衛生に関する基礎的な知識を修得したもの。				
成績評価の方法	平常点（30％）、定期試験(70％)で評価する。				
G P A 基準					
備考					

科目名	食品衛生学実験		科目ナンバー	S21204
担当者	大賀 早希			
科目	—			
施工規則に定める科目区分 または事項等	—			
授業形式	実験			
配当年次	1	科目群	専門科目「食品と衛生」	
開講期	後期	卒業の選択・必修	選択	
単位数	1	担当形態	単独	
免許・資格情報	必修：栄養士、栄養教			

授業の概要	最近、食中毒の増加や、ウィルスによる新たな感染症の出現、モラルの欠如による違法販売等の様々な問題が生じている。この実験では、微生物実験と化学実験を通じて、衛生に関する基本的な問題点を認識する。微生物実験では、身の回りの至るところに微生物が存在することを認識し消毒・滅菌の意義を理解することを目標とし、化学実験では、食品や水、環境等に関する衛生上の問題点を認識し、安全な食生活とは何かを理解できるよう、実験と講義を行う。			
授業の到達目標	1. 消毒・滅菌の意義を理解し、衛生観念を高める2. 衛生上の問題点を認識する3. 安全な食生活とは何かを理解する			
ディプロマポリシー (DP)	1 食物・栄養に必要な専門性 健康の基盤となる食物と栄養に関する専門的な知識と技能を修得し、時代と社会の要請に応える力を有する。	2 課題解決能力 修得した食に関する知識と技能を活かし、地域や現代社会の食に関わる身近な課題を見出し、それを解決に導くために求められる能力を有する。	3 豊かな人間性 食に関する幅広い知識・興味・関心に基づき、人が健全な食生活を送るために、他者と目的を共有し、協働できるように自らを高めることができる。	—
DPとの関連	◎	○	○	
※関連するDP番号に○（複数可）、最も関連部会DP番号は◎（1か所のみ）				

授業計画			担当者
第1回	オリエンテーション(実験の説明、計画、次回の準備、)、手指の汚染度検査		大賀
第2回	空中落下菌・浮遊菌の測定、ATP測定法による手指の汚染度検査		大賀
第3回	細菌の形態観察(細菌を染色後、顕微鏡で観察する)		大賀
第4回	発酵乳、乳酸菌飲料中の乳酸菌数測定		大賀
第5回	水洗法によるフキンの細菌数測定		大賀
第6回	食品の衛生検査(各種条件での菌数の違いを確認する)		大賀
第7回	食中毒菌の検査(黄色ぶどう球菌、サルモネラ属菌の検出)		大賀
第8回	耐熱性・紫外線抵抗性試験(菌の耐熱性や紫外線抵抗性)		大賀
第9回	保存料(ソルビン酸)の抗菌力試験、薬剤感受性試験		大賀
第10回	保存料(ソルビン酸)の定量		大賀
第11回	食品中の添加物検査(発色剤、漂白剤を検出する)		大賀
第12回	食品の腐敗・変質試験(揮発性塩基窒素、ヒスタミンの検出)		大賀
第13回	水質試験(日常使用している水道水の水質検査を行う)		大賀
第14回	環境衛生試験(風速 感覚温度 空気汚染度 照度 騒音)		大賀
第15回	鮮度試験(米の新・旧、卵の鮮度判定)、まとめ、解説		大賀

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ ICT教育等を府k無
	○	○		○	

担当教員の実務経験と授業の関連				
事前学習	実験書に目を通し、実験内容を理解する。 の前にすべき内容を確認し、準備する。		実験	学習合計時間(h) 15
事後学習	実験結果を観察、データをもとに考察し、レポートとして提出する			学習合計時間(h) 30
課題に対するフィードバックの方法	レポートや課題に対して、必要に応じて個別に対応を行う。			
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワー等に対応する。			
オフィスアワー	火曜日12:20～13:10 研究室			

テキスト	テキストなし、プリント配布			
参考文献等	『食品環境実験50』藤田修三・山田恭正編 医歯薬出版、 『食品衛生検査指針微生物・食品中の食品添加物分析法』(社)日本食品衛生協会			
成績評価基準	授業の準備・実験・観察を行い、その結果をレポートとして適切にまとめることができたもの			
成績評価の方法	レポート・受講態度(60%)、定期試験(40%)で総合的に判定する			
GPA基準				
備考				

科目名	栄養学総論		科目ナンバー	S21105
担当者	大賀 早希			
科目	—			
施工規則に定める科目区分 または事項等	—			
授業形式	講義			
配当年次	1	科目群	専門科目 [栄養と健康]	
開講期	後期	卒業の選択・必修	必修	
単位数	2	担当形態	単独	
免許・資格情報	必修：栄養士、栄養教			

授業の概要	人間にとって、生命を維持するために欠かすことのできないのが、バランスよく栄養素を摂取することである。そこで、正しい『食』についての理解を深め、健康的な生活を送るための確かな栄養指導を行うために、人間が生命や健康を維持するために欠かすことができない栄養素を、バランスよく、適切な量摂取することについて、主な栄養素の消化・吸収、生理的な機能及び栄養評価の方法等を通して説明する。			
授業の到達目標	1. 適切な栄養素の摂取により、自らが正しい食生活を実践できる2. 健康に生きていくための、的確な食教育ができる			
ディプロマポリシー (DP)	1 食物・栄養に必要な専門性 健康の基盤となる食物と栄養に関する専門的な知識と技能を修得し、時代と社会の要請に応える力を有する。	2 課題解決能力 修得した食に関する知識と技能を活かし、地域や現代社会の食に関わる身近な課題を見出し、それを解決に導くために求められる能力を有する。	3 豊かな人間性 食に関する幅広い知識・興味・関心に基づき、人が健全な食生活を送るために、他者と目的を共有し、協働できるように自らを高めることができる。	—
DPとの関連	◎	○	○	
※関連するDP番号に○（複数可）、最も関連部会DP番号は◎（1か所のみ）				

授業計画		担当者
第1回	栄養の概念栄養学の歴史	大賀
第2回	食物の摂取調節機構	大賀
第3回	消化・吸収	大賀
第4回	栄養素の体内動態	大賀
第5回	炭水化物の栄養	大賀
第6回	食物繊維	大賀
第7回	脂質の栄養	大賀
第8回	脂肪酸について	大賀
第9回	たんぱく質の体内代謝	大賀
第10回	たんぱく質の栄養価	大賀
第11回	ビタミンの栄養	大賀
第12回	多量ミネラルの栄養	大賀
第13回	微量ミネラルの栄養	大賀
第14回	水の役割	大賀
第15回	エネルギー代謝について	大賀

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ ICT教育等を府k無
	○		○		○

担当教員の実務経験と授業の関連			
事前学習	「栄養生化学Ⅰ」で学ぶ関連する内容について復習を行っておくこと。		学習合計時間(h) 15
事後学習	各回のプリントを見直して理解し、過去に出題された栄養士実力認定試験の問題が解けるようにしておくこと。		学習合計時間(h) 15
課題に対するフィードバックの方法	各回の授業終了時に行う問題について、その都度、個別ないしはグループごとに指導することにより、フィードバックを行う。		
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワー等で対応する。また、必要に応じてメール等による質問・相談も受け付ける。		
オフィスアワー	火曜日12：20～13：10 研究室		

テキスト	『イラスト 基礎栄養学 第4版』大口健司 小野廣紀 田村明著 東京教学社 2024年 価格2600円（税抜き） ISBN9784808260989		
参考文献等	『日本人の食事摂取基準（2020年版）』伊藤 貞嘉、佐々木 敏 監修 第一出版 2020年 2,800円(税抜き) (ISBN978-4804114088) 『健康・栄養科学シリーズ 基礎栄養学 改訂第6版』 国立研究開発法人 医薬基盤・健康・栄養研究所 監修 南江堂 2020年 2,900円(税抜き)		
成績評価基準	生きていく上で必要な栄養素の適切な摂取により健康的な生活を送るための、栄養学的な基本となる考え方を理解できたものは合格とする。		
成績評価の方法	平常点（30％）、定期試験(70％)で評価する。		
G P A 基準			
備考	他学科開放科目 「栄養生化学Ⅰ」を受講すること。		

科目名	応用栄養学		科目ナンバー	S21206
担当者	寺師 睦美			
科目	—			
施工規則に定める科目区分 または事項等	—			
授業形式	講義			
配当年次	1	科目群	専門科目 [栄養と健康]	
開講期	後期	卒業の選択・必修	必修	
単位数	2	担当形態	単独	
免許・資格情報	必修：栄養士、栄養教員 選択必修：こども食物アレルギー実務課程			

授業の概要	人の各ライフステージにおける心身の成長発育の特性および変化と、運動や生活環境における健康の保持増進に必要な栄養管理の考え方を講義する。各ライフステージでの栄養評価法、疾患の定義と特徴、発症予防の基礎知識、生活習慣との関連について説明する。			
授業の到達目標	1. 各ライフステージの特徴、心身と生理機能の変化を理解できる 2. 運動や環境等に対応する適切な栄養管理の考え方を修得し説明できる 3. 給食施設における食物アレルギーの安全な対応について理解できる			
ディプロマポリシー(DP)	1 食物・栄養に必要な専門性 健康の基盤となる食物と栄養に関する専門的な知識と技能を修得し、時代と社会の要請に応える力を有する。	2 課題解決能力 修得した食に関する知識と技能を活かし、地域や現代社会の食に関わる身近な課題を見出し、それを解決に導くために求められる能力を有する。	3 豊かな人間性 食に関する幅広い知識・興味・関心に基づき、人が健全な食生活を送るために、他者と目的を共有し、協働できるように自らを高めることができる。	—
DPとの関連	◎	○	○	
※関連するDP番号に○（複数可）、最も関連部会DP番号は◎（1か所のみ）				

授業計画		担当者
第1回	栄養管理の基礎	寺師
第2回	各ライフステージの栄養(食事摂取基準の基本的な考え方と活用法)	寺師
第3回	妊娠期の栄養管理(特性、問題点、疾患と生活習慣、栄養ケア)	寺師
第4回	授乳期の栄養管理(特性、問題点、乳汁栄養、疾患と生活習慣、栄養ケア)	寺師
第5回	新生児・乳児期の栄養管理(特性、問題点、離乳、疾患と生活習慣、栄養ケア)	寺師
第6回	幼児期の栄養管理(特性、問題点、保育所給食、疾患と生活習慣、栄養ケア)	寺師
第7回	学童期の栄養管理(特性、問題点、学校給食、疾患と生活習慣、栄養ケア)	寺師
第8回	思春期の栄養管理(特性、問題点、疾患と生活習慣、栄養ケア)、小テスト	寺師
第9回	成人期の栄養管理(特性、問題点、疾患と生活習慣、栄養ケア)	寺師
第10回	更年期の栄養管理(特性、問題点、疾患と生活習慣、栄養ケア)	寺師
第11回	高齢期の栄養管理(特性、問題点、疾患と生活習慣、栄養ケア)	寺師
第12回	高齢期の栄養管理(特性、問題点、疾患と生活習慣、栄養ケア)、小テスト又は課題	寺師
第13回	運動と栄養(身体活動と代謝、疾病と運動、栄養ケア)	寺師
第14回	環境と栄養(生活環境と代謝、災害時の支援、栄養ケア)	寺師
第15回	食物アレルギー対応、総括、課題学習（討議）	寺師

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ ICT教育等を府k無
	○				

担当教員の実務経験と授業の関連	管理栄養士として、病院や福祉施設等での実務経験を活かし、健康者の栄養管理の考え方や方法について教授する。		
事前学習	教科書を予習し、わからない語句を調べる。	学習合計時間(h)	30
事後学習	応用栄養学実習と関連付けて復習する。テーマに基づいて、調べたことをまとめる	学習合計時間(h)	30
課題に対するフィードバックの方法	講義内で課題のポイントを説明する。ユニバを活用する。課題の質問事項や改善点は、個別に対応する。		
質問・相談方法	講義の後やオフィシアワー等で対応する。		
オフィシアワー	月曜日 16:30～18:00 研究室(西館313号室)		

テキスト	『Visual栄養テキストシリーズ 応用栄養学』 小間切美穂・衆原晶子編集 中山書店 2020年 2700円(税抜) (ISBN 978-4-521-74291-5)
参考文献等	『日本人の食事摂取基準(2020年度)』 伊藤貞嘉・佐々木敏監修 第一出版 2020年 2800円(税抜) (ISBN 978-4-8041-1408-8)『保育の場で役立つ食物アレルギー対応—職種間連携から考える—』 小野内初美・朴賢晶編著者 建帛社 2020年 2300円(税抜) (ISBN 978-4-7679-7051-6)
成績評価基準	各ライフステージの特性と適切な栄養基準に応じた栄養管理、運動や環境における健康の保持増進に必要な栄養管理の考え方、生活習慣との関連について理解し説明できる。
成績評価の方法	小テスト(20%)、課題(10%)、定期試験60分(70%)で総合的に評価する。レポート等で代替する場合がある。
GPA基準	
備考	学内他学科・他専攻開放科目

科目名	応用栄養学実習		科目ナンバー	S22201
担当者	寺師 睦美			
科目	—			
施工規則に定める科目区分 または事項等	—			
授業形式	実習			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	科目群	専門科目 [栄養と健康]	
開講期	後期	卒業の選択・必修	選択	
単位数	1	担当形態	単独	
免許・資格情報	必修：栄養士、栄養教 選択必修：こども食物アレルギー実務課程			

授業の概要	人の各ライフステージにおいて、食事摂取基準に基づいた栄養管理の考え方、献立作成と調理、食教育、健康増進及び疾病の発症予防に関する栄養管理方法を講義する。実習前に実習方法を説明し、結果の検討・考察・評価、レポート作成など栄養管理を行う実践的な方法を講義する。			
授業の到達目標	1. 各ライフステージの栄養基準に基づく献立作成と、適切な食品の選択及び調理方法を習得する。2. 実践的な栄養管理と食教育を行うことができる。3. 給食施設における食物アレルギーの安全な対応について理解できる。			
ディプロマポリシー(DP)	1 食物・栄養に必要な専門性 健康の基盤となる食物と栄養に関する専門的な知識と技能を修得し、時代と社会の要請に応える力を有する。	2 課題解決能力 修得した食に関する知識と技能を活かし、地域や現代社会の食に関わる身近な課題を見出し、それを解決に導くために求められる能力を有する。	3 豊かな人間性 食に関する幅広い知識・興味・関心に基づき、人が健全な食生活を送るために、他者と目的を共有し、協働できるように自らを高めることができる。	—
DPとの関連	○	◎	○	
※関連するDP番号に○（複数可）、最も関連部会DP番号は◎（1か所のみ）				

授業計画		担当者
第1回	応用栄養学実習の意義と目的	寺師
第2回	乳児期栄養(特性と問題点、献立作成、調理の工夫)	寺師
第3回	離乳期栄養(調乳実習)	寺師
第4回	幼児期栄養(特性と問題点、食物アレルギー対応)	寺師
第5回	幼児期栄養(保育所給食実習)	寺師
第6回	幼児期栄養(保育所給食の基本、献立作成、調理の工夫)	寺師
第7回	学童期・思春期栄養(特性と問題点、献立作成、調理の工夫)	寺師・A
第8回	学童期・思春期栄養(学校給食実習)	寺師
第9回	成人期栄養(特性と問題点、献立作成、調理の工夫)	寺師
第10回	高齢期栄養(特性と問題点、献立作成、調理の工夫、媒体作成)	寺師
第11回	高齢期栄養(高齢者施設給食の基本、介護嚥下食実習)	寺師
第12回	食教育の基本(食教育の基本的な考え方、指導案と媒体の理解)	寺師
第13回	食教育の基本(指導案と媒体作成)	寺師
第14回	食教育(発表と評価)	寺師
第15回	総括	寺師

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ ICT教育等を府k無
	○	○	○	○	

担当教員の実務経験と授業の関連	管理栄養士として病院や福祉施設等での実務経験を活かし、健康者の実践的な栄養管理の方法について教授する。		
事前学習	授業範囲を予習し、グループで課題に取り組む。	学習合計時間(h)	15
事後学習	実習内容をまとめて、レポートを作成する。	学習合計時間(h)	15
課題に対するフィードバックの方法	講義内で課題のポイントを説明する。ユニバを活用する。課題の質問事項や改善点は、個別に対応する。		
質問・相談方法	講義・実習の後やオフィスアワー等に対応する。		
オフィスアワー	月曜日 16:30～18:00 研究室(西館313号室)		

テキスト	『改訂 応用栄養学実習（第2版）-PDCAサイクルによる栄養ケア-』 柳沢幸江・松井幾子編著 2022年 2400円(税抜) (ISBN 978-4-7679-0726-0)
参考文献等	『栄養士・管理栄養士をめざす人の 調理・献立作成の基礎』 坂本裕子・森美奈子編 化学同人 2021年 1500円(税抜) (ISBN 978-4-7598-1826-6) 『食品成分表』 香川芳子監修 女子栄養大学出版部 1500円(税抜) (ISBN 978-4-7895-1021-9)『保育の場で役立つ食物アレルギー対応一職種間連携から考える一』 小野内初美・朴賢晶編著者 建帛社 2020年 2300円(税抜) (ISBN 978-4-7679-7051-6)
成績評価基準	各ライフステージの特性と栄養基準に応じた栄養管理の考え方、適切な食品の選択と調理方法の工夫を理解できる。
成績評価の方法	レポート作成(30%)、献立作成(10%)、課題演習(10%)、定期試験60分(50%)で総合的に評価する。レポート等で代替する場合がある。
GPA基準	
備考	教育効果向上のため、2コマ(180分)×14回で実施する。 A: 児玉

科目名	食事摂取基準・献立論		科目ナンバー	S21107
担当者	改元 香			
科目	—			
施工規則に定める科目区分 または事項等	—			
授業形式	講義			
配当年次	1	科目群	専門科目 [栄養と健康]	
開講期	前期	卒業の選択・必修	必修	
単位数	2	担当形態	単独	
免許・資格情報	必修：栄養士、栄養教			

授業の概要	食事摂取基準を理解し、食事摂取基準に基づいた給与栄養量の決定、食品構成への展開、および作成方法を学び、献立作成の基礎理論を演習を含めて修得する。			
授業の到達目標	1. 食事摂取基準を理解し、説明することができる2. 対象者別に食事摂取基準を用いて、給与栄養量を算出し、食品構成の成り立ちを説明することができる。3. 献立作成の手順を説明することができる			
ディプロマポリシー (DP)	1 食物・栄養に必要な専門性 健康の基盤となる食物と栄養に関する専門的な知識と技能を修得し、時代と社会の要請に応える力を有する。	2 課題解決能力 修得した食に関する知識と技能を活かし、地域や現代社会の食に関わる身近な課題を見出し、それを解決に導くために求められる能力を有する。	3 豊かな人間性 食に関する幅広い知識・興味・関心に基づき、人が健全な食生活を送るために、他者と目的を共有し、協働できるように自らを高めることができる。	—
DPとの関連	◎	○	○	
※関連するDP番号に○（複数可）、最も関連部会DP番号は◎（1か所のみ）				

授業計画		担当者
第1回	食事摂取基準【総論】（策定および活用の基本）	改元
第2回	食事摂取基準【総論】（策定および活用の基本、エネルギー・栄養素の指標）	改元
第3回	食事摂取基準【総論・各論】（各栄養素の策定方法）	改元
第4回	食事摂取基準【各論】（エネルギー）	改元
第5回	食事摂取基準【各論】（たんぱく質、脂質、炭水化物、エネルギー産生栄養素）	改元
第6回	食事摂取基準【各論】（ビタミン類、ミネラル類）	改元
第7回	対象特性別の食事摂取基準、生活習慣病とエネルギー・栄養素との関連	改元
第8回	食事摂取基準の活用まとめ	改元
第9回	献立作成の基礎（一汁三菜、作成手順）	改元
第10回	献立作成の基礎（食品構成作成方法）	改元
第11回	献立作成の基礎（献立作成方法）	改元
第12回	献立を作成するための知識（目安量、調味割合）	改元
第13回	献立を作成するための知識（もどし率、吸油率）	改元
第14回	献立を作成するための知識（献立表への記入方法と栄養評価）	改元
第15回	献立作成手順と栄養評価のまとめ	改元

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ ICT教育等を府k無
	○				

担当教員の実務経験と授業の関連			
事前学習	テキストを読み、わからない語句を事前に調べておく	学習合計時間(h)	30
事後学習	テキストを読み直し、より詳しく知りたいところを調べ、理解できなかったところは質問する。また、演習においては必ず再度理解できたか確認をする。	学習合計時間(h)	30
課題に対するフィードバックの方法	課題(定期試験を含む)を課した場合は、評価に対する改善点を個別に対応する。		
質問・相談方法	授業の前後、およびオフィスアワー等に対応する。		
オフィスアワー	金曜日 13:00～14:00 研究室(本館 504号室)		

テキスト	『日本人の食事摂取基準』伊藤貞嘉、佐々木敏他 第一出版株式会社 2025年 2,800円(税抜) (ISBN978-4-8041-1492-7)『日本食品標準成分表 2020(七訂)』香川明夫、女子栄養大学出版部 2020年 1,400円(税抜) (ISBN978-4-7895-1020-2)『調理のためのベーシックデータ 第5版』香川明
参考文献等	『食事摂取基準入門』佐々木敏 同文書院 2010年 1,500円(税抜) (ISBN978-4-8103-2)『わかりやすいEBNと栄養疫学』佐々木敏 同文書院2005年2,500円(税抜) (ISBN978-4-8103-1316-1)
成績評価基準	食事摂取基準を理解し、説明することができ、献立作成の基礎を修得したものは合格とする
成績評価の方法	定期試験(90%)、献立等の提出物状況(10%)で成績を評価する。
GPA基準	
備考	他学科開放科目

科目名	栄養指導論Ⅰ		科目ナンバー	S22101
担当者	改元 香			
科目	—			
施工規則に定める科目区分 または事項等	—			
授業形式	講義			
配当年次	1	科目群	専門科目 [栄養の指導]	
開講期	前期	卒業の選択・必修	必修	
単位数	2	担当形態	単独	
免許・資格情報	必修：栄養士、栄養教諭 選択必修(▲4単位)：ピアヘルパー認定試験受験資格			

授業の概要	栄養指導論の具体的な教育目標は、厚生労働局長通知より「個人、集団および地域の栄養指導の基本的役割や栄養に関する各種統計について講義する。また、基本的な栄養指導の技術・方法を習得する。」と規定されている。よって、栄養指導論Ⅰでは、生活習慣病予防のためにいかに食行動の変容を支援していくか、栄養士が栄養指導業務に従事するために必要な知識と技術を、理論的に学ぶことが主体となる。また、栄養指導論Ⅱおよび栄養指導実習Ⅰ・Ⅱに連動するものである。				
授業の到達目標	1. 栄養指導の概念について理解し、説明できる2. 栄養指導の歴史や法規を理解し、栄養士の役割を説明できる3. 栄養指導の方法論を理解し、栄養指導計画を立てることができる				
ディプロマポリシー (DP)	1 食物・栄養に必要な専門性 健康の基盤となる食物と栄養に関する専門的な知識と技能を修得し、時代と社会の要請に応える力を有する。	2 課題解決能力 修得した食に関する知識と技能を活かし、地域や現代社会の食に関わる身近な課題を見出し、それを解決に導くために求められる能力を有する。	3 豊かな人間性 食に関する幅広い知識・興味・関心に基づき、人が健全な食生活を送るために、他者と目的を共有し、協働できるように自らを高めることができる。	—	
DPとの関連	◎	○	○		
※関連するDP番号に○（複数可）、最も関連部会DP番号は◎（1か所のみ）					

授業計画		担当者
第1回	栄養指導の概念(栄養指導の意義・目的)	改元
第2回	栄養指導の概念(栄養士と栄養指導、前半)	改元
第3回	栄養指導の概念(栄養士と栄養指導、後半)	改元
第4回	栄養指導の変遷(栄養指導・栄養改善の変遷、前半)	改元
第5回	栄養指導の変遷(栄養指導・栄養改善の変遷、後半)	改元
第6回	栄養指導の変遷(栄養指導の現状と展望、前半)	改元
第7回	栄養指導の変遷(栄養指導の現状と展望、後半)	改元
第8回	栄養指導マネジメント(栄養指導の進め方)	改元
第9回	栄養指導マネジメント(栄養指導の技術)	改元
第10回	行動変容に関する理論(行動変容の理論・モデル・概念)前半	改元
第11回	行動変容に関する理論(行動変容の理論・モデル・概念)後半	改元
第12回	行動変容に関する理論(カウンセリング)前半	改元
第13回	行動変容に関する理論(カウンセリング)後半	改元
第14回	栄養指導と情報の収集・処理(栄養指導に必要な情報)	改元
第15回	総論のまとめ、および栄養指導各論に向けて	改元

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ ICT教育等を府k無
	○				

担当教員の実務経験と授業の関連	病院管理栄養士の実務経験を活かして、栄養指導について教授する。		
事前学習	テキストを読み、わからない語句を事前に調べておく	学習合計時間(h)	30
事後学習	テキストを読み直し、より詳しく知りたいところを調べ、理解できなかったところは質問する	学習合計時間(h)	30
課題に対するフィードバックの方法	課題(定期試験を含む)を課した場合は、評価に対する改善点を個別に対応する。		
質問・相談方法	授業の前後、およびオフィスアワー等に対応する。		
オフィスアワー	金曜日 13:00～14:00 研究室(本館 504号室)		

テキスト	『エスカパーシク栄養指導論第三版』古畑公、田中弘之他 同文書院 2025年 未発売〇〇円(税抜) (ISBN987-4-8103-XXXX-X) 『イラスト栄養教育・栄養指導論 第5版』 城田 知子他 東京教学社 2019年 2,200円(税抜) (ISBN978-4-8082-6063-7) 『日本人の食事摂取基準(2020
参考文献等	特になし
成績評価基準	栄養指導の概念やそれに伴う知識や技術の理解、および習得が達成されたものは合格とする。
成績評価の方法	定期試験の成績(95%)、受講態度(5%)で成績を評価する。
GPA基準	
備考	他学科開放科目

科目名	栄養指導論Ⅱ		科目ナンバー	S22202
担当者	改元 香			
科目	—			
施工規則に定める科目区分 または事項等	—			
授業形式	講義			
配当年次	1	科目群	専門科目「栄養の指導」	
開講期	後期	卒業の選択・必修	選択	
単位数	2	担当形態	単独	
免許・資格情報	必修：栄養士、栄養教諭 選択必修：こども食物アレルギー実務課程、(▲4単位)ピアヘルパー認定試験受験資格			

授業の概要	栄養指導論Ⅰで学んだ基礎知識・技法をもとに、ライフステージ・ライフスタイル別の生活習慣の実態と問題点を把握し、対象者の状況に応じた具体的な栄養指導の手法について講義する。栄養指導の目的を達成するために、健康増進につながる望ましい食習慣の確立や、適切な食事療法の実践などによるＱＯＬ(生活の質)の向上を目指して、食行動変容の実現を促す方法を講義する。また、望ましい食生活を実践するための食事計画の立案を通して、食に関する自己管理能力を育成する方法を講義する。			
授業の到達目標	1. 対象者に対して計画的に問題を解決することができる2. 対象者に応じた栄養教育を媒体を使用して実施することができる3. 行動変容の評価ができ、改善点を見出すことができる			
ディプロマポリシー(DP)	1 食物・栄養に必要な専門性 健康の基盤となる食物と栄養に関する専門的な知識と技能を修得し、時代と社会の要請に応える力を有する。	2 課題解決能力 修得した食に関する知識と技能を活かし、地域や現代社会の食に関わる身近な課題を見出し、それを解決に導くために求められる能力を有する。	3 豊かな人間性 食に関する幅広い知識・興味・関心に基づき、人が健全な食生活を送るために、他者と目的を共有し、協働できるように自らを高めることができる。	—
DPとの関連	○	◎		
※関連するDP番号に○(複数可)、最も関連部会DP番号は◎(1か所のみ)				

授業計画		担当者
第1回	ライフステージ別栄養指導(妊娠期・授乳期)	改元
第2回	ライフステージ別栄養指導(乳児期)	改元
第3回	ライフステージ別栄養指導(幼児期)	改元
第4回	ライフステージ別栄養指導(幼児期、保育所給食)	改元
第5回	ライフステージ別栄養指導(学童期・思春期)	改元
第6回	ライフステージ別栄養指導(成人期・高齢期)	改元
第7回	ライフスタイルと栄養指導(青年期・中高年期・高齢期の単身者)	改元
第8回	食物アレルギーと栄養指導	改元
第9回	健康障害と栄養指導(糖尿病とは)	改元
第10回	健康障害と栄養指導(糖尿病療養指導のための食品交換表の基礎)	改元
第11回	健康障害と栄養指導(糖尿病療養指導のための食品交換表の使い方)	改元
第12回	健康障害と栄養指導(糖尿病療養指導のための食品交換表の応用)	改元
第13回	健康障害と栄養指導(腎臓病とは)	改元
第14回	健康障害と栄養指導(腎臓病食品交換表の基礎)	改元
第15回	健康障害と栄養指導(腎臓病食品交換表の応用)	改元

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ ICT教育等を府k無
	○				

担当教員の実務経験と授業の関連	病院管理栄養士の実務経験を活かして、栄養指導について教授する。		
事前学習	テキストを読み、わからない語句を事前に調べておく	学習合計時間(h)	30
事後学習	理解できなかったところは質問し、課された課題は必ず取り組む	学習合計時間(h)	30
課題に対するフィードバックの方法	課題(定期試験を含む)を課した場合は、評価に対する改善点を個別に対応する。		
質問・相談方法	授業の前後、およびオフィスアワー等に対応する。		
オフィスアワー	金曜日 13:00～14:00 研究室(本館 504号室)		

テキスト	『エスカパーシク栄養指導論第三版』古畑公、田中弘之他 同文書院 2025年未発売 X,XXX円（税抜）(ISBN978-4-8103-XXXX-X) 『イラスト栄養教育・栄養指導論 第5版』 城田 知子他 東京教学社 2019年 2,200円(税抜) (ISBN978-4-8082-6063-7) 『日本人の食事摂取基準(2020
参考文献等	特になし
成績評価基準	対象者の状況に応じた栄養指導の知識や技法の理解、および習得が達成されたものは合格とする。
成績評価の方法	定期試験の成績(100%)で成績を評価する。
GPA基準	
備考	他学科開放科目

科目名	公衆栄養学		科目ナンバー	S21207
担当者	改元 香			
科目	—			
施工規則に定める科目区分 または事項等	—			
授業形式	講義			
配当年次	1	科目群	専門科目 [栄養の指導]	
開講期	後期	卒業の選択・必修	必修	
単位数	2	担当形態	単独	
免許・資格情報	必修：栄養士、栄養教			

授業の概要	集団の健康問題が栄養管理上どのような因子に基づくのか、そしてその問題解決に栄養はどうあるべきなのかについて講義する。また、わが国の栄養摂取の変遷と国民の健康と栄養状態の関連性を含め、これからの公衆栄養活動について講義する。			
授業の到達目標	1. 公衆栄養学の概念を理解し、説明できる2. わが国の栄養政策を理解し、説明できる3. 栄養疫学を理解し、図表が示していることを説明できる			
ディプロマポリシー (DP)	1 食物・栄養に必要な専門性 健康の基盤となる食物と栄養に関する専門的な知識と技能を修得し、時代と社会の要請に応える力を有する。	2 課題解決能力 修得した食に関する知識と技能を活かし、地域や現代社会の食に関わる身近な課題を見出し、それを解決に導くために求められる能力を有する。	3 豊かな人間性 食に関する幅広い知識・興味・関心に基づき、人が健全な食生活を送るために、他者と目的を共有し、協働できるように自らを高めることができる。	—
DPとの関連	◎	○	○	
※関連するDP番号に○（複数可）、最も関連部会DP番号は◎（1か所のみ）				

授業計画		担当者
第1回	公衆栄養の概念(公衆栄養の意義、役割)	改元
第2回	公衆栄養の概念(公衆栄養学の発展)	改元
第3回	公衆栄養の概念(公衆栄養活動)	改元
第4回	健康・栄養問題の現状と課題(国民健康・栄養調査結果の概要)	改元
第5回	健康・栄養問題の現状と課題(食生活の変遷)	改元
第6回	健康・栄養問題の現状と課題(食糧需給と自給率)	改元
第7回	健康・栄養政策(わが国の公衆栄養行政)	改元
第8回	健康・栄養政策(公衆栄養関連法規、前半)	改元
第9回	健康・栄養政策(公衆栄養関連法規、後半)	改元
第10回	健康・栄養政策(栄養指導の指針、ツール)	改元
第11回	地域・職域における食環境整備(食物・情報へのアクセス)	改元
第12回	地域・職域における食環境整備(地域・職域における栄養士の業務等)	改元
第13回	地域・職域における食環境整備(災害時の栄養対策)	改元
第14回	世界の主要な健康・栄養問題(先進国・開発途上国)	改元
第15回	世界の主要な健康・栄養問題(栄養にかかわる国際機関)	改元

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ ICT教育等を府k無
	○				

担当教員の実務経験と授業の関連	病院管理栄養士の実務経験を活かして、公衆栄養学について教授する。		
事前学習	テキストを読み、わからない語句を事前に調べておく	学習合計時間(h)	30
事後学習	理解できなかったところは質問する	学習合計時間(h)	30
課題に対するフィードバックの方法	課題(定期試験を含む)を課した場合は、評価に対する改善点を個別に対応する。		
質問・相談方法	授業の前後、およびオフィスアワー等に対応する。		
オフィスアワー	金曜日 13:00～14:00 研究室(本館 504号室)		

テキスト	『エスカパーシク 公衆栄養学概論 2025/2026』 古畑公・田中弘之編著 同文書院 2012年 1,905円(税抜) (ISBN978-4-8103-1478-6)		
参考文献等	特になし		
成績評価基準	集団の健康問題を把握し、問題解決に栄養はどうあるべきなのか理解することができたものは合格とする。		
成績評価の方法	定期試験の成績(100%)で成績を評価する。		
GPA基準			
備考	他学科開放科目		

科目名	給食管理		科目ナンバー	S21208
担当者	児玉　むつみ			
科目	—			
施工規則に定める科目区分 または事項等	—			
授業形式	講義			
配当年次	1	科目群	専門科目 [給食の運営]	
開講期	後期	卒業の選択・必修	必修	
単位数	2	担当形態	単独	
免許・資格情報	必修：栄養士、栄養教　　選択必修：こども食物アレルギー実務課程			

授業の概要	給食の概念および意義を説明し、給食利用者に対応した栄養・食事管理に関する基礎的知識を講義する。更に特定給食施設で給食を運営するための計画から提供までの各種業務(食材管理、調理・作業管理、安全・衛生管理、施設・設備管理など)に関する基礎的知識を習得させる。			
授業の到達目標	1. 給食の意義および給食管理の概要について理解できる 2. 大量調理施設衛生管理マニュアルに基づいた安全・衛生管理について理解できる 3. 献立計画を作成し、作業工程などの調理作業管理について理解できる ？大量調理における食物アレルギー対応について説明できる			
ディプロマポリシー(DP)	1 食物・栄養に必要な専門性 健康の基盤となる食物と栄養に関する専門的な知識と技能を修得し、時代と社会の要請に応える力を有する。	2 課題解決能力 修得した食に関する知識と技能を活かし、地域や現代社会の食に関わる身近な課題を見出し、それを解決に導くために求められる能力を有する。	3 豊かな人間性 食に関する幅広い知識・興味・関心に基づき、人が健全な食生活を送るために、他者と目的を共有し、協働できるように自らを高めることができる。	—
DPとの関連	◎	○		
※関連するDP番号に○(複数可)、最も関連部会DP番号は◎(1か所のみ)				

授業計画		担当者
第1回	第1章「オリエンテーション、給食の概念、特定給食施設	児玉
第2回	第2章給食の栄養・食事管理(利用者のアセスメント、給与栄養目標量、献立計画)	児玉
第3回	第2章給食の栄養・食事管理(献立作成、利用者に対応した食事提供、嗜好調査など)	児玉
第4回	第2章給食の栄養・食事管理(献立作成課題等)	児玉
第5回	第3章給食の安全・衛生管理(HACCP、安全・衛生教育)	児玉
第6回	第7章保健・医療・福祉・介護における給食施設の特徴、委託について	児玉
第7回	第4章事故・災害対策(インシデントレポート、災害への対応)、食物アレルギー対応	児玉
第8回	第5章給食の調理管理(食材管理、契約方式、発注書、保管、在庫管理、食材費)	児玉
第9回	第6章給食の施設・設備管理(調理機器・器具・食器、レイアウト)	児玉
第10回	第8章給食の組織・人事管理、帳簿、コンピューターの活用第9章給食の会計・原価管理	児玉
第11回	第9章給食の会計・原価管理、第3章給食の安全・衛生管理(ノロウイルス対策)	児玉
第12回	第3章給食の安全・衛生管理(大量調理施設衛生管理マニュアル)	児玉
第13回	第5章給食の調理管理(作業工程表・作業動線図)	児玉
第14回	第5章給食の調理管理(大量調理の特徴・品質、調味の標準化)	児玉
第15回	まとめ、給食管理実習の運営管理計画	児玉

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ ICT教育等を府k無
	○				○

担当教員の実務経験と授業の関連	栄養教諭の実務経験を活かして、給食管理、食物アレルギー対応について教授する。				
事前学習	テキストや配布プリントを読み、事前学習を行うこと。また、卒業生のレシピ集などを見て参考にする			学習合計時間(h)	30
事後学習	授業では前回の学習内容について小テストを実施するので復習をしておくこと。2年生の給食管理実習ⅠおよびⅡにおける大量調理を喫食し、授業の予備知識を得ておくこと。			学習合計時間(h)	30
課題に対するフィードバックの方法	課題を課した場合は求めに応じ個別に対応し、次回授業時に全員に解説する。				
質問・相談方法	授業の前後やオフィシアワーで対応する。				
オフィシアワー	木曜日12：00～13：00 または 金曜日14：30～18：00 研究室(南館1階奥：104号室)				

テキスト	改訂 給食の運営―栄養管理・経営管理― 逸見幾代・平林真弓 建帛社2300円(税抜き)(ISBN978-4-7679-0663-8)給食管理実習・給食実務演習 実習ノート 児玉むつみ 2024年 ビジネス実用社2980円(税抜き) (ISBN978-4-910911-11-3)				
参考文献等	『栄養士・管理栄養士のためのなぜどうして?6給食経営管理論』 医療情報化学研究所 メディックメディア 2018年 1500円(税抜き) (978-4-89632-729-8)八訂食品成分表 香川明夫監修 女子栄養大学 1400円(税抜き)(978-4-7895-1019-6)				
成績評価基準	給食の意義目的や特徴、給食運営に必要な大量調理・衛生管理について理解でき、次年度の給食管理実習の運営計画が概ね立案できたものは合格とする。また、大量調理における食物アレルギー対応のポイントについて説明できること。				
成績評価の方法	定期試験(80%)、小テスト(10%)、課題提出物(10%)により総合的に評価する。但し、レポートで代替する場合がある。				
G P A 基準					
備考	他学科開放科目				

科目名	調理学		科目ナンバー	S21108
担当者	山下 三香子			
科目	—			
施工規則に定める科目区分 または事項等	—			
授業形式	講義			
配当年次	1	科目群	専門科目 [給食の運営]	
開講期	前期	卒業の選択・必修	必修	
単位数	2	担当形態	単独	
免許・資格情報	必修：栄養士、栄養教			

授業の概要	食べることは栄養摂取のためだけでなく生活に潤いやリズムを作り、食事を共に摂ることで人間関係を良好にしたり精神的安定を得られるなど人間生活全体を豊かにするものである。また、調理は食材を料理にかえる最終段階を担う。よってその操作の適否が食べ物の美味しさに影響するところは極めて大きい。調理学ではその概要を知り、調理操作や食品の調理特性を中心に学ばせる。これらの理論を基に調理技術の向上や食生活の実践に役立つ理論を修得させる。			
授業の到達目標	1. 調理学の意義や役割を理解する2. 調理操作全般について知る3. 食品素材別の調理法について知る			
ディプロマポリシー (DP)	1 食物・栄養に必要な専門性 健康の基盤となる食物と栄養に関する専門的な知識と技能を修得し、時代と社会の要請に応える力を有する。	2 課題解決能力 修得した食に関する知識と技能を活かし、地域や現代社会の食に関わる身近な課題を見出し、それを解決に導くために求められる能力を有する。	3 豊かな人間性 食に関する幅広い知識・興味・関心に基づき、人が健全な食生活を送るために、他者と目的を共有し、協働できるように自らを高めることができる。	—
DPとの関連	◎	○		
※関連するDP番号に○（複数可）、最も関連部会DP番号は◎（1か所のみ）				

授業計画		担当者
第1回	調理学の基本：食文化と食べ物のおしさ	山下
第2回	調味料・香辛料の調理科学	山下
第3回	調理操作と調理機器：非加熱調理器具	山下
第4回	調理操作と調理機器：加熱調理操作	山下
第5回	調理操作と調理器具：加熱調理器具	山下
第6回	植物性食品の調理科学；米と小麦	山下
第7回	植物性食品の調理科学；イモ類	山下
第8回	植物性食品の調理科学；豆類、種実	山下
第9回	植物性食品の調理科学；野菜類	山下
第10回	植物性食品の調理科学；果物、きのこ、海藻	山下
第11回	動物性食品の調理科学；食肉類	山下
第12回	動物性食品の調理科学；食魚介類	山下
第13回	動物性食品の調理科学；卵、乳製品	山下
第14回	油脂類の調理科学、ゲル化剤・とろみ剤の調理科学	山下
第15回	総まとめ・補足説明等	山下

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ ICT教育等を府k無
	○		○		
担当教員の実務経験と授業の関連					
事前学習	今回の授業範囲についてテキストを読む。			学習合計時間(h)	30
事後学習	復習として、専門用語の意味を理解する 出題された問題に答える日頃から調理操作を実行する			学習合計時間(h)	30
課題に対するフィードバックの方法	提出した課題は、今回の授業で返却し質問にはその用紙にて回答し、必要な場合は解説を行う。				
質問・相談方法	毎時授業時に振り返りと質問をうける。相談等は授業時やノートを介して行う。				
オフィスアワー	随時				
テキスト	『調理学』 久木久美子ほか 化学同人 最新版 2,300円(税抜き)(ISBN9784759814507) 『食品成分表』 香川明夫監修 女子栄養大学出版部 最新版 1,700円(税抜き)(ISBN978-4-7895-1018-9)				
参考文献等	『原色食品図鑑』 菅原、井上編集 建帛社 最新版 2,900円(税抜き)(ISBN978-4-7679-6120-0)				
成績評価基準	調理学の意義や役割を理解し、基本的な調理操作について理解できていると判断された場合は、合格とする。				
成績評価の方法	期末試験(80%)や課題レポート(10%)、受講態度(10%)により総合的に判定する。				
GPA基準					
備考					

科目名	調理学実習基礎		科目ナンバー	S21109
担当者	堂園 直子			
科目	—			
施工規則に定める科目区分 または事項等	—			
授業形式	講義・実習			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	科目群	専門科目 [給食の運営]	
開講期	前期	卒業の選択・必修	選択	
単位数	1	担当形態	単独	
免許・資格情報	必修：栄養士、栄養教			

授業の概要	調理学で学ぶ調理操作について実践させ、理論と関連付けた基礎的・基本的調理技術が身に着くように指導する。また、実習で学習した内容をレポートにまとめ、提出を求める。レポートをまとめることで復習・整理ができ、次の実習へと活かせるようにする。			
授業の到達目標	1. 調理学実習を通して基礎となる調理の理論や技術を学ぶ2. 作業効率を考えて調理操作を計画的に実践できる力を身につける			
ディプロマポリシー (DP)	1 食物・栄養に必要な専門性 健康の基盤となる食物と栄養に関する専門的な知識と技能を修得し、時代と社会の要請に応える力を有する。	2 課題解決能力 修得した食に関する知識と技能を活かし、地域や現代社会の食に関わる身近な課題を見出し、それを解決に導くために求められる能力を有する。	3 豊かな人間性 食に関する幅広い知識・興味・関心に基づき、人が健全な食生活を送るために、他者と目的を共有し、協働できるように自らを高めることができる。	—
DPとの関連	◎	○	○	
※関連するDP番号に○（複数可）、最も関連部会DP番号は◎（1か所のみ）				

授業計画			担当者
第1回	講義 オリエンテーション、調理の意義・目的、レポートのまとめ方、栄養計算の方法		堂園
第2回	実習1(計量・切断1)オレンジソースのクレープ、サラダ		堂園
第3回	実習2(計量・切断2)おにぎり、豚汁、浅漬け		堂園
第4回	講義 レポート作成の確認、ビタミン損耗の計算、価格の計算		堂園
第5回	実習3(日本料理)白飯・味噌汁・魚の幽庵焼き・青菜のお浸し・うさぎりんご		堂園
第6回	実習4(日本料理)芋ごはん・吉野鶏のすまし汁・煮魚・オレンジ羹・緑茶		堂園
第7回	実習5(西洋料理)スパゲッティミートソース・マセドアンサラダ・フルーツヨーグルト・紅茶		堂園
第8回	実習6(西洋料理)ピラフ・若鶏のクリーム煮・アスパラガスのサラダ・ブランマンジェ・コーヒ		堂園
第9回	実習7(中国料理)鍋炊きごはん・八宝菜・肉団子のスープ・芒果布甸・ウーロン茶		堂園
第10回	実習8(中国料理)冷やし中華・麻婆豆腐・牛?豆腐・ジャスミン茶		堂園
第11回	実習9(折衷料理)麦ごはん・かき卵汁・豚肉の生姜焼・中華風酢の物・ミルクプリン		堂園
第12回	講義 確認テスト・調理学実習基礎のまとめ		堂園
第13回	—		—
第14回	—		—
第15回			

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ ICT教育等を府k無
	○	○		○	

担当教員の実務経験と授業の関連				
事前学習	毎時間の事前資料を基に、料理レシピをフローチャート化し、実習の流れをイメージする。			学習合計時間(h) 15
事後学習	毎時間ごとに学習した内容をレポートにまとめ提出する 日々調理に携わり、食材の切り方等に慣れ技術の向上に努める			学習合計時間(h) 20
課題に対するフィードバックの方法	提出されたレポートを評価し、授業の中で解説する。必要に応じて個別に回答する。			
質問・相談方法	授業終了後で対応する。			
オフィスアワー	水曜日 授業の前後 講義室			

テキスト	実習内容プリント(事前配布) 『食品成分表』(最新版)香川明夫監修 女子栄養大出版部 最新版 1400円(税抜き) (ISBN13:9784789510196)※「NEW調理と理論」は削除
参考文献等	『調理学の基本』 中嶋加代子編著 同文書院 ※講義や実習で配布するプリントも活用すること。
成績評価基準	実習・課題レポートを全て提出し、調理学の知識や調理の要点を習得したと認められた者を合格とする。
成績評価の方法	実習・課題レポート(65%) 受講態度(10%) 実技・定期試験(25%) 以上により到達目標を達成しているか総合的に評価する。
GPA基準	
備考	※授業が実習や実験の場合で、地震や台風などの自然災害や交通の影響で通学できない学生が少数いた場合、通常の班編成を一部変更して実施する。多数の場合は休講し、補講を行う。※病欠等でやむなく授業に参加できない場合でも学習内容を理解するためにレポートは必ず提出すること。

科目名	調理学実習Ⅰ		科目ナンバー	S22203
担当者	山下 三香子			
科目	—			
施工規則に定める科目区分 または事項等	—			
授業形式	実習			
配当年次	1	科目群	専門科目 [給食の運営]	
開講期	後期	卒業の選択・必修	選択	
単位数	1	担当形態	単独	
免許・資格情報	必修：栄養士、栄養教			

授業の概要	食生活を健康に営むために、科学的・合理的な調理法や調理技術を学ばせる。内容は、日本料理、西洋料理、中国料理を中心にそれぞれの料理様式の特徴を学び実習を実施することでより理解を深めさせる。また、郷土料理や行事食を体験し日本の食文化を継承する意義について学ばせる。さらに、健康で楽しく適切な食生活のあり方について、常に季節や旬の食材を意識し一汁三菜を基本とした日常食の献立立案と実践力を育成する。				
授業の到達目標	1. 調理学実習の心得を意識して実習に臨むことができる2. 基本的な調理の知識・技術を身につけて調理ができる3. グループで協力し、他者との協調・協働を学び、安心・安全な料理を提供できる				
ディプロマポリシー (DP)	1 食物・栄養に必要な専門性 健康の基盤となる食物と栄養に関する専門的な知識と技能を修得し、時代と社会の要請に応える力を有する。	2 課題解決能力 修得した食に関する知識と技能を活かし、地域や現代社会の食に関わる身近な課題を見出し、それを解決に導くために求められる能力を有する。	3 豊かな人間性 食に関する幅広い知識・興味・関心に基づき、人が健全な食生活を送るために、他者と目的を共有し、協働できるように自らを高めることができる。	—	
DPとの関連	○	◎	○		
※関連するDP番号に○（複数可）、最も関連部会DP番号は◎（1か所のみ）					

授業計画			担当者
第1回	調理学実習の心得と実習実施のための諸注意と基本調理の確認		山下
第2回	日本料理の特徴と調理1(さんまの煮物、茶わん蒸し、十五夜団子他)		山下
第3回	日本料理の特徴と調理2 (炊きおこわ、炒り鶏、わらびもち他)		山下
第4回	西洋料理の特徴と調理1(冷静スープ、ひき肉料理、プリン他)		山下
第5回	西洋料理の特徴と調理2(朝食のパンケーキ、卵の扱い他)		山下
第6回	行楽弁当(稲荷、だし巻き卵、小倉菓子他)		山下
第7回	中国料理の特徴と調理1(コーンスープ、春巻き、エビのチリソース煮他)		山下
第8回	中国料理の特徴と調理2(中華まん、クリーム煮他)		山下
第9回	西洋料理の特徴と調理3(クリスマス料理)		山下
第10回	日本料理の特徴と調理3(正月料理)		山下
第11回	魚食普及と魚料理講習会(魚の卸し方と調理)		山下
第12回	和食の朝食・レシピ作り(野菜の皮むき、切り方の確認)		山下
第13回	実技・定期試験		山下
第14回			
第15回			

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ ICT教育等を府k無
	○	○		○	
担当教員の実務経験と授業の関連					
事前学習	毎時間の事前資料を基に、料理レシピをフローチャート化し、実習の流れをイメージする。			学習合計時間(h)	5
事後学習	毎時間ごとに学習した内容、や調べたことをノートにまとめ提出する。日々調理に携わり、食材の切り方等に慣れ技術の向上に努める。			学習合計時間(h)	10
課題に対するフィードバックの方法	提出物に対し、評価基準に従い評価し早めに学生に返却する。質問事項がある場合は、ノートや個別に回答する。				
質問・相談方法	質問・相談等は授業時とノートを介してに行う。				
オフィスアワー	随時				
テキスト	『調理実習ノート』 女子栄養大学出版 300円（税抜き）（978-4-7895-5415-2）他、実習レシピは毎時間配布する。				
参考文献等	『原色食品図鑑』 菅原、井上編集 建帛社 最新版 2,900円(税抜き)(ISBN978-4-7679-6120-0)				
成績評価基準	実習・課題レポートを全て提出し、調理学の知識や調理の要点を習得したと認められた者を合格とする。				
成績評価の方法	実習・課題レポート30% 受講態度40% 実技・定期試験30% 以上により到達目標を達成しているか総合的に評価する。				
GPA基準					
備考	教育効果向上のため、2コマ(180分)×13回で実施する。※病欠等でやむなく授業に参加できない場合でも学習内容を理解するためにレポートは必ず提出すること。				

科目名	化学		科目ナンバー	S21102
担当者	大賀 早希			
科目	—			
施工規則に定める科目区分 または事項等	—			
授業形式	講義			
配当年次	1	科目群	専門科目【関連科目】	
開講期	前期	卒業の選択・必修	選択	
単位数	2	担当形態	単独	
免許・資格情報	選択：栄養士、栄養教			

授業の概要	高校までの化学を簡単におさらいしながら、栄養生化学を学ぶために必要な化学の基礎知識を身につけさせる。これにより、高校で化学を学んでいない学生の、栄養生化学へのスムーズな接続を可能にする。			
授業の到達目標	1. 物質の状態について分子レベルで説明ができるようになる2,三大栄養素の構造について化学的に理解できる。2.調理に必要な濃度計算ができる			
ディプロマポリシー (DP)	1 食物・栄養に必要な専門性 健康の基盤となる食物と栄養に関する専門的な知識と技能を修得し、時代と社会の要請に応える力を有する。	2 課題解決能力 修得した食に関する知識と技能を活かし、地域や現代社会の食に関わる身近な課題を見出し、それを解決に導くために求められる能力を有する。	3 豊かな人間性 食に関する幅広い知識・興味・関心に基づき、人が健全な食生活を送るために、他者と目的を共有し、協働できるように自らを高めることができる。	—
DPとの関連	◎	○		
※関連するDP番号に○（複数可）、最も関連部会DP番号は◎（1か所のみ）				

授業計画		担当者
第1回	オリエンテーション、化学とは	大賀
第2回	物質の構成：原子と元素	大賀
第3回	電子、電荷、周期表	大賀
第4回	化学結合（イオン結合、共有結合）	大賀
第5回	原子量、分子量、式量	大賀
第6回	物質量、化学反応式	大賀
第7回	物質の状態と性質（溶媒、溶質）	大賀
第8回	酸と塩基	大賀
第9回	酸化還元反応	大賀
第10回	化学反応（反応速度、活性化エネルギー）	大賀
第11回	体液の酸塩基平衡	大賀
第12回	身近な有機化合物	大賀
第13回	官能基による分類	大賀
第14回	有機酸、エステル、アミン	大賀
第15回	食品に見る生体物質	大賀

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ ICT教育等を府k無
	○				○
担当教員の実務経験と授業の関連					
事前学習	関連の内容について高校までに学んだことの復習をしておくこと。			学習合計時間(h)	20
事後学習	各回の課題を復習しておくこと。特に、課題をクリアできなかった場合には、理解出来るまで重点的に行うこと。また、			学習合計時間(h)	40
課題に対するフィードバックの方法	課題をクリアできなかった学生には個別に対応する。				
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワー等に対応する。また、必要に応じてメール等による質問・相談も受け付ける。				
オフィスアワー	火曜日12：20～13：10 研究室				
テキスト	『生理学・生化学につながる ていねいな化学』、白戸亮吉、小川由香里、鈴木研太／著、羊土社、2019年、2,000円（税抜き）、ISBN 978-4-7581-2100-2				
参考文献等	『食を中心とした化学』 北原重登、塚本貞次、野中靖臣、水崎幸一 著、東京教学社 2021年 2,200円(税抜き) (ISBN978-4808230562)				
成績評価基準	糖質、脂質、たんぱく質の構造についてイメージができ、かつそれらの消化や燃焼等の反応が説明できる。 濃度の概念が理解でき、基礎的な濃度計算ができるようになる。				
成績評価の方法	平常点（30％）、定期試験(70％)で評価する。試験をオンラインで実施する場合がある。				
G P A 基準					
備考	他学科開放科目 高校で化学を学んでいないもの、化学に苦手意識を持つもの、化学に自信がないものは、受講することが望ましい。				

科目名	学校栄養教育論		科目ナンバー	S21110
担当者	児玉 むつみ			
科目	栄養に係る教育に関する科目			
施工規則に定める科目区分 または事項等	栄養教諭の役割及び職務内容に関する事項			
授業形式	講義			
配当年次	1	科目群	専門科目 [関連科目]	
開講期	前期	卒業の選択・必修	選択	
単位数	2	担当形態	単独	
免許・資格情報	必修：栄養教 選択：栄養士			

授業の概要	児童生徒を取り巻く食の課題を踏まえ、栄養教諭の役割・職務内容及び食に関する指導の目標など学校給食を「生きた教材」として、学校教育活動全体で「食に関する指導」に取り組む重要性を講義する。さらに、各教科等や家庭・地域における連絡・調整などについて解説する。食に関する指導と給食の管理を一体のものとして行う栄養教諭の職務について総合的に理解させる。			
授業の到達目標	1. 児童生徒を取り巻く食の課題を踏まえ、栄養教諭としての使命や職務内容の重要性を理解できる 2. 教育に関する専門性及び栄養に関する専門性を横断的に身に付けることができる 3. 食に関する指導の方法を理解し、実践力に繋げることができる			
ディプロマポリシー(DP)	1 食物・栄養に必要な専門性 健康の基盤となる食物と栄養に関する専門的な知識と技能を修得し、時代と社会の要請に応える力を有する。	2 課題解決能力 修得した食に関する知識と技能を活かし、地域や現代社会の食に関わる身近な課題を見出し、それを解決に導くために求められる能力を有する。	3 豊かな人間性 食に関する幅広い知識・興味・関心に基づき、人が健全な食生活を送るために、他者と目的を共有し、協働できるように自らを高めることができる。	一
DPとの関連	◎	○		
※関連するDP番号に○（複数可）、最も関連部会DP番号は◎（1か所のみ）				

授業計画			担当者
第1回	オリエンテーション 栄養教諭の制度と役割および学校組織と栄養教諭		児玉
第2回	学校給食と日本人の食生活、学校給食の歴史、はしの使い方、郷土料理		児玉
第3回	子どもの発達と食生活、児童生徒を取り巻く食の課題、第4次食育推進基本計画		児玉
第4回	学習指導要領と食育のあり方、食に関する指導の全体計画、食に関する指導の手引		児玉
第5回	年間指導計画、給食の時間における食に関する指導、給食だより作成におけるディスカッション		児玉
第6回	学校給食における栄養管理、学校給食摂取基準		児玉
第7回	学校給食における衛生管理、学校給食衛生管理基準		児玉
第8回	各教科における食に関する指導の展開、模範給食指導のグループワーク		児玉
第9回	体育科における食に関する指導、学習指導要領		児玉・A
第10回	家庭科における食に関する指導、模擬給食指導発表		児玉
第11回	特別活動(学級活動)における食に関する指導、模擬給食発表		児玉
第12回	学校給食におけるリスクマネジメント、模擬給食指導発表		児玉
第13回	個別栄養相談指導、食物アレルギー対応、模擬給食指導発表		児玉
第14回	家庭・地域と連携した食に関する指導、実践事例		児玉
第15回	まとめ、総括、教員による模擬授業（ICT活用を含む）		児玉

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ ICT教育等を府k無
	○	○	○		○

担当教員の実務経験と授業の関連	栄養教諭の実務経験を活かして、学校栄養教育について教授する。		
事前学習	テキストにより、事前学習を行うこと。	学習合計時間(h)	30
事後学習	授業では前回の学習内容について小テストを実施するので復習をしておくこと。	学習合計時間(h)	30
課題に対するフィードバックの方法	課題を課した場合は求めに応じ個別に対応し、次回授業において全員に解説する。		
質問・相談方法	授業の前後やオフィシアワー等で対応する。		
オフィシアワー	木曜日12：00～13：00 または 金曜日14：30～18：00 研究室(南館1階奥：104号室)		

テキスト	『四訂 栄養教諭論：一理論と実際－』金田 雅代編 建帛社 2022年 2800円(税抜き)(ISBN978-4-7679-2119-8)食に関する指導の手引 第二次改訂版 文部科学省 (ISBN978-4-7797-0496-3) 1300円
参考文献等	小学校学習指導要領 文部科学省小学校学習指導要領解説 総則編、家庭編、特別活動編、体育編 文部科学省栄養教諭を中核としたこれからの学校の食育 文部科学省食生活食育教材 楽しい食事 つながる食育 文部科学省
成績評価基準	栄養教諭の役割・職務内容、児童生徒を取り巻く食に関する諸課題、学校給食を生かした食に関する指導の方法を理解し説明したり発表したりできたものは合格とする。
成績評価の方法	定期試験(60%)、小テスト(10%)、課題提出物(20%)、模擬給食指導発表(10%)により総合的に評価する。但し、レポートで代替する場合がある。
G P A 基準	
備考	A：大村

科目名	くらしとお茶 A			科目ナンバー	S23101
担当者	木戸 めぐみ、徳田 明彦、中禮 雅治				
科目	—				
施工規則に定める科目区分 または事項等	—				
授業形式	講義				
配当年次	1	科目群	専門科目 [関連科目]		
開講期	前期	卒業の選択・必修	選択		
単位数	2	担当形態	複数		
免許・資格情報	選択：栄養士、栄養免 選択必修：日本茶アドバイザー				

授業の概要	茶は2千年以上にわたり、人類に好まれてきた歴史のある飲み物である。多くの研究により、茶の効能・効果が明らかになり、健康飲料として認知される一方、茶の淹れ方や文化を知らない人も増えている。この授業では、茶の歴史や栽培法、機能性、性質や利用法に関する講義や、品質検査・鑑定法、お茶の淹れ方等の実習を行う。これらの学びを通して日本茶アドバイザーとして必要な知識を身につけ、茶文化の発展と普及に寄与する人材を育成する。				
授業の到達目標	1. 日本茶アドバイザーの意義、概要、役割を理解できるようになる2. 茶に関する知識と理解を深める				
ディプロマポリシー (DP)	1 食物・栄養に必要な専門性 健康の基盤となる食物と栄養に関する専門的な知識と技能を修得し、時代と社会の要請に応える力を有する。	2 課題解決能力 修得した食に関する知識と技能を活かし、地域や現代社会の食に関わる身近な課題を見出し、それを解決に導くために求められる能力を有する。	3 豊かな人間性 食に関する幅広い知識・興味・関心に基づき、人が健全な食生活を送るために、他者と目的を共有し、協働できるように自らを高めることができる。	—	
DPとの関連	◎	○			
※関連するDP番号に○（複数可）、最も関連部会DP番号は◎（1か所のみ）					

授業計画			担当者
第1回	オリエンテーション(日本茶アドバイザー認定までの説明)		木戸
第2回	歴史(日本茶、鹿児島茶の歴史を学ぶ)		松崎
第3回	茶の利用(茶を使った料理や活用法について学ぶ)		木戸
第4回	茶業のあらまし(茶の生産、消費、流通等を学ぶ)		徳田
第5回	茶の栽培(種類別栽培・方法を学ぶ)		徳田
第6回	茶の製造(製造方法を学ぶ)		徳田
第7回	茶の化学(化学成分、品質等を学ぶ)		木戸
第8回	茶の健康科学(効能、効果等を学ぶ)		大賀
第9回	茶の品質検査と鑑定(官能検査法を学ぶ)		中禮
第10回	茶の品質検査と鑑定(鑑定技術を学ぶ)		中禮
第11回	インストラクション技術(服装、話し方、接客)		石田
第12回	インストラクション技術(日本茶アドバイザーとして必要な項目)		中禮
第13回	インストラクション技術(日本茶アドバイザーとしての実技)		中禮
第14回	インストラクション技術(茶の淹れ方)		中禮
第15回	インストラクション技術(茶の鑑定の実際)		中禮

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ ICT教育等を府k無
		○	○	○	
担当教員の実務経験と授業の関連					
事前学習	授業前にテキストを読んでおく。課題や模擬試験に取り組み、自ら学習する。			学習合計時間(h)	30
事後学習	日常生活の中で、お茶の葉の種類、色や香り、味等を確認する。			学習合計時間(h)	30
課題に対するフィードバックの方法	課題が課された場合は、担当者が個別に指導を行う。				
質問・相談方法	基本的には、授業の前後で質問・相談に対応する。その他、オフィスアワーで対応する場合もある。				
オフィスアワー	集中講義開講期間 9：00～16：30（各講義室）				
テキスト	「日本茶アドバイザー講座Ⅰ、Ⅱ」NPO法人日本茶インストラクター協会(協会による実習費に含まれるため、テキスト代として単独販売は行わない)				
参考文献等	「シリーズ《食品の科学》茶の科学」村松敬一郎編、朝倉書店				
成績評価基準	日本茶アドバイザーの意義、概要、役割を理解し、茶に関する知識と理解が深められた者を合格とする。				
成績評価の方法	定期試験60分(70%)と実技テスト(30%)で総合的に評価する。				
GPA基準					
備考	夏季休暇集中講義				

科目名	教育心理学			科目ナンバー	S21112
担当者	篠原 美穂				
科目	教育の基礎的理解に関する科目				
施工規則に定める科目区分 または事項等	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程				
授業形式	講義				
配当年次	1	科目群	専門科目 [関連科目]		
開講期	前期	卒業の選択・必修	選択		
単位数	1	担当形態	単独		
免許・資格情報	選択：栄養士 必修：栄養教諭 選択必修：ピアヘルパー認定試験受験資格				

授業の概要	人の心身の発達および学習の過程や適応について基礎的な用語や代表的な理論について説明する。また各発達段階における心理的特徴について説明し、それらを踏まえた学習活動を支える指導の基礎となる考え方について解説する。また、事例を用いて具体的な支援の方向性を見出すグループワークを実施し、その解説を行う。			
授業の到達目標	1.学習、適応、発達(知能、社会性、道徳性)に関する基礎的な概念を理解し、説明できる2.学んだ理論と教育活動を関連させて考えることができる			
ディプロマポリシー(DP)	1 食物・栄養に必要な専門性 健康の基盤となる食物と栄養に関する専門的な知識と技能を修得し、時代と社会の要請に応える力を有する。	2 課題解決能力 修得した食に関する知識と技能を活かし、地域や現代社会の食に関わる身近な課題を見出し、それを解決に導くために求められる能力を有する。	3 豊かな人間性 食に関する幅広い知識・興味・関心に基づき、人が健全な食生活を送るために、他者と目的を共有し、協働できるように自らを高めることができる。	—
DPとの関連	○	○		
※関連するDP番号に○(複数可)、最も関連部会DP番号は◎(1か所のみ)				

授業計画		担当者
第1回	教育心理学とは/発達の原理	篠原
第2回	代表的は発達理論	篠原
第3回	代表的は学習理論	篠原
第4回	動機づけと学習	篠原
第5回	知能の構造と知的発達	篠原
第6回	個人差の理解(知能と個人差)	篠原
第7回	自己意識及び人間関係の発達について	篠原
第8回	社会性の発達/教育上の諸問題とその背景についての理解	篠原
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ICT教育等を府k無
	○	○			
担当教員の実務経験と授業の関連	小学校・中学校・高等学校におけるスクールカウンセラーとしての経験を活かし、教育相談の基本について授業を行う。				
事前学習	意味のわからない用語は辞書等で調べておく。			学習合計時間(h)	15
事後学習	配布された資料をレジュメと照合しながら整理する。			学習合計時間(h)	15
課題に対するフィードバックの方法	課題を課した場合(定期試験を含む)求めに応じて個別に対応する。				
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワー、また毎授業で実施する質問・感想記入シートへの回答で対応する。				
オフィスアワー	木曜日 12:30～14:20 研究室(西館304号室)				
テキスト	特になし				
参考文献等	『改訂版たのしく学べる最新教育心理学－教職に関わるすべての人に』 櫻井茂男(編) 図書文化 2019年 2,000円(税別)(ISBN978-4-8100-7690-5)				
成績評価基準	学習、適応、発達(知能、社会性、道徳性)に関する基礎的な概念を理解し、実証的なデータに基づき考えることができること。				
成績評価の方法	定期試験(80%)、受講態度(20%)で総合的に判定する。				
GPA基準					
備考	他学科開放科目				

科目名	教職概論		科目ナンバー	S21113
担当者	山元 有一			
科目	教育の基礎的理解に関する科目			
施工規則に定める科目区分 または事項等	教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）			
授業形式	講義			
配当年次	1	科目群	専門科目 [関連科目]	
開講期	前期	卒業の選択・必修	選択	
単位数	2	担当形態	単独	
免許・資格情報	選択：栄養士 必修：栄養教諭			

授業の概要	教員を社会的、歴史的、法的、倫理的に学ぶことを通して、教職を目指す者として知識面や人格面で今後何が必要であるのかを、自分自身を吟味しながら深めていく内容を提供する。			
授業の到達目標	・教諭の職務理解 ・教諭としての資質の理解と自己吟味			
ディプロマポリシー (DP)	1 食物・栄養に必要な専門性 健康の基盤となる食物と栄養に関する専門的な知識と技能を修得し、時代と社会の要請に応える力を有する。	2 課題解決能力 修得した食に関する知識と技能を活かし、地域や現代社会の食に関わる身近な課題を見出し、それを解決に導くために求められる能力を有する。	3 豊かな人間性 食に関する幅広い知識・興味・関心に基づき、人が健全な食生活を送るために、他者と目的を共有し、協働できるように自らを高めることができる。	—
DPとの関連			○	
※関連するDP番号に○（複数可）、最も関連部会DP番号は◎（1か所のみ）				

授業計画					担当者
第1回	なぜ家庭でなく学校、親でなく教員なのか？―学校と教員の存在意義				山元
第2回	教職の職業的特徴と使命―教育の専門家にして全体的人間としての教員				山元
第3回	自分自身を知ること―「子どもは教員の鏡」				山元
第4回	現代の社会と教育の動き―『教育要領』、『指導要領』からの読解と教員に求められる事柄				山元
第5回	栄養教諭の職務内容と求められる資質				山元
第6回	幼稚園や小学校における教諭の職務内容と求められる資質				山元
第7回	学校内での連携―教員間の連携、養護教諭や栄養教諭との連携（学校等のチーム化）				山元
第8回	小幼連携、小中連携、小保連携、地域との連携―学校等のチーム化（その2）				山元
第9回	子どもの理解を深め、教育力を上げるにはどうするか？―職員研修、生涯に渡る学習の必要性				山元
第10回	教育法規①―教育基本法				山元
第11回	教育法規②―学校教育法、学校教育法施行規則等				山元
第12回	服務規律・守秘義務について				山元
第13回	教育観・教師観の歴史的変遷と現代				山元
第14回	どんな子供を育てたいか、どんなクラスを作りたいか？				山元
第15回	自分自身に即した教師像を求めて―教育の目的と教員の資質				山元

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ ICT教育等を府k無
	○				

担当教員の実務経験と授業の関連			
事前学習	各講義の終わりに次回の内容についての事前学習について触れる。	学習合計時間(h)	30
事後学習	講義中に参考図書等の紹介で示すほか、オフィスアワー等で関連事項や発展的内容について伝える。	学習合計時間(h)	30
課題に対するフィードバックの方法	各講義や定期試験の事後学習支援の一環として、オフィスアワーを利用して個別に対応する。		
質問・相談方法	講義の終了後に来談学生に対してオフィスアワーの対応時間を調整する。		
オフィスアワー	水曜日、木曜日を除く15:00～17:00（西館4階406号室）。要事前連絡（連絡方法は初回の講義で伝える）。		

テキスト	『幼稚園教育要領』、『小学校学習指導要領』（文部科学省編）
参考文献等	
成績評価基準	レポートが「授業の到達目標」を満たしていること。
成績評価の方法	最終レポート（100%）
GPA基準	
備考	

科目名	情報機器演習		科目ナンバー	S21114
担当者	青木 俊介			
科目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目			
施工規則に定める科目区分 または事項等	情報機器の操作			
授業形式	演習			
配当年次	1	科目群	専門科目 [関連科目]	
開講期	前期	卒業の選択・必修	選択	
単位数	2	担当形態	単独	
免許・資格情報	必修：栄教免 選択：栄養士			

授業の概要	コンピュータとインターネットの役割を理解していることが当然の世の中になっている。さらに、携帯端末で音楽を楽しんだり、写真を撮ったり、コンピュータと連携し使用できる情報メディアも多様化し、急速に普及している。このような現在においてコンピュータを活用する基礎を固め、仕事や生活に情報機器を活用できることを目指す。			
授業の到達目標	1. I C Tの基本的な操作技術を習得する2. インターネットを理解し活用できるようになる3. コンピュータを仕事や生活の道具として活用できるようになる			
ディプロマポリシー(DP)	1 食物・栄養に必要な専門性 健康の基盤となる食物と栄養に関する専門的な知識と技能を修得し、時代と社会の要請に応える力を有する。	2 課題解決能力 修得した食に関する知識と技能を活かし、地域や現代社会の食に関わる身近な課題を見出し、それを解決に導くために求められる能力を有する。	3 豊かな人間性 食に関する幅広い知識・興味・関心に基づき、人が健全な食生活を送るために、他者と目的を共有し、協働できるように自らを高めることができる。	—
DPとの関連	○			
※関連するDP番号に○（複数可）、最も関連部会DP番号は◎（1か所のみ）				

授業計画		担当者
第1回	オリエンテーション～情報機器とは	青木
第2回	キーボード練習	青木
第3回	ブラウザを使おう～ネット検索のコツ	青木
第4回	電子メールを使おう	青木
第5回	Wordを使ってみよう(1)	青木
第6回	Wordを使ってみよう(2)	青木
第7回	Wordを使ってみよう(3)	青木
第8回	Excelを使ってみよう(1)	青木
第9回	Excelを使ってみよう(2)	青木
第10回	PowerPointを使ってみよう(1)	青木
第11回	PowerPointを使ってみよう(2)	青木
第12回	行事イベントポスターを作ろう	青木
第13回	オンライン会議を体験しよう	青木
第14回	情報セキュリティについて知ろう	青木
第15回	メディアリテラシー	青木

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ ICT教育等を府k無
	○	○	○	○	○

担当教員の実務経験と授業の関連			
事前学習	・各回の内容について、これまでに身につけている知識や操作を確認し、必要に応じて事前に調べたり、練習したりしておく。	学習合計時間(h)	30
事後学習	・復習し、理解や操作の習得が十分でなかった場合、受講者相互で教え合ったり、教員へ質問したりする。・最終課題のために総復習をする。	学習合計時間(h)	30
課題に対するフィードバックの方法	・毎回の振り返りについてのフィードバックは、次の時間に全体で行う。個別に対応が必要な場合、授業支援ツールでの連絡やオフィスアワーを利用する。		
質問・相談方法	・授業の前後やオフィスアワー、授業支援ツールの連絡機能で対応する。		
オフィスアワー	水曜、木曜のお昼休み(12:20-13:16)		

テキスト	特になし
参考文献等	『30時間でマスター Office2021』 実教出版企画開発部 実教出版 2022年 1045円（税抜き） ISBN978-4-407-35937-4『学校教育と情報機器』 堀田博史・森田健宏 ミネルヴァ書房 2018年 2200円（税抜き） ISBN978-4-623-081081-3
成績評価基準	・コンピュータとネットワークの仕組みを知ること ・セキュリティに配慮した電子情報や代表的なアプリケーション及び機器の利用法を身につけること
成績評価の方法	授業内課題や提出物(100%)で総合的に判断する。
GPA基準	
備考	・課題は授業支援ツールを用いて提出すること（提出の仕方は授業で説明を行う）・コンピュータを持参する

科目名	教育原理		科目ナンバー	S21111
担当者	山元 有一			
科目	教育の基礎的理解に関する科目			
施工規則に定める科目区分 または事項等	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想			
授業形式	講義			
配当年次	1	科目群	栄養教諭関連科目	
開講期	前期	卒業の選択・必修	—	
単位数	2	担当形態	単独	
免許・資格情報	必修：栄養教			

授業の概要	まず「教育とは何か？」を様々な観点から考え、ついで教育史から現代の教育の動向の必然性や課題を探索。同時に、過去の教育（学）者からもこの問いに向かうことになる。これらを通して、教育の理念、目的について学ぶ。			
授業の到達目標	・教育の基本的な考え方の理解 ・教育史の把握 ・教育制度の全般的理解			
ディプロマポリシー (DP)	1 食物・栄養に必要な専門性 健康の基盤となる食物と栄養に関する専門的な知識と技能を修得し、時代と社会の要請に応える力を有する。	2 課題解決能力 修得した食に関する知識と技能を活かし、地域や現代社会の食に関わる身近な課題を見出し、それを解決に導くために求められる能力を有する。	3 豊かな人間性 食に関する幅広い知識・興味・関心に基づき、人が健全な食生活を送るために、他者と目的を共有し、協働できるように自らを高めることができる。	—
DPとの関連			○	
※関連するDP番号に○（複数可）、最も関連部会DP番号は◎（1か所のみ）				

授業計画			担当者
第1回	教育と個々人—成長の援助と覚醒としての教育「		山元
第2回	教育と地域・社会—有意義な社会の再生産としての教育		山元
第3回	教育と文化あるいは異文化—文化の伝承と増殖としての教育		山元
第4回	児童中心主義の理念—その誕生の経緯と内容、課題		山元
第5回	近代家族の成立と学校—公教育制度の成立と世代の明確化		山元
第6回	ソクラテス・ルソー・フレーベル—産婆術、消極教育、「子どもから」		山元
第7回	ペスタロッチの「生活が陶冶する」—生活を前提とした合科教授の考え方		山元
第8回	デューと「民主主義と教育」—現代日本の学校の理念と歴史		山元
第9回	現代教育の課題（その1）—少子化、遊び集団・学習集団の縮小化		山元
第10回	現代の教育課題（その2）—社会問題としてのいじめ（ネット化も含めて）		山元
第11回	現代の教育課題（その3）—家庭問題としての虐待（歴史的事例も含めて）		山元
第12回	子どもと教育目標としての自立・自律—物語等に見る成長課題としての自立		山元
第13回	子供の成長と教育計画—意図的教育と非意図的教育		山元
第14回	子どもの成長と教員の人格—「なるべきものになっていること」		山元
第15回	将来的にあるべき教育と学校の姿—国際化（社会化）と個性化		山元

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ ICT教育等を府k無
	○				

担当教員の実務経験と授業の関連				
事前学習	各講義の終わりに次回の内容についての事前学習について触れる。また、事後学習については講義中に参考図書等の紹介で示すほか、オフィスアワー等で関連事項や発展的内容について伝えるつもりでい			学習合計時間(h) 30
事後学習	各講義の終わりに次回の内容についての事前学習について触れる。また、事後学習については講義中に参考図書等の紹介で示すほか、オフィスアワー等で関連事項や発展的内容について伝えるつもりでい			学習合計時間(h) 30
課題に対するフィードバックの方法	各講義や定期試験の事後学習支援の一環として、オフィスアワーを利用して個別に対応する。			
質問・相談方法	講義の終了後に来談学生に対してオフィスアワーの対応時間を調整する。			
オフィスアワー	水曜日、木曜日を除く15:00～17:00（西館4階406号室）。要事前連絡（連絡方法は初回の講義で伝える）。			

テキスト	特に使用しない
参考文献等	『経験と教育』ジョン・デューイ 講談社『学術文庫、『学校と社会』 ジョン・デューイ 岩波文庫、そのほか、授業計画に挙げられている教育学者の著作（文庫で入手可能）。
成績評価基準	定期試験が上記の「授業の到達目標」を満たしていること。
成績評価の方法	定期試験（100%）
GPA基準	
備考	

科目名	教育制度論			科目ナンバー	S23201
担当者	田口 康明				
科目	教育の基礎的理解に関する科目				
施工規則に定める科目区分または事項等	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）				
授業形式	講義				
配当年次	カリキュラムにより異なります。			科目群	栄養教諭関連科目
開講期	後期			卒業の選択・必修	—
単位数	2			担当形態	単独
免許・資格情報	必修：栄養教				

授業の概要	・公教育の位相は時代・社会とともに変化しうる事実を、戦前戦後のわが国統治構造および公教育関係法令との対比において検証する。 ・立憲主義理念に依拠した現代公教育の規範的特質を抽出するとともに、時事的教育問題を適宜取り上げ、今日の公教育に求められる機能・役割を考察する。			
授業の到達目標	・近代公教育成立の社会背景を知り、その基本的枠組みについて理解している。 ・現行日本国憲法下の公教育制度の特質を、関係主要法令に基づき説明することができる。 ・公教育が直面する諸課題を認識し、課題解決に資する方策提示への視点がえられている。			
ディプロマポリシー (DP)	1 食物・栄養に必要な専門性 健康の基盤となる食物と栄養に関する専門的な知識と技能を修得し、時代と社会の要請に応える力を有する。	2 課題解決能力 修得した食に関する知識と技能を活かし、地域や現代社会の食に関わる身近な課題を見出し、それを解決に導くために求められる能力を有する。	3 豊かな人間性 食に関する幅広い知識・興味・関心に基づき、人が健全な食生活を送るために、他者と目的を共有し、協働できるように自らを高めることができる。	—
DPとの関連	○			
※関連するDP番号に○（複数可）、最も関連部会DP番号は◎（1か所のみ）				

授業計画		担当者
第1回	公教育の成立－諸外国の事例－	田口
第2回	わが国公教育の創出－明治前期の学校教育－	田口
第3回	教育勅語体制－戦前日本の公教育像－	田口
第4回	日本国憲法と教育基本法	田口
第5回	改正教育基本法（1）－改正の社会的・政治的背景－	田口
第6回	改正教育基本法（2）－その特徴と課題－	田口
第7回	学校制度の基本－学校教育法を軸に－	田口
第8回	教員養成および教員研修制度－教育職員免許法・教育公務員特例法を軸に－	田口
第9回	初等中等教育行政と教育委員会制度－地教行法を軸に－	田口
第10回	教育政策の決定過程－政党政治と文科省－	田口
第11回	学校と地域社会－近年の動静と連携制度－	田口
第12回	学校事故・事件の実相	田口
第13回	学校危機管理への視座－関連法制および取組の実際（討論）－	田口
第14回	現代公教育の課題（1）－「特別の教科」道徳の教授法・伝統日本文化教育論－	田口
第15回	現代公教育の課題（2）－主権者教育の方向性－	田口

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ ICT教育等を府k無
	○				

担当教員の実務経験と授業の関連				
事前学習	・テキストの授業予定箇所を読み込み、不明部分は資料等を検索し調べておくこと。			学習合計時間(h) 30
事後学習	・授業中・後に提示された課題研究に取り組むこと。			学習合計時間(h) 30
課題に対するフィードバックの方法	課題にたいする参考答案例の配布・解説をととし、知識・理解の整理を図る。			
質問・相談方法	授業時間の前後またはオフィスアワーにおいて受付ける。			
オフィスアワー	原則として水曜日 16:30～17:30 研究室（西館414）			

テキスト	『教育の本質と教師の学び』 池田 哲之他著 学文社 2019年 2400円（税別） （ISBN 978 - 4 - 7620 - 2852 - 6）			
参考文献等	・『教育から見る日本の社会と歴史』 八千代出版 2010年 ・『日本人のしつけは衰退したか』 講談社 2008年			
成績評価基準	公教育の本質および制度の理解のうえに、今日の学校教育をめぐる諸課題解決の方策を提示することができる。			
成績評価の方法	定期試験（90％）、受講意欲・態度等（10％）。なお、再試は1回にかぎり実施する。			
G P A 基準				
備考				

科目名	特別支援教育		科目ナンバー	S23202
担当者	池田 京子			
科目	教育の基礎的理解に関する科目			
施工規則に定める科目区分 または事項等	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解			
授業形式	講義			
配当年次	1	科目群	栄養教諭関連科目	
開講期	後期	卒業の選択・必修	—	
単位数	2	担当形態	単独	
免許・資格情報	必修：栄養教諭			

授業の概要	特別な支援を必要とする幼児、児童及び生徒の特性や心身の発達、自立に向けた支援方法などの基本的内容を学ぶ。				
授業の到達目標	特別支援教育に関する基本的理解を深め、特に障害特性等を理解した上で教育に求められる知識を修得することを目的に、以下を到達目標とする。 1 特別支援教育の基本的な考え方が分かる。2 特別な支援を必要とする幼児、児童及び生徒の障害特性や心身の発達、学習上・生活上の課題が理解できる。3 個別の教育的ニーズに対して、学校(教員)、家庭(保護者)、関係機関等と連携しながら、組織的に取り組むために必要な知識や支援方法を理解できる。				
ディプロマポリシー(DP)	1 食物・栄養に必要な専門性 健康の基盤となる食物と栄養に関する専門的な知識と技能を修得し、時代と社会の要請に応える力を有する。	2 課題解決能力 修得した食に関する知識と技能を活かし、地域や現代社会の食に関わる身近な課題を見出し、それを解決に導くために求められる能力を有する。	3 豊かな人間性 食に関する幅広い知識・興味・関心に基づき、人が健全な食生活を送るために、他者と目的を共有し、協働できるように自らを高めることができる。	—	
DPとの関連	○	○	◎		
※関連するDP番号に○(複数可)、最も関連部会DP番号は◎(1か所のみ)					

授業計画			担当者
第1回	特別支援教育の理念と基本的な考え方(教育の歩み等含む)		池田
第2回	特別支援教育の仕組み1【支援体制(校内・地域、特別支援教育コーディネーター等)】		池田
第3回	特別支援教育の仕組み2(インクルーシブ教育システム、合理的配慮等)		池田
第4回	特別支援教育の対象と就学支援のあり方		池田
第5回	発達障害の子どもの理解(発達障害者支援法、定義、LD、ADHD等)		池田
第6回	発達障害のある子どもに対する支援(アセスメント含む)		池田
第7回	知的障害のある子どもの理解と支援(現状、定義、原因、支援)		池田
第8回	個別の指導計画と個別的教育支援計画【概要、作成、(学習指導要領)】		池田
第9回	通常の学級における支援		池田
第10回	通級による指導、自立活動の教育課程上の位置付けと内容		池田
第11回	特別支援学校の教育と対応(障害種、弱視・難聴・知的・言語障害学級等)		池田
第12回	特別支援学校の教育と対応1(学習指導要領と教育課程、視覚障害、聴覚障害)		池田
第13回	特別支援学校の教育と対応2【病弱(身体虚弱)、知的障害、肢体不自由】		池田
第14回	家庭や関係機関との連携(保護者との連携、障害の受容、関係機関との連携)		池田
第15回	特別な教育的ニーズ(背景・現状と課題の理解、貧困、虐待、ヤングケアラー等)		池田

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ ICT教育等を府k無
	○				

担当教員の実務経験と授業の関連	特別支援教育に係る教員経験、教育行政経験、地域活動の実務を活かし、特別支援教育全般を教授する。		
事前学習	教科書の指定されたページまでを熟読し、分からない用語は辞書等で調べておく。	学習合計時間(h)	30
事後学習	毎回の小まとめ用紙を半期(7回)終了後に持ち帰り、振り返りの時間を持ち、最終日には全まとめを持ち帰り、定期試験に臨む。	学習合計時間(h)	30
課題に対するフィードバックの方法	授業終了時に毎回提出する授業のまとめ用紙に課題等の回答を促し、次の授業で回答する。		
質問・相談方法	授業前、授業後で対応する。		
オフィスアワー	授業前、授業後で対応する。		

テキスト	『新訂版 教員になりたい学生のためのテキスト特別支援教育』 京都教育大学教育創生リージョナルセンター機構総合教育臨床センター 相澤雅文 編集 クリエイツかもがわ 1,800円(税別)(ISBN: 978-4-86342-367-1)		
参考文献等	発達障害のある子へのサポート事例集 ケース別発達障害のある子へのサポート事例集		
成績評価基準	到達目標に掲げた項目を理解すること。		
成績評価の方法	授業への参加態度(20%)と期末試験(80%)で総合的に評価する。		
GPA基準			
備考			

科目名	教育の方法・技術		科目ナンバー	S21209
担当者	児玉　むつみ			
科目	道徳、総合的な学習の時間等の内容及び生徒指導、教育相談等に関する科目			
施工規則に定める科目区分 または事項等	教育の方法及び技術(情報機器及び教材の活用を含む。)			
授業形式	講義			
配当年次	1	科目群	栄養教諭関連科目	
開講期	後期	卒業の選択・必修	—	
単位数	1	担当形態	単独	
免許・資格情報	必修：栄養教			

授業の概要	「食に関する指導」の教育方法の観点から、学校教育における栄養教諭の役割と「食に関する指導」の目標・内容について理解させる。また、「食に関する指導」の実践的展開(学習指導案の作成や情報機器・教材を効果的に活用した授業構成)に向けた栄養教諭としての指導力・実践力を修得させる。			
授業の到達目標	1. 栄養教諭の役割及び「食に関する指導」の目標・内容学習評価を理解する 2. 「食に関する指導」の学習指導案を作成し、情報機器・教材を効果的に活用した模擬授業を行うことができる 3. 栄養教諭としての専門的な指導力・実践力を身に付ける			
ディプロマポリシー(DP)	1 食物・栄養に必要な専門性 健康の基盤となる食物と栄養に関する専門的な知識と技能を修得し、時代と社会の要請に応える力を有する。	2 課題解決能力 修得した食に関する知識と技能を活かし、地域や現代社会の食に関わる身近な課題を見出し、それを解決に導くために求められる能力を有する。	3 豊かな人間性 食に関する幅広い知識・興味・関心に基づき、人が健全な食生活を送るために、他者と目的を共有し、協働できるように自らを高めることができる。	—
DPとの関連	◎	○		
※関連するDP番号に○(複数可)、最も関連部会DP番号は◎(1か所のみ)				

授業計画		担当者
第1回	教育方法の基礎的理論	児玉
第2回	主体的・対話的で深い学びを実現する「食に関する指導」	児玉
第3回	「食に関する指導」の全体計画、学習評価	児玉
第4回	「食に関する指導」と子ども・教師・教材	児玉
第5回	「食に関する指導」の授業技術、情報機器の効果的な活用の仕方	児玉
第6回	「食に関する指導」の学習指導案の作成	児玉
第7回	「食に関する指導」の実践的展開1(情報機器・教材を効果的な活用)	児玉
第8回	「食に関する指導」の実践的展開2(模擬授業を行う)ICT活用、グループワークを含む	児玉
第9回	「食に関する指導」の実践的展開3(本講義の総括)	児玉
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ ICT教育等を府k無
		○	○		○

担当教員の実務経験と授業の関連	栄養教諭の実務経験を活かして、学習指導案作成及び模擬授業について教授する。		
事前学習	参考図書を読む。学習指導案の計画・作成の準備模擬授業の準備をすること。	学習合計時間(h)	15
事後学習	模擬授業の振り返りや修正を行うこと。	学習合計時間(h)	15
課題に対するフィードバックの方法	必要に応じて個別に対応を行う。		
質問・相談方法	授業の前後やオフィスパワー等で対応する。		
オフィスパワー	木曜日12：00～13：00 または 金曜日14：30～18：00 研究室(南館1階奥：104号室)		

テキスト	食に関する指導の手引き 第二次改訂版（平成31年3月）文部科学省 小学校学習指導要領(平成29年3月告示) 解説 特別活動編 文部科学省 141円（税抜き） 小学校学習指導要領(平成29年3月告示) 解説 家庭編 文部科学省 95円（税抜き）
参考文献等	小学校学習指導要領 文部科学省 小学校学習指導要領解説 総則編、体育編 文部科学省 栄養教諭を中核としたこれからの学校の食育 文部科学省 食生活食育教材 楽しい食事 つながる食育 文部科学省
成績評価基準	到達目標に掲げた項目を理解し、模擬授業ができたものを合格とする。
成績評価の方法	受講態度(20%)、レポート等の提出状況(40%)、発表等(40%)によって総合的に評価する。
GPA基準	
備考	

科目名	生徒指導			科目ナンバー	S21210
担当者	松元 理恵子				
科目	道徳、総合的な学習の時間等の内容及び生徒指導、教育相談等に関する科目				
施工規則に定める科目区分または事項等	生徒指導の理論及び方法				
授業形式	講義				
配当年次	カリキュラムにより異なります。			科目群	栄養教諭関連科目
開講期	後期			卒業の選択・必修	—
単位数	1			担当形態	単独
免許・資格情報	必修：栄養教諭				

授業の概要	「子どもの生きる力を育てる」という観点より、一人ひとりの子どもが自分の持ち味、個性をいかせる生徒指導の教育的意義と課題について説明する。そして、豊かな自己実現を図る子どもたちを支援するために、組織的に生徒指導をすすめていけるために必要な知識と実践力について学ぶ。			
授業の到達目標	1.人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、社会的資質や行動力を高めることを目指した教育活動であると理解する2. 学習指導と同様に重要な教育活動であることを理解し、実践するための流れを説明できる3. 教職員や関係機関と連携しながら組織的に生徒指導を進めていくために必要な知識・技能や素養を身につける			
ディプロマポリシー(DP)	1 食物・栄養に必要な専門性 健康の基盤となる食物と栄養に関する専門的な知識と技能を修得し、時代と社会の要請に応える力を有する。	2 課題解決能力 修得した食に関する知識と技能を活かし、地域や現代社会の食に関わる身近な課題を見出し、それを解決に導くために求められる能力を有する。	3 豊かな人間性 食に関する幅広い知識・興味・関心に基づき、人が健全な食生活を送るために、他者と目的を共有し、協働できるように自らを高めることができる。	—
DPとの関連	○			
※関連するDP番号に○（複数可）、最も関連部会DP番号は◎（1か所のみ）				

授業計画		担当者
第1回	生徒指導の意義と特質(生徒指導とは何かを学ぶ)	松元
第2回	学校内外の組織体制(学校運営及び関係法令等を学ぶ)	松元
第3回	生徒指導の機能について（集団指導及び個別指導、児童生徒性暴力防止等を学ぶ）	松元
第4回	道徳教育・特別活動における生徒指導の意義と重要性(生活習慣の確立と規範意識について学ぶ)	松元
第5回	子どもの発達プロセス(発達課題に応じた生徒指導について)	松元
第6回	「いじめ」の理解と対応について	松元
第7回	特別な支援、配慮が必要な児童へのかかわりについて	松元
第8回	栄養教諭の生徒指導へのかかわり方について	松元
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ ICT教育等を府k無
		○			

担当教員の実務経験と授業の関連	臨床心理士・公認心理師の実務経験を活かして、心理的援助について教授する。		
事前学習	次の授業でとりあげるテーマについて、授業で配布するレジュメをもとに予習をする	学習合計時間(h)	15
事後学習	レジュメを見ながら復習を行い、授業で配布した資料も参考にしながら自分なりにノートをまとめる	学習合計時間(h)	15
課題に対するフィードバックの方法	課題を課した際に質問について受け付け、授業内でのフィードバック及び求めに応じて個別に対応する。		
質問・相談方法	授業前後やオフィスアワー等に対応する。		
オフィスアワー	火曜日・木曜日 12:05～12:55 研究室(西館305号室)		

テキスト	特になし
参考文献等	教育相談〔第2版〕』 森田 健宏 監修・編著 ミネルヴァ書房 2024年 2,500円(税抜) (ISBN : 9784623096114)
成績評価基準	生徒指導をすすめていくために必要な知識・技能や素養についての理解が達成されたものは合格とする。
成績評価の方法	定期試験(70%)、講義で出した課題(レポート等)の提出状況(30%)で総合的に判定する。
GPA基準	
備考	